

平成27年度 地(知)の拠点整備事業 コミュニティ・キャンパス佐賀 アクティベーション・プロジェクト活動風景



プロジェクトA: 佐賀市中心市街地のエクスカージョン
プロジェクトB: 佐賀市東よか干潟での生物調査
プロジェクトC: 佐賀大学での「健康教室」開催風景
プロジェクトD: 小城市で実施したフットパスイベント

プロジェクトE: 唐津市の離島における医学生の健康講話
プロジェクトF: 鹿島市で開催した環アジア国際セミナー
プロジェクトG: アグリ創生教育研究センターでの視察受け入れ

ご挨拶

平成25年度から本学と西九州大学と共同で推進している文部科学省の地（知）の拠点整備事業「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」では、ほぼ3年間の事業を実施し、ここに平成27年度の報告書としてまとめ、発行することになりました。

本プロジェクトは、地域を志向した教育・研究・社会貢献に力を入れている両大学が佐賀県全域をキャンパスと位置づけ、学生と教職員による実践的な教育・研究を通して地域が直面する課題の解決に向けて一体となって活動し、地域の再生と活性化を図ろうとするものです。従って、本プロジェクトが対象とする地域として、佐賀県及び県内6市1町と密接な連携を取りながら、佐賀大学では、「学生参画による調査・交流・活動を通じた地域創成プログラム」などの7つのプロジェクト、また西九州大学では、「介護（認知症）予防事業に着目したリハビリテーションプログラム」など5つのプロジェクトが進められています。各プロジェクトは、地域と密接な連携を取りながら進められているというのが地（知）の拠点整備事業の特徴です。

本事業の一環として、両大学合同で、COC公開シンポジウム「九州・沖縄シンポジウムIN佐賀2015」を開催し、九州・沖縄地区におけるCOC及びCOC+採択機関等とのネットワーク形成を促進すると同時にNPO法人や一般市民等を含め170名の参加があり、九州・沖縄地区における本事業への理解促進を図ることができました。

平成27年度における佐賀大学プロジェクトの各事業内容・成果は本報告書に記載された通りです。佐賀大学の成果の1つとして、アグリ創生教育研究センターで実施された「キクイモの栽培方法の研究及び機能性の分析・研究」の成果がシンポジウムで報告されました。シンポジウムでは、報告書に記載された成果がパネル展示され、有意義な意見交換がなされました。本事業のミッションである本学学生の研究教育と地域連携に関する事業として、連携する自治体及びNPO団体を含む地域社会が抱える多様な課題の解決に向けた地域志向型の教育研究を、教養教育と学部専門教育（一部大学院教育を含む）において全学的な取り組みを推進することができました。

COC事業及び27年度から強化されたCOC+事業は、国が掲げる地方創生政策のもと「地域の創生と活性化」を推進するために、地方大学に課せられた事業です。本学が佐賀の地における知の拠点として地域社会の発展に寄与し続けることは当然の任務であり、本事業を積極的に進めることが益々重要であると思われれます。学内外の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。次第です。



佐賀大学 理事・副学長
コミュニティ・キャンパス佐賀
運営委員会委員長

門出 政則



目次

Page

■ はじめに

03 ご挨拶

佐賀大学 副学長・理事 門出 政則

05 平成27年度年表

06 ご挨拶

佐賀大学 事業実施責任者 三島 伸雄

■ コミュニティ・キャンパス佐賀

アクティベーション・プロジェクトについて

08 プロジェクト概要

プロジェクトA～G紹介

62 地域志向教育研究経費事業

70 学生の地域における活動拠点

■ シンポジウム・研修会等の記録

72 地(知)の拠点整備事業

九州・沖縄シンポジウム2015 IN 佐賀

73 コミュニティ・キャンパス佐賀

アクティベーション・プロジェクトFD・SD研修会

74 外部評価委員会

■ 広報関係

76 新聞掲載記事

90 資料

94 編集後記

平成27年度 年表

2015年

- 4月10日 第9回コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会、佐賀大学代表者会議
- 5月15日 第9回コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議
- 6月22日 第10回コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会、佐賀大学代表者会議
- 7月24日 第10回コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議
- 8月4日 佐賀大学FD・SD研修会
- 9月29日 第11回コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会、佐賀大学代表者会議
- 9月29日 第11回コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議
- 10月31日 「九州・沖縄シンポジウム IN 佐賀 2015」開催
- 11月2日 信州大学来訪
- 11月24日 第12回コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会、佐賀大学代表者会議
- 12月22日 第12回コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議

2016年

- 1月19日 高知大学来訪
- 2月5日 外部評価委員会
- 3月1日 第13回コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会、佐賀大学代表者会議
- 3月1日 第13回コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議



第10回運営委員会



FD・SD研修会



第11回推進会議



九州・沖縄シンポジウム
IN佐賀 2015

地（知）の拠点整備事業と地方創生



事業実施責任者

三島 伸雄

工学系研究科 教授

本学と永原学園西九州大学の共同申請による文部科学省「地（知）の拠点整備事業—コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト—」は、事業採択から3年を経過しました。今年度、昨年度以上に力を入れたのは、本プロジェクトの採択においても評価されていた両大学の共同事業です。それらを中心に、両大学における地域を志向した教育研究・社会貢献をさらに進化させるべく、サービス・ラーニング（SL）・問題解決型学修（PBL）を重視した教育プログラムなど、地域課題の解決に向けた教育研究の改善に取り組みました。

西九州大学との共同プロジェクトとしては、クイモの栽培方法の確立や6次産業化など地域資源を活用した中山間地域活性化、佐賀市中心部の活性化をにらんだサガ・ライトファンタジーへの共同参画などを積極的に行いました。地域自体とその活性化を学び意識させるべく、共同で取り組めるようにプロジェクトのすり合わせを行った結果、学生たちも相互のことを意識するようになりました。無論、課題も多く見付き、学生相互のジェネリック・スキルや専門力の相違、所属大学が異なることからくる距離感など、簡単ではない部分も教員として実感することができました。

一方で、本学においては、学生を地域に連れ出して学ばせる地域志向科目を昨年以上に取り組みました。時間や移動手段の確保にも苦労しましたが、土日や休暇中の時間を活用しながら、学外授業を行いました。地域を実感して、学生たちの地域に対する思いや意識は着実に向上していると思います。

しかしながら、今後の課題もまだ残っています。昨年度からの課題ではありますが、本事業による効果の評価手法の開発です。具体的には、学生の学びと成長に対する教育効果、地域貢献に対する行政や住民からの評価の把握を行う必要があります。学生は地域を意識するようになってきたと言えますが、それによって何がどの程度変わったのかを把握する必要があります。一方で、住民や行政は、大学の地域創生への参画に何を期待しているのか、大学はその期待に応えているのかを把握する必要があります。

最後になりましたが、本事業の企画・推進に際して、ご協力いただいた学内の教職員、西九州大学・関連自治体、そして「場の教育」にご協力頂いた地域住民の方々に、お礼申し上げます。次年度以降も、学生教育と地域課題解決に向けた取り組みを推進しますので、さらなるご支援とご協力をお願いします。

コミュニティ・キャンパス佐賀 アクティベーション・ プロジェクトについて

プロジェクト概要	8～13
プロジェクトA	14～21
プロジェクトB	22～29
プロジェクトC	30～33
プロジェクトD	34～41
プロジェクトE	42～47
プロジェクトF	48～55
プロジェクトG	56～61

プロジェクト概要

コミュニティ・キャンパス佐賀 アクティベーション・プロジェクトとは

佐賀大学と西九州大学は、佐賀県全域をキャンパスと位置づけ、学生・教職員による実践的な教育・研究を通して、地（佐賀県域）と知（教育研究）のアクティベーション（活性化）を進めることで、佐賀の地における知の拠点としての機能を強化します。

このプロジェクトは、佐賀県、佐賀市、唐津市、鹿島市、小城市、嬉野市、神埼市、吉野ヶ里町の1県6市1町と連携し、両大学とも地域での学修機会を増加させる教育カリキュラムの改革を行い、事業の実効性と持続性のある全学的なプロジェクトとして推進します。

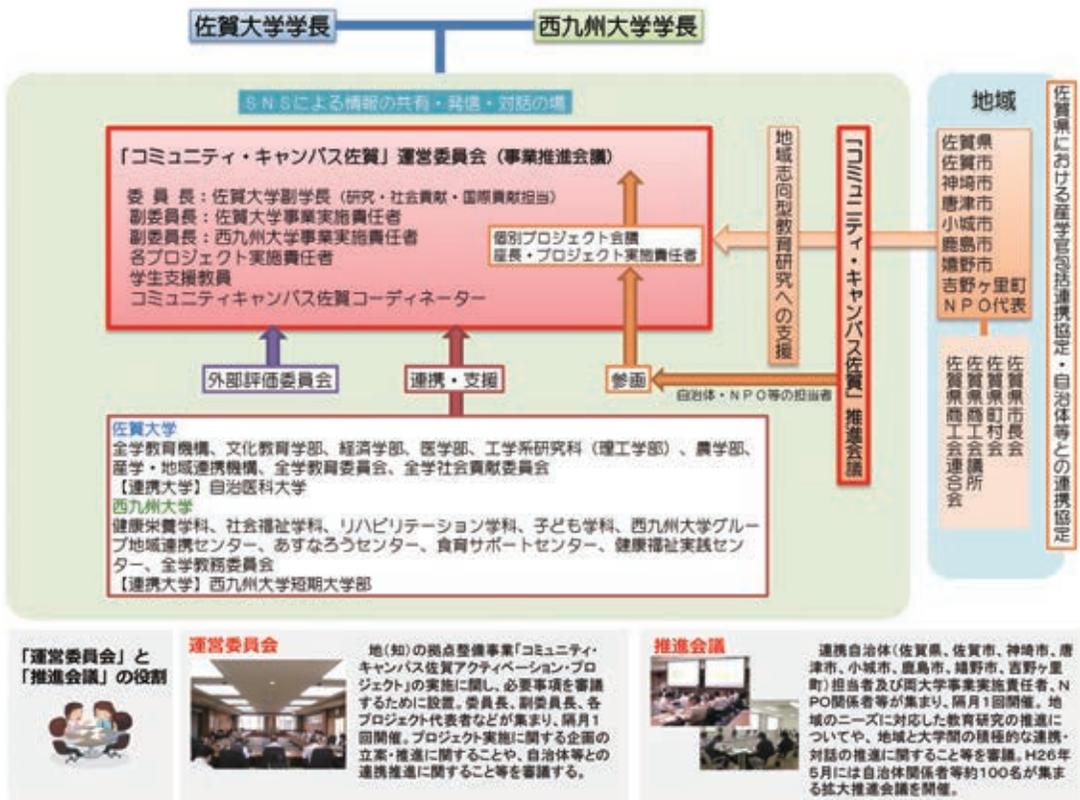
図1 佐賀大学・西九州大学によるコミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト事業一覧と連携自治体



事業推進体制

佐賀大学と西九州大学の連携強化のため、各大学の事業実施責任者及びプロジェクト代表等が集まる「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト運営委員会」を設置し、隔月1回程度、プロジェクト実施に関する企画の立案と推進や自治体等との連携の推進に関すること等を協議します。また、隔月1回程度、連携自治体の担当者と各大学の事業実施責任者、NPO関係者で「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト推進会議」を開催し、事業の円滑な推進を図ります。

図2 佐賀大学・西九州大学、及び地域連携による推進体制



教養教育の改革

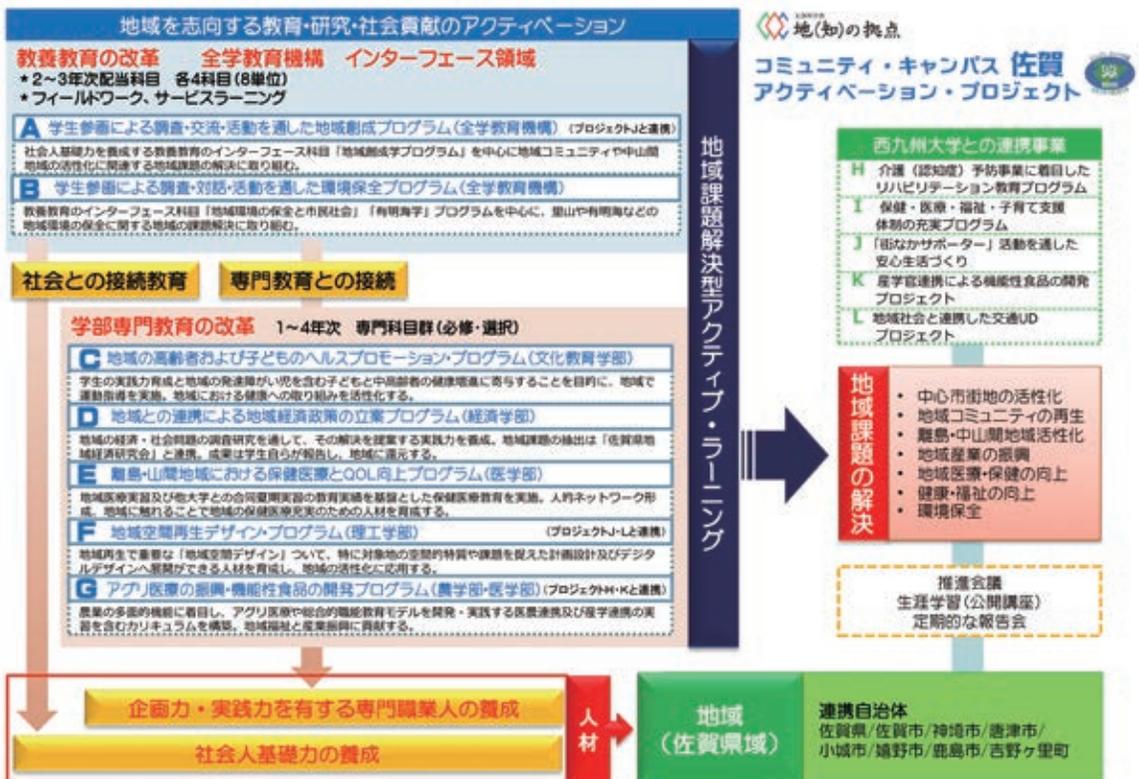
教養教育の改革は、専任教員を配置する全学教育機構（責任部局）が推進する「基礎共通科目・基本教養科目・インターフェース科目」からなる新カリキュラムによるものである。特に、インターフェース教育科目は、社会との接続を目的とする社会人基礎力を養成するプログラムで、アクティブ・ラーニングを基盤にした学生の主体的な学びを推進する。この科目は2～3年次の2年間で4科目（8単位）を履修する（選択必修）もので、5コースからなり、平成26年度より開始した。

インターフェース科目中、本COC事業では「環境コース」と「地域・佐賀学コース」の「有明海学」「地域環境の保全と市民社会」「地域創成学」等を対象とし、フィールドワーク、ボランティア活動を含むサービス・ラーニング及び実習、実験を重視する地域課題解決型のコース科目群に特色を有する（プロジェクトA・B）。これらの科目は、土日祝日等を利用した学外授業で実施する。

学部専門教育（プロジェクトC～G）においては、実習・演習科目を中心とした地域課題解決型の実践的教育を進め、企画力や実践力を有する専門職業人を養成する。

これらは、佐賀大学学士力に基づいた教育として推進する。

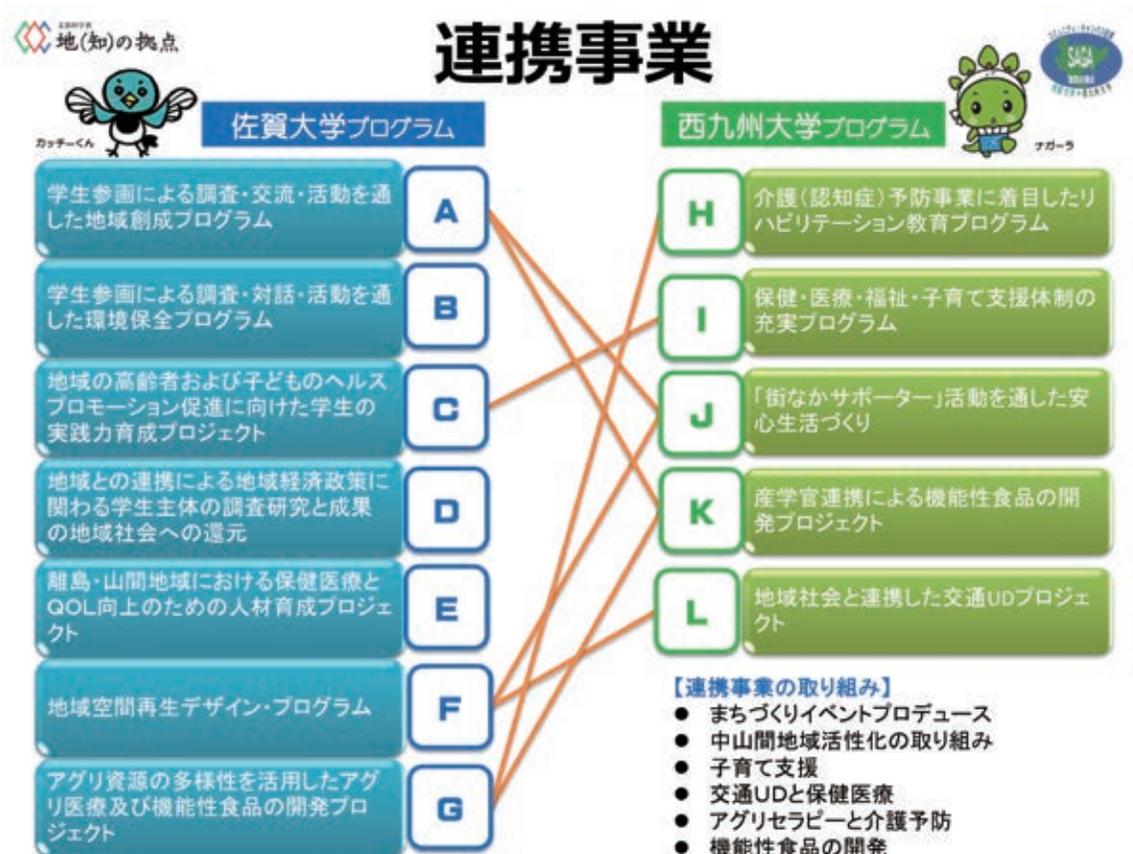
図3 地域課題解決型アクティブ・ラーニングを基盤とする教養教育の改革



佐賀大学・西九州大学、両大学連携事業

今年度は、佐賀大学プロジェクトA・C・F・Gおよび西九州大学プロジェクトH～Lが連携して事業に取り組んだ。佐賀市で5件、嬉野市で1件の計6件の事業に連携して参画し、連携自治体において両大学のシーズを活かした取り組みを実施した。

図4 大学間連携事業概要



佐賀大学の7つのプロジェクト



全12プロジェクト中、佐賀大学ではプロジェクトAからGの7つのプロジェクトを実施しています。

プロジェクト A 学生参画による調査・交流・活動を通じた地域創成プログラム

(連携自治体) 佐賀市、唐津市、鹿島市、嬉野市、
吉野ヶ里町

「中心市街地の活性化」や「離島・山間地域の活性化」「地域コミュニティの再生」を目的に、全学教育機構における教養教育改革の一環として行います。教養教育のインターフェース「地域・佐賀学コース」の「地域創成学」プログラムを基盤に、「文化と共生コース」、「生活と科学コース」、留学生プログラム教育科目、及び学部専門科目との連携によって、地域の活性化を目指します。

代表：五十嵐勉 全学教育機構教授



プロジェクト B 学生参画による調査・対話・活動を通じた環境保全プログラム

(連携自治体) 佐賀県、佐賀市、鹿島市

「地域資源の保全と活用」「有明海の環境保全と活用」を目的に、全学教育機構における教養教育改革の一環として行います。教養教育のインターフェース「環境コース」の「有明海学」「地域環境の保全と市民社会」プログラム、及び「文化と共生コース」の「映像・デジタル表現」プログラムにおいて、主体的な環境学習プログラムを実施・構築します。

代表：郡山益実 全学教育機構准教授

プロジェクト C 地域の高齢者及び子どものヘルスプロモーション促進に向けた学生の実践力育成プロジェクト

(連携自治体) 佐賀県、佐賀市、鹿島市、嬉野市

学生の実践力育成と、地域の発達障がい児を含む子どもと中高齢者の健康増進に寄与することを目的に、文化教育学部の健康スポーツ学講座による地域での運動指導等を行います。地域の子どものから高齢者までを対象にすることで、ヘルスプロモーション能力を底上げし、運動・福祉の側面から、地域の健康への取り組みを活性化します。

代表：井上伸一 文化教育学部教授



プロジェクト D 地域との連携による地域経済政策に関わる学生主体の調査研究と成果の地域社会への還元

(連携自治体) 佐賀県(佐賀地域経済研究会)、
佐賀市、唐津市、小城市

学生自身が、地域の経済問題を調査して課題を見つけ、対策の検討とまとめを行います。地域が抱える課題への対策は、佐賀県下の市部における地域経済政策立案主体からなる「佐賀地域経済研究会」の協力を得ながら行い、その成果は大学の公開講座等で発表して地域に還元します。

代表：戸田順一郎 経済学部准教授



プロジェクト
E

離島・山間地域における保健医療とQOL向上のための人材育成プロジェクト

(連携自治体) 佐賀県、佐賀市、唐津市

地域医療実習及び自治医科大学との合同夏期実習の教育実績を基盤として、全学教育機構や農学部とのプログラムとも連携して保健医療教育を実施。学生同士の交流や将来の人的ネットワークの形成、地域の文化や伝統に直に触れる機会を持つことによる地域貢献意欲の涵養等を行い、地域での保健医療充実のための人材を育成します。

代表：杉岡 隆 医学部教授

プロジェクト
F

地域空間再生デザイン・プログラム

(連携自治体) 佐賀市、鹿島市、小城市、嬉野市

景観や街並み整備等、地域再生において重要な「地域デザイン」。特に地域の空間分析と将来像をわかりやすく伝えられるよう、対象地の空間的特質や課題を捉えた計画設計、及びデジタルデザインへの展開ができる人材(デザインクリエイター)の育成を行います。また、西九州大学のプロジェクトLと連携し、都市のUD(ユニバーサル・デザイン)による再生にも寄与します。

代表：三島伸雄 工学系研究科教授



プロジェクト
G

アグリ資源の多様性を活用したアグリ医療及び機能性食品の開発プロジェクト

(連携自治体) 佐賀市

平成24年度に農学部の新設された附属アグリ創生教育研究センターと医学部、西九州大のプロジェクトH・Kが連携して実施するプログラム。農業の多面的機能に着目して、生き物を通じた医療や総合的食農教育モデルを開発・実践する「医農連携」と、産学連携の実習を含めたカリキュラムです。

代表：上埜喜八
農学部附属アグリ創生教育研究センター准教授



プロジェクト
H

介護(認知症)予防事業に着目したリハビリテーション教育プログラム

(連携自治体) 佐賀市、神崎市、吉野ヶ里町
代表：上城憲司准教授



プロジェクト
I

保健・医療・福祉・子育て支援体制の充実プログラム

(連携自治体) 神崎市、小城市
代表：梶田晃良教授



プロジェクト
J

「街なかサポーター」活動を通じた安心生活づくり

(連携自治体) 佐賀市、小城市
代表：岡部由紀夫講師



プロジェクト
K

産学官連携による機能性食品の開発プロジェクト

(連携自治体) 佐賀市、唐津市、神崎市、小城市、嬉野市、吉野ヶ里町
代表：安田みどり教授



プロジェクト
L

地域住民と連携した交通UDプロジェクト

(連携自治体) 佐賀市、小城市、神崎市
代表：酒井出教授



【★マーク】は佐賀大学と西九州大学が連携するプロジェクトです。

学生参画による調査・交流・活動を通じた 地域創成プログラム



離島合宿でのワークショップ

■ I.プログラムの概要

■事業実施主体：全学教育機構

■連携部局：文化教育学部人間環境課程、工学系研究科都市工学専攻、医学部地域医療支援学講座、農学部生物環境科学科地域社会開発学コース



実施代表者
五十嵐 勉
(全学教育機構・教授)

■取り組む地域課題：

- ・中心市街地の活性化
- ・離島のQOL向上
- ・中山間地域の活性化
- ・地域コミュニティの活性化

■連携プロジェクト：B、E、F、J

■連携自治体等：佐賀市、唐津市、鹿島市、嬉野市、吉野ヶ里町、NPO法人まちづくり機構ユマニテさが、認定NPO法人地球市民の会、NPO法人蕨野の棚田を守ろう会等

■教育カリキュラム：

- ・全学教育機構「インターフェース科目」におけるPBL／SL型フィールドワーク、community-based learning
- ・インターフェース「地域・佐賀学コース」：地域創成学プログラム
- 「文化と共生コース」：映像・デジタル表現プログラム
- 「生活と科学コース」：アントレプレナーシッププログラム
- ・学部間共通教育科目
留学生プログラム教育科目 (SpaceE) :日本事情研修

■主なPBL・SL型教育の地域とテーマ (自治体別)

佐賀市

- ・サテライト「ゆつつら〜と館」を利用した世代間交流、イベントプロデュースの企画と実践：地域コミュニティ組織 (まちづくり協議会) への参画による校区「夢プラン」の企画・実施の支援
- ・中山間地域における耕作放棄地の抑止・活用のための「参加型農地管理」のビジネスプラン、「村おこし」イベント等イベントプロデュースの企画・実践

唐津市

- ・離島における地域資源の発掘とその活用
- ・蕨野の棚田保全活動の企画・支援、フットパス・ツーリズム振興

鹿島市

- ・ニューツーリズム振興の企画・支援

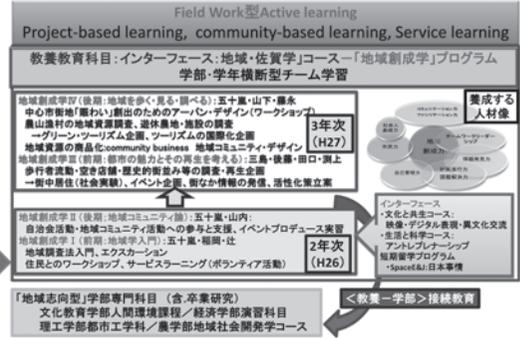
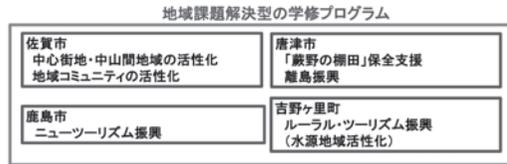
吉野ヶ里町

- ・国際ルールツーリズムの企画・支援

プログラムの目的と方法

全学教育機構における教養教育インターフェース領域－地域創成学プログラム(4科目8単位)－を核として、「地域の再生や活性化」に関わる地域課題解決型の教育プログラムを実施しています。

学部専門教育への接続と社会人基礎力の養成による社会との接続を目指しています。



■ 中山間地域の活性化に関する調査・交流・活動



佐賀市大和町での「干し柿の里活性化プロジェクト」

佐賀市大和町の地域資源「柿」を活用した地域活性化に取り組んでいます。地域の柿生産者の方が講師となった勉強会では、地区に伝わる柿の栽培方法、品種、加工方法、歴史などを学びました。さらに調査を重ねて、地域の方々と交流を深めつつ、柿を活用した地域活性化イベントプロデュースに向け活動しています。

■ 離島における地域資源の発掘とその活用



唐津市肥前町向島(むくしま)において農学部2年生が「フィールドワーク基礎演習」合宿を実施。2泊3日の滞りで、島内エクスカージョンや島民とのワークショップ、奉仕活動を通して、離島地域の魅力や島の資源とともに課題を発見し解決方法を模索しました。今後の研究課題選定につながる合宿となりました。



唐津市肥前町向島での2泊3日の合宿

今後の活動

- ・インターフェース「地域創成学」を主とした持続的な地域活性化
- ・中山間地域、離島地域におけるイベントプロデュース
- ・国際ルーラルツーリズム振興の企画や支援

■ 農山村の農業施設を活用した地域活性化の取り組み



嬉野市塩田町「豊ふあー夢」を中心とした地域活性化の取り組み

嬉野市塩田町の農業体験施設「豊ふあー夢」を中心として、地域の方々や地域活性化に取り組んでいます。この取り組みは活動場所を自分たちで整備することから始まりました。「農」を活用したイベントを11月29日(日)に開催します。

■ 地域の歴史を活用した国際交流イベントプロデュース



唐津市七山における地域活性化の取り組み

唐津市七山の海の観音に祈祷して眼病が治ったという「広沢局」の言い伝えをもとに国際交流イベントをプロデュース。11/22(日)に「国際局の交流祭」を開催し、高齢化や過疎化が進行する地域をさらに盛り上げ、また、冬期の観光客減少の解消を目指します。留学生が中心となってイベントを支援することで、異文化交流や都市との交流人口の増加につなげます。「歴史」という地域資源を活用したイベントです。

■ 中心市街地の活性化活動

佐賀市中心市街地では、「地域創成学Ⅰ」を受講する学生が「国際ゲストハウスづくり」「高齢者のまちなかでの居場所づくり」「佐賀県北地区でのイベント支援」の3つのグループに分かれて活動をしています。

イベント支援グループは「ふれあいフェスタ2015」(11/8開催)の企画・運営にも関わっています。



授業では課題にどう取り組むかわorkshopで案を出し合う

■ II.平成27年度の活動

佐賀市：

■市民活動団体支援の取り組み

「6/18-19 チカラットパネル展」

全学教育機構 インターフェース科目

・地域創成学I (40名)

・地域環境の保全と市民社会I (15名)

連携団体：

NPO法人佐賀県CSO推進機構

活動内容：

佐賀市の市民活動団体応援制度「チカラット」のパネル展、投票を学内で開催。佐賀市に住居票がある18歳以上が投票した。佐賀大学学生サークル「Green-Nexus」も参加し投票を呼び掛けた。

成果（学生教育の観点から）：

佐賀市の市民活動団体の概要や活動内容を知ることができた。投票総数は92票となった。



チカラットパネル展投票所

■高齢者のまちなかでの居場所づくり

「①6/19 「地域創成学I」(まち班)「ゆつつら～と街角大学I」②10/16、10/30、11/13 「ゆつつら～と街角大学I」ワークショップ(全3回)③12/3 干し柿の里ウォーク」

①全学教育機構 インターフェース科目

・地域創成学I (6名)

②全学教育機構 インターフェース科目

・地域創成学II (6名)

③全学教育機構 インターフェース科目

・地域創成学II (6名)



佐賀市中心市街地を見学

連携団体：

NPO法人まちづくり機構ユマニテさが

活動内容：

①大学主催の公開講座においてNPO法人の方を講師に迎え、佐賀市中心市街地の活性化の取り組みについて講義を受講した。また、実際に市街地に足を運び現状を学んだ。

②佐賀大学公開講座「ゆつつら～と街角大学I」での受講生とのワークショップを基に高齢者のニーズを検証した。

③「ゆつつら～と街角大学I」の受講者とともにイベントに参加し、高齢者のニーズを検証した。

成果（学生教育の観点から）：

中心市街地と高齢者を結び付けて活性化を目指すことで、中心市街地の現状理解と高齢者のニーズの把握に積極的に取り組むことができた。また、試験段階ではあるが、実際のイベントや教室実施につなげることができた。

■佐賀駅北地区活性化プロジェクト

「①9/18、10/6、10/21 ふれあい町づくり実行委員会 ②1/17 「ふれあいフェスタ2015」開催」

①全学教育機構 インターフェース科目

・地域創成学I・II (9名)

②全学教育機構 インターフェース科目

・地域創成学II (9名)

連携団体：ふれあい町づくり実行委員会

活動内容：

- ①佐賀駅北地区活性化を目的としたイベント「ふれあいフェスタ2015」の企画会議を行うふれあい町づくり実行委員会に参加した。
- ②当初11/18に開催予定であったイベントが雨天中止となったため、会場を変更して1/17に実施されたイベントにおいて、運営補助を行った。

成果（学生教育の観点から）：

地域活性化を目指したイベントの企画・運営に参加することで、開催地区住民との交流ができた。また、イベント開催の流れを学んだ。

■「街なかおそとリビング計画」への参画

「①11/29、12/13 656（むつごろう）広場でワークショップ開催 ②2/11 656（むつごろう）広場オープニングイベントへの参加」

- ①全学教育機構 インターフェース科目
・地域創成学II（3名）
・地域創成学IV（2名）
- ②全学教育機構 インターフェース科目
・地域創成学II（2名）
・地域創成学IV（2名）

連携団体：NPO法人まちづくり機構ユマニテさが

活動内容：

- ①656広場を居心地のいい空間にリニューアルするために開催されたワークショップに参加し、モビールハウスやイス、テーブルなどを制作した。
- ②「656広場リニューアルセレモニー」へ参加した。



まちなかで開催したワークショップに参加

成果（学生教育の観点から）：

まちなかの現状について理解するとともに、中心市街地活性化の取り組みについて体験を通して学ぶことができた。

■佐賀市まちなかゲストハウス計画

「①10/28 認定NPO法人「地球市民の会」担当者への聞き取り ②12月～1月 ゲストハウスアンケート調査」

- ①全学教育機構 インターフェース科目
・地域創成学II（5名）
- ②全学教育機構 インターフェース科目
・地域創成学II（5名）

連携団体：認定NPO法人「地球市民の会」

活動内容：

- ①佐賀市においてゲストハウス建設を予定している認定NPO法人地球市民の会の担当者に聞き取り調査を行い、現状や課題などを伺った。
- ②九州におけるゲストハウスの現状把握のため郵送でアンケート調査を実施した。

成果（学生教育の観点から）：

佐賀市内の現状の理解と、九州圏内のゲストハウス調査によって、佐賀市内にゲストハウス設置をするにあたり取り組むべき課題を発見することができた。

■松梅地区活性化 干し柿プロジェクト

「①9/1 松梅地区・干し柿プロジェクト講義 ②11/19佐賀市大和町で柿狩り ③12/2 干し柿の里ウォーク」

- ①農学部 生物環境科学科
・地域資源学研究室（4名）
- ②農学部 生物環境科学科
・環境地理学（15名）
・地域資源学研究室（1名）
- ③農学部 生物環境科学科
・地域資源学研究室（3名）

連携団体：

湛然の里と葉隠の会、道の駅大和そよかぜ館



干し柿作りのための柿狩りに参加

活動内容：

- ①地元の柿農家に、佐賀市大和町松梅地区における柿栽培の歴史や品種、加工等についての聞き取りと柿園見学。
- ②「道の駅大和そよかぜ館」が管理する柿園で柿狩りを行った。
- ③九州グリーンツーリズムの一環で実施された、佐賀市大和町松梅地区における干し柿の里ウォークに参加した。

成果（学生教育の観点から）：

佐賀市大和町松梅地区における柿産業の継続と伝統継承のために、品質の向上や6次産業化、ブランド化によってさらなる需要拡大につながるよう企画案を作成した。

唐津市：

■向島におけるフィールドワーク演習

「8/20-22 唐津市肥前町向島における離島合宿」

農学部 生物環境科学科地域社会開発学コース

・フィールドワーク基礎演習（17名）

農学部 生物環境科学科

・地域資源学研究室（4名）

活動内容：

唐津の7つの離島のひとつ向島（むくしま）で2泊3日の「フィールドワーク基礎演習」合宿を行い、島内エクスカージョンや島民と学生のワークショップ・交流会、除草作業や海岸清掃などの奉仕活動を実施した。



ウコの殻むきや選定作業を手伝う

成果（学生教育の観点から）：

実際に離島で過ごすことで、その魅力や課題について理解が深まった。また、研究分野への関心を高めるきっかけとなった。

■七山滝川地区の地域資源を活用した地域活性化事業

「①7/5 唐津市七山地区訪問・イベント打ち合わせ

②11/21~22 「国際局（つばね）の交流祭」開催準備補助及び運営支援 ③12/20 「国際局（つばね）の交流祭」反省会及び研修会」

①農学部 生物環境科学科

・地域資源学研究室（1名）

②全学教育機構 学部間共通教育科目留学生プログラム教育科目

・日本事情研修A（SpaceE）（15名）

農学部 生物環境科学科

・地域資源学研究室（2名）

③農学部 生物環境科学科

・地域資源学研究室（1名）

連携団体：唐津市七山滝川地区

活動内容：

①唐津市七山地区のエクスカージョンと地域資源を活用したイベント開催の打ち合わせを行った。

②1泊2日で唐津市七山地区において国際交流イベント「国際局（つばね）の交流祭」の開催準備と当日支援を行った。イベント開催前夜には、地元住民と留学生との交流会を開催。留学生は地



イベントに参加した留学生

元住民宅でホームステイを体験した。

- ③「国際局（つばね）の交流祭」反省会及び研修会を行い、今後の活動予定について打ち合わせを行った。

成果（学生教育の観点から）：

留学生はイベント前夜からの地区でのエクスカーションや交流祭、ホームステイなどを通して、日本の中山間地域の現状を学んだ。また、受け入れ側の地区住民は留学生との交流を通して他国の文化を学び、より深い異文化交流イベントを開催することができた。

■唐津市相知町蕨野地区での棚田保全活動

「10/4 「蕨野の棚田 2015ふるさとの灯りコンサート」の実施」

農学部 生物環境科学科

・地域資源学研究室（14名）

連携団体：唐津市七山滝川地区

活動内容：

唐津市相知町蕨野地区において、NPO法人蕨野の棚田を守ろう会と連携し棚田を活用したコンサートを実施した。

成果（学生教育の観点から）：

中山間地域でのイベント開催の会場設営や運営に携わることで、その現状や課題について理解を深めた。また、イベント開催の流れを理解することができた。



蕨野の棚田2015ふるさとの灯りコンサート

嬉野市：

■豊ふぁー夢を拠点とした地域活性化プロジェクト

- 「①5/23 「豊ふぁー夢」視察・打合せ、②7/4 地域創成学I（むら班）による「豊ふぁー夢」視察、③10/17 地域活性化イベント打ち合せ、④11/15 イベント準備と打ち合わせ、⑤11/28-29 イベント開催」

全学教育機構 インターフェース科目

・地域創成学I・II（18名）

農学部 生物環境科学科

・地域資源学研究室（4名）

連携団体：久間地区振興会、豊ふぁー夢、げんき畑

活動内容：

豊ふぁー夢を拠点にした都市との交流や援農等での地域活性化を目的とした活動を実施。

- ①豊ふぁー夢の施設概要と歴史について学ぶ。活動拠点としての施設整備。②施設の活用方法の検討やイベントの企画検討。③地域活性化イベントの打ち合わせ。④地域活性化イベント開催のため、看板やテーブル、竹を利用した器づくりなど準備。⑤地域活性化イベント「久間地区収穫祭」開催のため、イベント前日から会場準備や体験教室での指導方法を学び、当日のイベント運営を支援。

成果（学生教育の観点から）：

地域活性化のための拠点づくりに携わり地域住民との交流するなかで、地域についての理解を深めた。また、イベントの企画・運営に携わり、チームワークの重要性やリーダーシップを学んだ。

■ III. 授業科目・担当者一覧

■ 関連するインターフェース科目

「地域・佐賀学コース」-「地域創成学」プログラム

・地域創成学Ⅰ
五十嵐勉(全学教育機構)、稲岡 司・辻 一成
(農学部)

・地域創成学Ⅱ
五十嵐勉・山内一祥(全学教育機構)
・地域創成学Ⅲ
三島伸雄・後藤隆太郎・淵上貴由樹・田口陽子
(工学系研究科)、五十嵐勉(全学教育機構)

・地域創成学Ⅳ
五十嵐勉(全学教育機構)、山下宗利・藤永 豪
(文化教育学部)

・「文化と共生コース」-「映像・デジタル表現」プログラム

穂屋下茂(全学教育機構)

・「生活と科学コース」-「アントレプレナーシップ」プログラム

松前あかね 他

■ 関連する共通専門基礎科目

「留学生プログラム教育科目(SpaceE)」

・日本事情研修A
古賀弘毅・丹羽順子(全学教育機構)

■ 関連する主な学部専門科目

文化教育学部

・地理学フィールド実習(山下宗利)
・集落実地調査(藤永 豪)

理工学部

・建築デザイン手法(三島伸雄他)
・卒業制作(三島伸雄他)

農学部

・フィールドワーク基礎演習(辻 一成他)
・農村開発学(五十嵐勉)
・国際農村保健学(稲岡 司)
・半島島嶼産業論(小林恒夫)
・観光人類学(中井信介)
・地域ビジネス開発学演習Ⅰ・Ⅱ(辻 一成・白武

義治)

・人類生態学演習Ⅰ・Ⅱ(稲岡 司・藤村美穂)
・地域資源学演習Ⅰ・Ⅱ(中井信介・五十嵐勉)
・卒業研究

■ IV. 関連する主な教育・研究・社会 貢献業績

<教員>

(論文等)

・五十嵐 勉・畑中 寛:人口減少社会における地方公共交通の改善-佐賀市におけるデマンド・タクシーを事例に、海峡圏研究15、159-173頁、2015

・五十嵐 勉:全国棚田(千枚田)サミットin玄海町第1分科会(棚田保全の必要性)報告、ライステラス70、2015.12

(講演等)

・五十嵐 勉(講演):これからの町づくりに必要なこと、佐賀市川副町西川副校区まちづくり協議会、2015.4.26

・五十嵐 勉(講演):佐賀市ならではのグリーンツーリズムの振興を目指して、佐賀市グリーンツーリズム推進協議会、2015.4.28

・五十嵐 勉(講演):地域の成り立ちと防災を考える-「舩(もやい)結び」のコミュニティづくり、佐賀市川副町南川副校区まちづくり協議会、2015.5.10

・五十嵐 勉(講演):協働によるまちづくりを支援する、小城市役所職員研修、2015.5.15

・五十嵐 勉(講演):私の地方創生論(全5回)、佐賀大学公開講座「ゆつつら〜と街角大学Ⅰ」、2015.10~12月

・五十嵐 勉(講演):地域デビューの意義(全2回)、佐賀大学公開講座「地域デビュー準備編」、2015.10~12月

・五十嵐 勉(パネルディスカッション・オーガナイザー):全国棚田(千枚田)サミットin玄海町 第1分科会:棚田保全の必要性、2015.10.23

・五十嵐 勉(パネルディスカッション・オーガナ

イザー)：九州グリーンツーリズム・シンポジウム、
2015.12.3

<学生>

- ・ 内田 英里：「有機」農産物で消費者をつなぐ小規模小売店舗－佐賀市街地における「げんき畑」を事例に－、平成27年度佐賀大学農学部地域社会開発学コース卒業論文
- ・ 平安山 真理子：中山間地域における観光農園の展開過程とその持続性について－佐賀県三瀬村を事例に－、平成27年度佐賀大学農学部地域社会開発学コース卒業論文
- ・ 藤原 史歩：「田園回帰」考－農村に移住した4人のライフヒストリーから－、平成27年度佐賀大学農学部地域社会開発学コース卒業論文
- ・ 長尾 優希：農業の多面的機能の維持に関する考察－伊万里市駒鳴集落と白石町福富地区における「多面的機能支払い」を事例に－、平成27年度佐賀大学大学院地域社会開発学コース（主コース）修士論文
- ・ 長尾 優希：中山間地域における農地資源の多面的活用－唐津市七山村における滞在型市民農園「おいでな菜園」を事例に－、平成27年度佐賀大学大学院農業技術経営管理学コース（副コース）修了研究論文
- ・ 馬場 佳菜子：農村地域における「地方創生」に関する考察－佐賀県における「さが段階チャレンジ交付金」を活用した事業を事例に－、平成27年度佐賀大学大学院地域社会開発学コース（主コース）修士論文
- ・ 馬場 佳菜子：棚田地域における6次産業化－唐津市相知町蕨野集落を事例に－、平成27年度佐賀大学大学院農業技術経営管理学コース（副コース）修了研究論文
- ・ 秦 愛子：干し柿の里の文化的景観に関する考察－佐賀市大和町松梅地区における干し柿生産の持続性をめぐって－、平成27年度佐賀大学大学院地域社会開発学コース（主コース）修士論文
- ・ 秦 愛子：農産物直売所が6次産業化に果たす役割－株式会社「そよかせ館」を事例に－、平成27年度佐賀大学大学院農業技術経営管理学コース（副コース）修了研究論文
- ・ 中牟田 望都：国産紅茶「和紅茶」の生産と販売戦略－うれしの紅茶を事例に－、平成27年度佐賀大学大学院農業技術経営管理学コース（副コース）修了研究論文
- ・ 福島 扇子：中山間地域における七草栽培の持続可能性－佐賀市富士町を事例に－、平成27年度佐賀大学大学院農業技術経営管理学コース（副コース）修了研究論文

学生参画による調査・対話・活動を通じた 環境保全プログラム



東よか干潟ふれあい交流事業での潟スキー体験

■ I.プログラムの概要

■事業実施主体：全学教育機構

■連携部局：農学部、低平地沿岸海域研究センター、総合分析実験センター、理工学部

■取り組む地域課題：

- ・地域環境の保全と活用
- ・有明海の環境・干潟の保全と活用
- ・市民協働型の環境教育

■連携プロジェクト：A、F

■連携自治体等：

佐賀県、佐賀市、鹿島市、七浦振興会干潟体験事業部、佐賀環境フォーラム、NPO法人有明海再生機構、NPO法人ビッグ・リーフ、NPO法人みんなの森プロジェクト等

■教育カリキュラム：

- ・全学教育機構「インターフェース科目」におけるPBL／SL型フィールドワーク
- ・インターフェース「環境コース」：有明海学プログラム
地域環境の保全と市民社会プログラム
- 「文化と共生コース」：映像・デジタル表現プログラム

■主なPBL・SL型教育の地域とテーマ(自治体別)：

佐賀市：

- ・佐賀県生物多様性重要地域ークリークと有明海ーにおける地域環境の保全

鹿島市：

- ・有明海の環境保全とエコツーリズム振興



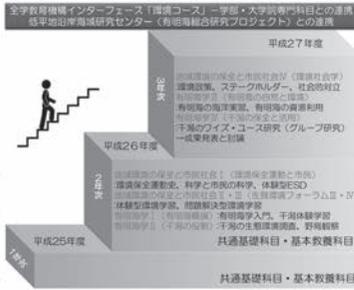
実施代表者

郡山 益実

(全学教育機構・准教授)

プログラムの概要

「地域資源の保全と活用」「有明海の環境保全と活用」を目的に、全学教育機構における教養教育改革の一環として行います。教養教育のインターフェース「環境コース」の「有明海学」「地域環境の保全と市民社会」プログラム、及び「異文化理解コース」の「映像・デジタル表現」において、主体的な環境学習プログラムを実施・構築します。

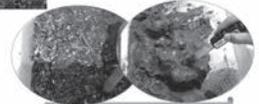


これまでの活動内容

■ 有明海奥部底質の広域調査



この調査では、有明海奥部に多地点の底質調査地点を設置して、詳細な底質のマッピングデータを作成し、そのデータを集積することを目的としています。



採集した底質です。採取する地点によって、色も変わります。

■ インターフェース科目による有明海干潟の環境実習



有明海学での実習風景（干潟体験学習）



有明海学での実習風景（野鳥観察）



有明海学での実習風景（学生実験）



有明海学での実習風景（生態調査）



有明海学での実習風景（海洋実習）

インタフェース科目「有明海学」では、座学的な講義に加え、干潟体験学習、生態調査、野鳥観察、有明海の海洋実習などの現地実習を体系的に取り込んでいます。現地実習を通して、座学の講義だけでは伝わらない、有明海干潟の「手触り」、「臭い」、「色」などを直接体感し、有明海干潟の環境の理解を深めます。

■ 有明海干潟に通じた地域活動



東与賀小学校の自然観察会(2015.1.23)



Enjoy! 有明海(2015.8.1)



東よか干潟の交流会(2015.8.22)



東与賀中学校の自然観察会(2015.9.18)

佐賀市と鹿島市で、佐賀大学や地元のまちづくり協議会、市民の会などが協力し、一般の方や地元小中学生を対象に有明海干潟の自然観察会及び交流会事業を開催し、学生はそのスタッフとして参加しました。参加した学生は、講師として子供たちに干潟の生物や環境について説明し、大学で学んだ知識を地域に還元する活動を積極的にしています。

■ 地域資源の活用と保全



道の駅鹿島での「うなぎ塚体験」(2015.6.27)

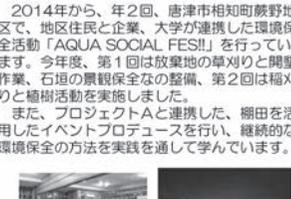


食品加工会社視察

有明海（鹿島市）での漁撈体験などを通して、有明海の食資源を知り、それを活かすため、有明海産の海産物を扱う食品加工会社とともに新商品開発を行っています。



唐津市での環境保全活動(2015.5.16、9.26)



「ふるさとの灯りコンサート」(2015.10.4)

2014年から、年2回、唐津市相知町騎野地区で、地区住民と企業、大学が連携した環境保全活動「AQUA SOCIAL FES!!」を行っています。今年度、第1回は放棄地の草刈りと開墾作業、石垣の景観保全の整備、第2回は稲刈りと植樹活動を実施しました。

また、プロジェクトAと連携した、潮田を活用したイベントプロデュースを行い、継続的な環境保全の方法を実践を通して学んでいます。

今後の活動

- 干潟環境学習、海洋調査実習、森林環境学習などのプログラムを通して、実践的な環境教育を推進する。
- 地域環境に関連するNPOや自治体等による環境保全活動に参画し、地域の環境保全に関する実践活動や環境コミュニケーションを促進する。
- 「有明海学-市民の科学講座」との連携などによる市民協働型の環境保全モデルの構築や有明海干潟の環境啓発活動を展開する。

■ II.平成27年度の活動

佐賀市：

■ SATOYAMAイニシアティブの取り組み

「6/20 21世紀県民の森で里山環境学習を実施」

全学教育機構 インターフェース科目

・地域環境の保全と市民社会I (15名)

農学部 生物環境科学科

・地域資源学研究室 (1名)

連携団体：NPO法人みんなの森プロジェクト

活動内容：

SATOYAMAイニシアティブ・里山資本主義プロジェクトに関連して、21世紀県民の森で里山環境学習を実施。森の散策とペレットストーブのペレット作り体験、中原地区の農協の空倉庫を活用した「里山デザインセンター」の設立に向けた現場視察を行った。

成果 (学生教育の観点から)：

里山の現状を理解し、その持続可能な利用実現に向けた取り組みを模索するSATOYAMAイニシアティブを考えるきっかけとなった。

■ 「食」から有明海の環境保全を考える

「6/27 道の駅鹿島における伝統漁撈体験と有明海の水産物加工・販売所見学」

全学教育機構 インターフェース科目

・地域環境の保全と市民社会I (15名)

農学部 生物環境科学科

・地域資源学研究室 (1名)

連携団体：

・道の駅鹿島

・川田食品

活動内容：

有明海の伝統漁撈のひとつであるうなぎ塚漁体験と、有明海の水産物の加工・販売を行う川田食品を訪問した。

成果 (学生教育の観点から)：

有明海沿岸の地域住民の食生活の変化や有明海の環境変化、漁業の担い手不足など様々な地域課題について話を聞くことができた。また、有明海の生産から消費までを経験して、「食」という分野か



有明海でうなぎ塚漁を体験

らの地域環境の保全を考えるきっかけとなった。

■ 東よか干潟ふれあい交流事業

「8/22 東よか干潟ふれあい交流事業」

全学教育機構 インターフェース科目

・有明海学Ⅲ (1名)

全学教育機構 基本教養科目

・環境科学Ⅱ (2名)

農学部 生物環境科学科

・地域資源学研究室 (1名)

・浅海干潟環境学研究室 (2名)

農学部 応用生物科学科

・システム生態学研究室 (7名)

連携団体：

・東与賀まちづくり協議会

・佐賀自然史研究会

・日本野鳥の会佐賀県支部

活動内容：

参加者 (47名) を対象に、東よか干潟の自然観察会や干潟探検、潟スキー体験のサポートを行った。



東よか干潟ふれあい交流事業

成果 (学生教育の観点から)：

参加者の多くは小学生であったため、参加学生は自然観察会などで子どもたちに平易に説明することを心

がけた。このことにより、干潟の生物や環境に関する知識の定着やわかりやすい説明の仕方が身に付いた。

■東よか干潟の生物観察会

〔①9/12、13 生物観察会の事前学習会 ②9/18 東よか干潟の生物観察会〕

①全学教育機構 インターフェース科目

・有明海学Ⅰ(1名)

農学部 生物環境科学科

・浅海干潟環境学研究室(1名)

・環境地盤学研究室(3名)

②全学教育機構 インターフェース科目

・有明海学Ⅰ(2名)

農学部 生物環境科学科

・浅海干潟環境学研究室(2名)

・環境地盤学研究室(3名)

連携団体：

・東与賀まちづくり協議会

・佐賀自然史研究会

・日本野鳥の会佐賀県支部

活動内容：

①9/18に実施される東与賀中学校2年生を対象とした「東よか干潟の生物観察会」の打ち合せと調査方法の事前学習会を佐賀自然史研究会と共に行った。

②東与賀中学校2年生(90名程度)を対象に干潟の底泥環境、巣穴やシチメンソウの計数、底泥中のマクロベントスの採取、石膏を用いた巣穴の型どりを学生が分担して行った。

成果(学生教育の観点から)：

①事前学習会の実施により、当日中学生へ説明する調査法についての理解が深まった。

②中学生へ平易に説明するため、干潟の環境や生物に関する基礎知識の定着や、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力の向上が図られた。

■有明海学Ⅳによる有明海・干潟のグループ研究

〔10/1～ インターフェース科目「有明海学Ⅳ」〕

全学教育機構 インターフェース科目

・有明海学Ⅳ(40名)

活動内容：

インターフェース科目「有明海学Ⅳ」で、自然科学系と人文社会系の5つのテーマに学生を振り分け、後学期を通じて各テーマでグループ研究を行った。

成果(学生教育の観点から)：

グループ研究を行うことにより、現地調査や、データの整理・解析などの理解が深まった。

■シチメンソウまつりでの干潟自然観察会

〔①10/28、29 「東よか干潟自然観察会」の事前学習会 ②10/31 シチメンソウまつりでの「東よか干潟自然観察会」〕

①全学教育機構 インターフェース科目

・有明海学Ⅱ(2名)

農学部 生物環境科学科

・生物環境保全学概説(1名)

②全学教育機構 インターフェース科目

・有明海学Ⅱ(2名)

農学部 生物環境科学科

・生物環境保全学概説(1名)

連携団体：

・佐賀自然史研究会

・東与賀まちづくり協議会

・日本野鳥の会佐賀県支部

活動内容：

①「東よか干潟自然観察会」の打ち合わせと事前学習を佐賀自然史研究会と共に行った。

②「干潟の探検隊員・ラムサールクラブ員」(小中学生16名)の東よか干潟の生き物調査の助手を行った。



東よか干潟の生物観察会

成果（学生教育の観点から）：

東よか干潟の生物痕や植物、野鳥の種類などの知見が深まった。また、シチメンソウまつりに参加することにより、環境資源として干潟を利活用するワズユースについて考えるきっかけとなった。

■干潟の生態調査で学ぶ地域環境

①11/7 東よか干潟での生態調査 ②11/11 干潟の生物同定作業

①全学教育機構 インターフェース科目

・有明海学II (38名)

農学部 生物環境科学科

・浅海干潟環境学研究室 (3名)

②全学教育機構 インターフェース科目

・有明海学II (38名)

活動内容：

①佐賀市東与賀の干潟で、干潟底泥中のベントスの採取、干潟表面の巣穴の分布状況、干潟底泥の酸化還元環境のフィールド調査を実施した。フィールド調査では、6～7名を1グループとし、計6グループで分担・協働しながら作業を行った。

②11/7の東与賀干潟の生態調査で採取したベントスの種の同定と調査データの取りまとめを図書館のラーニングcommonsで行った。

成果（学生教育の観点から）：

①フィールド調査により、干潟の基本的な生態調査に関する調査方法とその取りまとめが習得できた。また、調査の結果は、「干潟の環境と生態系」に関する一連の講義で適宜紹介したため、講義内容の理解が深まった。



干潟の生態調査

②グループワークを通して、グループ内での役割分担やレポート作成の協働作業により、調査テーマや干潟環境への理解の掘り下げにつながった。

■地元小学生対象の干潟観察会補助

「11/16 東与賀小学生 (5年生) の干潟観察会」

農学部 生物環境科学科

・浅海干潟環境学研究室 (3名)

・生物環境学研究室 (2名)

・環境地盤学研究室 (1名)

・地圏環境学研究室 (1名)

農学部 応用生物科学科

・システム生態学研究室 (5名)

活動内容：

東与賀小学校5年生 (100名程度) を対象に干潟の底泥環境、巣穴やシチメンソウの計数、底泥中のマクロベントスの採取、石膏を用いた巣穴の型どりを学生が分担して行った。

成果（学生教育の観点から）：

小学生へ平易に説明するため、干潟の環境や生物に関する基礎知識の定着や、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力の向上が図られた。また、このような地域活動との連携を通して、地域の環境保全に関する実践的活動やキャリア教育の促進につながった。



東与賀小学生の干潟観察会

■東よか干潟のベントス調査実習

「11/19 東よか干潟のベントス調査実習」

農学部 生物環境科学科

・干潟環境学 (3名)

・浅海干潟環境学研究室 (2名)

活動内容：

農学部専門科目「干潟環境学」において、東よか干潟でのシチメンソウの観察や表在性マクロベントスの調査実習を行った。

成果（学生教育の観点から）：

国内最大の泥干潟を現地で体感し、希少な動植物の観察を行うことで、干潟の生態系サービスに関する理解の促進に繋がった。

■東よか干潟での野鳥観察

「12/12 東よか干潟での野鳥観察」

全学教育機構 インターフェース科目

・有明海学II (38名)

農学部 生物環境科学科

・干潟環境学 (3名)

連携団体：・日本野鳥の会佐賀県支部

活動内容：

東よか干潟で野鳥の観察を行った。野鳥観察では、日本野鳥の会佐賀県支部から講師を招き、野鳥の種類や生態、野鳥を取り巻く干潟の流域環境について説明を受けた。

成果（学生教育の観点から）：

野鳥観察より、干潟の多様な生態系や干潟の環境保全及びワイズユースに関する思考力が深まった。

■干潟環境の学生実験

「12/19 干潟環境の学生実験」

全学教育機構 インターフェース科目

・有明海学II (38名)

農学部 生物環境科学科

・浅海干潟環境学研究室 (2名)

活動内容：

干潟の基礎生産に寄与する底泥の付着性藻類の抽出及びその分析と、クリークから流入する懸濁物負荷量の測定を行った。

成果（学生教育の観点から）：

実験を通して、干潟の豊かな生態系を支える付着性藻類に関する理解が深まると同時に、干潟における物質循環に関する基礎知識が身に付いた。

■グループ研究の成果発表

「1/28、2/4 グループ研究の成果発表(有明海学Ⅳ)」

全学教育機構 インターフェース科目

・有明海学Ⅳ (40名)

活動内容：

インターフェース科目「有明海学Ⅳ」で5つのテーマで行ったグループ研究の成果発表会を行った。

成果（学生教育の観点から）：

プレゼンテーション資料の作成方法、構成、発表技法などの理解が深まった。

鹿島市：

■有明海の実習

「5/17 有明海学Ⅲでの海の実習」

全学教育機構 インターフェース科目

・有明海学Ⅲ (40名)

活動内容：

有明海での実習を行った。実習では、有明海の水環境の調査と海底のベントス調査を行った。

成果（学生教育の観点から）：

海の現地調査の方法や、水環境データの整理・解析法の基礎知識が身に付いた。また、有明海学Ⅲで行う有明海の海域環境に関する講義内容の理解の促進に繋がった。



有明海の実習

■泥干潟を実感する体験学習

「5/23鹿島市干潟体験学習」

全学教育機構 インターフェース科目

・有明海学I (39名)

活動内容：

鹿島市の干潟体験学習を実施した。干潟体験では、実際に泥干潟に入り、泥干潟の環境や潟スキーなどの体験をし、泥干潟の生物の観察を行った。

成果（学生教育の観点から）：

泥干潟の環境を実体験することで泥干潟の色、におい、感触などを五感で体感し、後学期に開講する有明海学IIへの関心が深まると同時に、有明海学IIで行う干潟のフィールド調査の動機づけにつながった。



干潟の体験学習

■Enjoy!有明海

「8/1 「Enjoy!有明海 ～知ろう 食べよう「まえうみ」を!～」

農学部 生物環境科学科

- ・浅海干潟環境学研究室 (1名)
- ・地域資源学研究室 (1名)

連携団体：

- ・佐賀大学低平地沿岸海域研究センター
- ・鹿島市干潟展望館
- ・鹿島市民立生涯学習センターエイブル
- ・まえうみ市民の会
- ・太良高校
- ・長崎ペンギン水族館
- ・マリンワールド海の中道

活動内容：

科学教室や各団体が行っている展示コーナーのスタッフ補助を行った。

成果（学生教育の観点から）：

有明海関連の色々な活動や情報の収集、意見交換ができ、有明海の環境保全に関するキャリア教育の促進につながった。

■有明海における調査活動

「9/7-8 有明海底質の広域調査」

農学部 生物環境科学科

- ・卒業研究 (5名)

活動内容：

有明海奥部全域を網羅するように23地点の調査地点を設け、採泥と泥温及びEhの測定を行った。採泥した底質は、含泥率と有機物量 (TOC及びTN含有量) の分析を行った。

成果（学生教育の観点から）：

有明海底質の広域調査により、底質調査・分析方法を修得し、データの取りまとめにより、有明海における底質の分布特性と生物相及び海域特性との関係に関する基礎知識が身に付いた。

■海苔漁師の方へのインタビューと生物調査

「12/13 有明海漁師の聞き書き集めプロジェクト」

全学教育機構 インターフェース科目

- ・有明海学IV (社会文化グループ) (17名)
- ・地域環境の保全と市民社会IV (6名)

農学部 生物環境科学科

- ・地域資源学研究室 (1名)

連携団体：・まえうみ市民の会

活動内容：

有明海で漁を行う海苔漁師の方へのインタビュー調査と、まえうみ市民の会主催のはぜの浦干潟 (太良町) での生物調査へ参加した。

成果（学生教育の観点から）：

漁師の方へのインタビューから、有明海における伝統的な干潟漁撈の歴史や方法、環境保全活動、海苔養殖などについて理解が深まった。また、生物調査では、有明海にどのような生物が生息しているかを知ることができた。



海苔漁師の方へのインタビュー調査

■ III. 授業科目・担当者一覧

■ 関連するインターフェース科目

「環境コース」－「有明海学」プログラム

- ・有明海学Ⅰ
速水祐一・濱田孝治・木村圭 (低平地沿岸海域研究センター)、五十嵐勉・郡山益実 (全学教育機構)
- ・有明海学Ⅱ
郡山益実 (全学教育機構)
- ・有明海学Ⅲ
速水祐一・濱田孝治・木村圭 (低平地沿岸海域研究センター)、五十嵐勉・郡山益実 (全学教育機構)
- ・有明海学Ⅳ
五十嵐勉・郡山益実 (全学教育機構)、速水祐一・濱田孝治・木村圭 (低平地沿岸海域研究センター)

「環境コース」－「地域環境の保全と市民社会」プログラム

- ・地域環境の保全と市民社会Ⅰ
五十嵐勉 (全学教育機構)
- ・地域環境の保全と市民社会Ⅱ
五十嵐勉 (全学教育機構)、兒玉宏樹 (総合分析実験センター)、宮島徹 (工学系研究科)
- ・地域環境の保全と市民社会Ⅲ
兒玉宏樹 (総合分析実験センター)、宮島 徹 (工学系研究科)、五十嵐勉 (全学教育機構)
- ・地域環境の保全と市民社会Ⅳ
五十嵐勉 (全学教育機構)、櫻澤秀木 (経済学部)、藤村美穂 (農学部)

「文化と共生コース」－「映像・デジタル表現」プログラム

穂屋下茂 (全学教育機構)

■ 関連する主な学部専門科目

農学部

- ・干潟環境学 (郡山益実)
- ・卒業研究 (郡山益実)
- ・卒業研究 (五十嵐勉)
- ・実験水気圏環境学 (郡山益実)

農学研究科

- ・浅海環境工学特論 (郡山益実)

■ IV. 関連する主な教育・研究・社会貢献業績

< 教員 >

(論文等)

- ・近藤文義、原口智和、郡山益実：クリンカアッシュと炭化物の基礎的性状および水質浄化機能の比較、農業農村工学会論文集 299:II_113-II_120、2015
- ・M. Koriyama, A. Koga, M. Seguchi, and T. Ishitani: Factors controlling denitrification of mudflat sediments in Ariake Bay, Japan, Environmental Monitoring and Assessment, DOI 10.1007/s10661-016-5101-1, Published online: 16 January 2016.
- ・郡山益実、西山修司、石谷哲寛：有明海奥部底泥の巻き上げに伴う栄養塩濃度の変動特性、佐賀大学農学部彙報、印刷中、2016 (社会貢献等)
- ・郡山益実：東よか干潟環境保全及びワイズユース検討協議会 副会長 2015年11月～
- ・郡山益実：東よか干潟ガイド養成講座 (講師) 2016年3月5日、東与賀農村環境改善センター

< 学生 >

- ・前崎桜樹：「東よか干潟におけるマクロベントスの分布特性と季節変化」、平成27年度佐賀大学農学部生物環境保全学コース卒業論文
- ・高橋侑希：「有明海底泥の巻き上げに伴う懸濁層におけるリンの変動要因」、平成27年度佐賀大学農学部生物環境保全学コース卒業論文

地域の高齢者及び子どものヘルスプロモーション 促進に向けた学生の実践力育成プロジェクト



佐賀大学健康教室参加者と学生スタッフ

■ I.プログラムの概要

■事業実施主体：文化教育学部

■取り組む地域課題：

- ・地域の高齢者の健康増進と子どもの体力向上

■連携自治体等：

佐賀県、佐賀市、嬉野市、鹿島市、NPO法人
スポーツフォアオール



実施代表者
井上 伸一
(文化教育学部・教授)

■教育カリキュラム：

- ・ヘルスプロモーション実習
- ・レクリエーション実習

■主なPBL・SL型教育の地域とテーマ(自治体別)：

佐賀市：

- ・佐賀大学における地域住民参加者と学生スタッフでの健康教室の開催。講義や演習等での学びを活かした運動プログラムを作成し、参加者に指導することにより学生の実践力を育成
- ・センサを用いた高齢者の歩行動作の解析

嬉野市：

- ・出張型の健康教室における学生オリジナルの運動プログラムを作成、指導を行い、現場に即した指導力を育成
- ・身体測定・体力測定を分析、評価
- ・活動量計を用いた高齢者の活動量の解析

鹿島市：

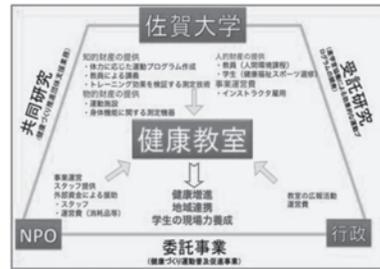
- ・出張型の健康教室における学生オリジナルの運動プログラムを作成、指導を行い、現場に即した指導力を育成
- ・身体測定・体力測定結果の分析、評価
- ・活動量計を用いた高齢者の活動量の解析

プログラムの目的

「地域の高齢者の健康増進と子どもの体力向上」を目的に、文化教育学部における実践力育成プロジェクトとして行います。地域の高齢者や子どもとの関わりを通して、学生の「指導力」、「企画運営力」、「課題解決力」、「コミュニケーション力」の育成を目指します。

主な関連科目

◆学部専門科目(文化教育学部)
「ヘルスプロモーション実習Ⅰ・Ⅱ」担当:井上伸一、「レクリエーション実習」担当:松山郁夫
「健康福祉論」担当:山津幸司、「安全教育」担当:栗原淳、「バイオメカニクス」担当:井上 他

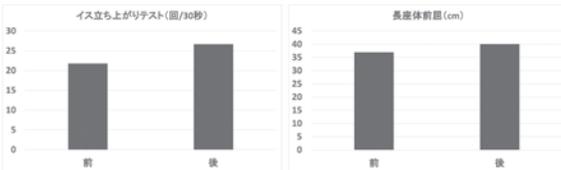


これまでの活動

■ 佐賀大学中高齢者のための健康教室



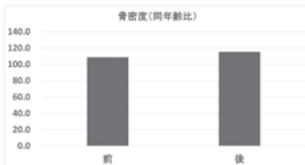
佐賀大学において、地域住民参加者150名と学生スタッフ60名で健康教室を行っています。学生は講義や演習等で学んだ運動プログラムを参加者に指導することにより、実践力を育成しています。



3ヶ月間の健康教室において、参加者の下肢筋力や柔軟性項目の向上が見られました。教室で得た測定データは解析して、より効果的な運動方法の開発にも努めています。

■ 嬉野市、鹿島市における出張健康教室

嬉野市、鹿島市において出張型の健康教室を行い、各地域の参加者(嬉野50名、鹿島100名)と学生およびNPOスタッフで活動しています。身体測定・体力測定を分析評価し、また運動プログラムを学生自ら考え指導することで、現場に即した指導力の育成を目指しています。



前年度の嬉野、鹿島教室とともに、骨密度や、開眼片足立ちなどの項目において向上が見られました。また、アンケートにおいて学生スタッフとの交流を楽しみにしているという意見も多くみられます。

今後の予定

現在の地域における健康教室を継続、また新たな地域における事業の展開を行い佐賀県全域におけるヘルスプロモーションの促進を行っていきます。

健康教室の流れ

血圧測定・問診

学生が血圧測定・問診します。参加者の方々が楽しく安全に運動を行えるよう、毎回教室が始まる前に測定します。学生に測定されて血圧が上がってしまうことも...



身体・体力測定

健康教室参加前・参加後に身体測定、体力測定を行います。測定のなかには、体組成や骨密度など普段なかなか測れないものもあり、教室参加前後の記録を見比べて自分の頑張りがわかります!!いい結果が出たら自分をほめてあげてください。



ストレッチ・筋トレ

学生によるストレッチ・筋トレを行います。教室では年齢や希望に応じて班分けをしますので、各班のレベルに合わせたメニューで進行していきます。



リズムダンス

教室のメインプログラム!!インストラクターの大西真果先生によるリズムダンス。音楽のリズムに合わせて体を動かします。大西先生の掛け声と明るい音楽が流れたすと、みんな自然と体が動き出します。



レクリエーション

学生が考案したレクリエーション。「楽しい、嬉しい、悔しい」自分の感情を思い切り表現して、学生もスタッフも全員参加で楽しいレクを行います。



ミニ講義

大学の教員があなたの気になる健康、運動、栄養、生活等に関する短い講義を行います。いろいろな教員がそれぞれの専門分野について話します



■ II.平成27年度の活動

佐賀市：

■佐賀大学中高齢者のための健康教室

「4/24-7/10、10/16-12/18 健康づくり推進団体支援事業における健康教室」

文化教育学部人間環境課程

- ・ヘルスプロモーション実習Ⅰ(34名)
- ・ヘルスプロモーション実習Ⅱ(29名)
- ・安全教育(34名)
- ・健康福祉論(6名)

連携団体：

特定非営利活動法人スポーツフォアオール

活動内容：

佐賀大学での健康教室において、参加者の運動プログラムの指導を行い、実践力の育成を行った。また、参加者とのレクリエーションを通して学生のコミュニケーション能力を育成した。

成果(学生教育の観点から)：

健康教室に参加したことにより、地域住民と学生の交流が深まるとともに、学生の現場に即した実践力が高まった。



佐賀大学健康教室でのレクリエーションの様子

鹿島市：

■鹿島市における出張健康教室

「4/10-7/17、10/16-12/18 介護予防普及啓発事業における健康教室」

文化教育学部人間環境課程

- ・バイオメカニクス(9名)
- ・卒業論文(7名)



学生によるトレーニング指導の様子

連携団体：

特定非営利活動法人スポーツフォアオール

活動内容：

出張型の健康教室において、学生自らが考えた運動プログラムの指導を行った。また参加者の体組成、骨密度、活動量の測定し、分析・評価を行った。

成果(学生教育の観点から)：

出張型健康教室に参加したことにより、鹿島市の地域住民と学生の交流が深まった。また身体・体力測定を行うことで学生のヘルスプロモーションに対する知識の向上が見られた。

嬉野市：

■嬉野市における出張健康教室

「5/12-7/14、10/6-10/27 ロコモ予防運動教室における健康教室」

文化教育学部人間環境課程

- ・ヘルスプロモーション実習(5名)
- ・卒業論文(7名)



リズムダンスの様子

連携団体：

特定非営利活動法人スポーツフォアオール

活動内容：

出張型の健康教室において、学生自らが考えた運動プログラムの指導を行った。また参加者の体組成、骨密度、活動量などの分析・評価を行った。

成果（学生教育の観点から）：

出張型健康教室に参加したことにより、嬉野市地域住民と学生との交流が深まった。また身体・体力測定を行うことで学生のヘルスプロモーションに対する知識の向上が見られた。

.....
■ III. 授業科目・担当者一覧

■ 関連する主な学部専門科目

文化教育学部

- ・ヘルスプロモーション実習Ⅰ・Ⅱ（井上伸一）
- ・レクリエーション実習（松山郁夫）
- ・健康福祉論（山津幸司）
- ・安全教育（栗原 淳）

.....
■ IV. 関連する主な教育・研究・社会貢献業績

<学生>

- ・中村友喜「健康教室における参加者の健康意識に関する研究」佐賀大学文化教育学部卒業論文
- ・角香保里「3ヶ月間の健康教室が中高齢者の身体に及ぼす影響」佐賀大学文化教育学部卒業論文

地域との連携による地域経済政策に関わる学生主体の調査研究と成果の地域社会への還元



小城市で開催したフットパスイベント

■ I.プログラムの概要

■事業実施主体：

経済学部（地域経済研究センター）

■連携部局：全学教育機構インターフェース

「地域・佐賀学コース」



実施代表者

戸田 順一郎

（経済学部・准教授）

■取り組む地域課題：

- ・地域公共政策の立案
- ・地域産業の振興政策の立案
- ・地方政治の活性化
- ・地域ブランドの開発

■連携プロジェクト：A

■連携自治体等：

佐賀県（佐賀地域経済研究会）、小城市、唐津市、佐賀市

■教育カリキュラム：

- ・地域経済と社会
- ・演習

■主なPBL・SL型教育の地域とテーマ（自治体別）：

小城市：

- ・「地域資源を活用した市民の健康増進と地域活性化のための方策」をテーマとした調査研究

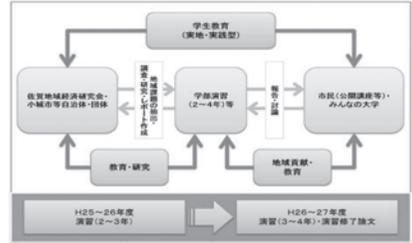
唐津市：

- ・町づくりの観点を含めた各種の防災計画の現状についての調査研究

佐賀市：

- ・消費者の交通手段と地域資源（文化創造産業）の嗜好に基づく地域活性化に関する調査研究
- ・ICT非利用者をターゲットとした実態把握と改善策の検討

学生自身が、地域の経済問題を調査して課題を見つけ、対策の検討とまとめを行います。地域が抱える課題への対策は、佐賀県下の市部の地域経済政策の立案主体からなる「佐賀地域経済研究会」の協力を得ながら行い、その成果は大学の公開講座等で発表して地域に還元します。



■ 地域資源を活用した市民の健康増進と地域活性化のための方策に関する調査研究【27年度】

小城市における地域課題をテーマにした調査研究(課題解決型学習(PBL))の2年目。「地域資源を活用した市民の健康増進と地域活性化のための方策」として、フットパスの導入を軸とした提案の検討を行っています[経済学部戸田ゼミ(3年)において実施]。



市民向け講演会・体験会・交流会の企画・運営(小城市)



先進地視察(熊本県美里町)



小城市役所での中間報告会



現地可能性調査(小城市)



牛津小学校でのワークショップ

■ 「合併自治体における公共施設の利活用と地域活性化」に関する調査研究【26年度】

小城市より地域課題に関する研究テーマとして提案していただいた、「牛津保健福祉センターアイル」および隣接する「牛津総合公園」の利活用策について調査研究を実施しました[経済学部戸田ゼミ(3年)において実施]。



牛津小学校でのワークショップ



小城市役所での成果報告会

■ 「地域防災と自治体」に関する調査研究(防災計画とまちづくり)【26-27年度】

防災は日本列島に住む私たちがすべてが考えるべき大切な問題です。地方自治体も防災対策基本法により「地域防災計画」の策定が義務づけられ、その作業を開始しています。私たちは、高齢化が進む地域社会においてそれらがどのように進められているか、また地域防災計画の策定をまちづくりにどのようにいかしているかを観点として調査を進めています。

本年度は、原発立地近接地域である唐津市の「ハザードマップ」の作成を、作成の過程、マップの特徴、マップの利活用のあり方にそくして調査しています。あわせて伊万里市でも同様の調査を実施しています[経済学部富田ゼミにおいて実施]。



唐津市役所でのヒアリング

■ 商店街の魅力情報発信に関する事業の実施【27年度】

まちづくり会社ハイマート久留米の協力のもと、商店街魅力情報発信事業「マチノヒトに逢いにに行こう」プロジェクトとして、まちなひと(商店主)に光をあてたポスター作成を実施しました[経済学部戸田ゼミ(2年、3年)において実施]。



成果発表会



福川酒店
作成したポスター

今後の予定

小城市内において具体的なエリアを設定し、地域住民と協働により実際にフットパスコースの企画、策定、提案を予定。

■ II.平成27年度の活動

小城市：

■「地域資源を活用した市民の健康増進と地域活性化のための方策」に関する調査研究

「4/16 小城市役所による地域課題に関する説明」

経済学部 経済学科

・演習(3年)(9名)

活動内容：

小城市の現状、抱えている課題についての説明をうけ、今年度の調査研究テーマについて意見交換を行った。

成果(学生教育の観点から)：

小城市の現状について知ることができたとともに、学生の地域に対する関心が深まった。



小城市役所による地域課題に関する説明

■「地域資源を活用した市民の健康増進と地域活性化のための方策」に関する調査研究

「先進地調査 ①7/15 熊本県美里町 ②12/12 佐賀県吉野ヶ里町 ③12/16 佐賀県伊万里市」

①経済学部 経済学科

・演習(3年)(9名)

②経済学部 経済学科

・演習(3年)(1名)

・基礎演習(1名)

③経済学部 経済学科

・演習(3年)(9名)

・基礎演習(10名)

活動内容：

フットパス先進的である熊本県美里町、すでに佐賀県内でフットパスに取り組む伊万里市および



伊万里市での先進地調査

吉野ヶ里町を訪問しフットパスコースを歩くとともに、コースの作り方、地域住民との協力体制の構築方法等、自分たちが直面している課題について議論した。

成果(学生教育の観点から)：

フットパスコースづくりについての知見とともに、今後の取り組みにおける指針を得ることができた。

■「地域資源を活用した市民の健康増進と地域活性化のための方策」に関する調査研究

「7/23 小城市役所での中間報告会」

経済学部経済学科

・演習(3年)(9名)

活動内容：

これまでの経過についての中間報告と、フットパスの導入についての提案、そして今後の協力の打診を行った。

成果(学生教育の観点から)：

この問題についての議論を深めることができ、今後の調査研究を進めていく上での課題が明確となった。

■「地域資源を活用した市民の健康増進と地域活性化のための方策」に関する調査研究

「8-9月 フットパス講演会開催に向けた準備(チラシの小城市内全戸配布。佐賀新聞、西日本新聞、FMラジオ、FBなどメディアを通じた情報発信)、10/3、10/4 フットパス講演会(小城公民館)、体験会、意見交換会の実施」



フットパス講演会および体験会

経済学部 経済学科

- ・演習 (3年) (9名)
- ・基礎演習 (10名)

活動内容：

フットパスについての小城市民の理解度の向上と小城市で導入を進めるための情報収集を目的に、講演会および体験会を実施した。

成果 (学生教育の観点から)：

フットパスコースづくりについての知見とともに、今後の取り組みにおける指針を得ることができた。

■「地域資源を活用した市民の健康増進と地域活性化のための方策」に関する調査研究

「10/21 牛津小学校でのワークショップ」

経済学部経済システム課程総合政策コース

- ・演習 (4年) (3名)

経済学部経済学科

- ・演習 (3年) (9名)

活動内容：

小城市立牛津小学校6年1組において、模擬フットパスコースづくりを行うワークショップを実施した。

成果 (学生教育の観点から)：

地域についての地元の子どものたちの認識、思い、考えについて、知ることができた。また、学生の地域に対する関心が深まった。

■「地域資源を活用した市民の健康増進と地域活性化のための方策」に関する調査研究

「小城市小城町石体地区における現地調査

- ①10/21②10/26③11/27④12/27⑤1/10
- ⑥1/15」



石体地区における現地調査

①経済学部 経済学科

- ・演習 (3年) (9名)

②経済学部 経済学科

- ・演習 (3年) (2名)

③経済学部 経済学科

- ・演習 (3年) (5名)

- ・基礎演習 (4名)

④経済学部 経済学科

- ・演習 (3年) (3名)

⑤経済学部 経済学科

- ・演習 (3年) (2名)

⑥経済学部 経済学科

- ・演習 (3年) (9名)

- ・基礎演習 (10名)

活動内容：

小城市小城町石体地区において、地域住民の方の協働のもととフットパスコースづくりを開始した。今後引き続き取り組んでいく予定である。

成果 (学生教育の観点から)：

学生たちが多くのことを地域の方々から学び、地域に対する関心が深まるとともに、まちづくりの難しさを知ることができた。また開始当初とくらべ、学生たちが積極的かつ主体的に地域と関わるようになった。

唐津市：

■防災対策による町づくり

「7/6 関連文献輪読会、11/2 調査事項・項目の検討会、2/18 唐津市役所危機管理防災課への聞き取り調査、2/19 成果発表会」

経済学部 経済システム課程 総合政策コース

・演習 (4年) (9名)

経済学部 経済学科

・演習 (3年) (10名)

活動内容：

①唐津市において進められているハザード・マップの作成の現状とその過程における自主防災組織および自治会の役割と、ハザード・マップの周知と利用の過程における同上組織の役割に関する学生による実態調査。

②同上調査研究の結果の卒業研究への利用。

成果 (学生教育の観点から)：

卒業論文、藤村成悟・広瀬翔也「災害対策一ハザード・マップとは何か」としてまとめた。

■原発避難計画の比較

①10/13、20、27 関連文献輪読会 ②11/10、17、24 調査事項・項目の検討会 ③1/12、19、20 関連文献輪読会 ④2/18 唐津市役所危機管理防災課への聞き取り調査

経済学部 経済法学科 榎澤ゼミナール

・演習 (3年) (2名)

活動内容：

①原発避難計画の現状についての文献調査

②唐津市の原発避難計画に関するヒアリング調査

成果 (学生教育の観点から)：

原子力発電所が位置する自治体の避難計画を調査することで、関連する地域課題を知るとともに、平成28年度の卒業レポート作成につながる基礎調査を行うことができた。



学生が作成した避難マップを示しながらの質問

佐賀市：

■消費者の交通手段と地域資源 (文化創造産業)の嗜好に基づく地域活性化に関する調査研究 - 産業基盤と地域社会 -

「12/8 外部講師による講義とディスカッション」

経済学部

・地域政策 (115名)

経済学部 経済システム課程総合政策コース/経済学科

・演習 (3年) (4名)

・演習 (4年) (13名)

・基礎演習 (2年) (5名)

経済学部 他ゼミ生 (1名)

連携団体：九州電力佐賀支店

活動内容：

地域政策において、産業基盤インフラとして、エネルギー産業が地域で果たす役割を学習し、3学年合同の演習において、電力会社のCSRを通じた地域社会との関係、ならびに、社会人として働く際に必要なことを議論した。

成果 (学生教育の観点から)：

企業と地域のあり方、企業が地域社会ではたす役割に関して、理解が深まるとともに、社会人になる上で必要な考え方などで意見交換ができ、個人差はあるが一定の学習効果は得られた。



3学年合同の演習におけるディスカッションの様子

■消費者の交通手段と地域資源 (文化創造産業)の嗜好に基づく地域活性化に関する調査研究 - 音楽と地域活性化 -

「1/23 イベント「音楽と地域活性化」開催」

経済学部 経済システム課程総合政策コース/経済学科

・演習(3年)(4名)

・演習(4年)(2名)

・基礎演習(2年)(8名)

経済学部 他ゼミ生(3名)

連携団体:シアターシエマ

活動内容:

3年生(演習)を活動の基盤として、シアターシエマ(かつぱカレッジ)と共催で、イベント「音楽と地域活性化」を開催。学生が卒業研究や事例報告、第二部の演者とのディスカッションを行った。また、第二部終了後に、アンケート調査を実施した。

成果(学生教育の観点から):

途中の失敗も含めて、企画の立案から交渉の仕方、宣伝・広報の調整に至るまで、一定の段取りや進め方がをOJTベースで学習できた。



シアターシエマにおけるイベント(第一部)の様子

■消費者の交通手段と地域資源(文化創造産業)の嗜好に基づく地域活性化に関する調査研究—輸送と地域社会—

[1/26 外部講師による講義とディスカッション]

経済学部

・地域政策(115名)

経済学部 経済システム課程総合政策コース/経済学科

・演習(3年)(4名)

・演習(4年)(12名)

・基礎演習(2年)(4名)

連携団体:三菱自動車工業

活動内容:

地域政策において、自動車産業の物流と立地の

関係を学習し、3学年合同の演習において、自動車社会と街づくりの関係、ならびに、社会人として働く際に必要なことを議論した。

成果(学生教育の観点から):

企業と地域のあり方、企業が地域社会で果たす役割に関して、理解が深まるとともに、社会人になる上で必要な考え方などで意見交換ができ、個人差はあるが一定の学習効果は得られた。



地域政策における講演の様子

■赤松公民館文化祭でのICT体験会及び相談会を実施

「11/14 赤松公民館主催赤松文化祭」

経済学部 経営・法律課程 企業経営コース

・演習(4年)(3名)

全学教育機構 インターフェース科目

・アントレプレナーシップⅣ(5名)

活動内容:

赤松小学校体育館にて赤松公民館主催の赤松文化祭に出店者として参加し、ICT非利用者をターゲットとしたICT体験会及び相談会を実施した。また、体験スペース横に、ICT相談窓口を設け、スマートフォンやタブレットの基本的な使い方や機能の設定方法など、また小学生の親からは子どもにスマートフォンを使用させる際に感じている不安などについても相談を受けた。

成果(学生教育の観点から):

ICTを利用していない、または、利用に不安を持っている市民と直接話すことで、未利用者の実態把握がしやすく、改善の方策などが実態に即したものとなった。



ICT相談会



iPadのカメラ機能の体験会

取り組みを中心に～」日本地理学会春季学術大会、2016年3月21日。

<学生>

- ・池末侑希子「久留米市公共施設は地域活性化をもたらすかー過去の評価と今後の期待ー」、平成27年度佐賀大学経済学部経済システム課程総合政策コース卒業論文
- ・伊東詩織「コンテンツツーリズムに関するー考察ー成り立ちと主導アクターに着目してー」『佐賀大学経済学部学生論集』
- ・糸山智之「佐賀県の高速度路沿線の観光地における隣県からの観光入込客数のGISによる分析ー唐津市・嬉野市・神埼市・吉野ヶ里町・有田町を対象にー」、平成27年度佐賀大学経済学部経済システム課程総合政策コース卒業論文
- ・大久保勉「佐賀大学生の睡眠への意識が学業への意欲にどのように影響しているか」、平成27年度佐賀大学経済学部経済システム課程総合政策コース卒業論文
- ・古西大地「佐賀市の中心市街地における「食」の選択と地域の在り方ー階層分析法による学生と社会人の飲食店選びの分析からー」、平成27年度佐賀大学経済学部経済システム課程総合政策コース卒業論文
- ・近藤里奈「音楽イベントによる地域活性化ー夏フェスが開催地に与える影響ー」、平成27年度佐賀大学経済学部経済システム課程総合政策コース卒業論文
- ・白木 諒「サードプレイスに関してー音楽はサードプレイス成立の要因になるのかー」、平成27年度佐賀大学経済学部経済システム課程総合政策コース卒業論文
- ・高村憲政「空き家問題を解決する自治体による空き家管理促進と課題」、平成27年度佐賀大学経済学部経済システム課程総合政策コース卒業論文
- ・平田大介「九州・佐賀におけるインバウンド戦略ー東南アジアの旅行客受け入れのあり方ー」、平成27年度佐賀大学経済学部経済システム課程総合政策コース卒業論文

■ III. 授業科目・担当者一覧

■ 関連する主な学部専門科目

経済学部

- ・地域経済と社会Ⅲ (富田義典)
- ・地域政策 (亀山嘉大)
- ・演習 (2～4年) (樫澤秀木・亀山嘉大・戸田順一郎・富田義典・納富一郎・畑山敏夫・羽石寛志・山本長次)

■ IV. 関連する主な教育・研究・社会貢献業績

<教員>

(講演等)

- ・戸田順一郎・田中尚人・伊藤直之「シビックプライドを育む小学校地域学習プログラムの開発と実践 (2) ～佐賀県小城市立牛津小学校における

- ・藤原康立「スマートフォン及び携帯電話によるインターネットとアプリケーション利用の実態と外食への影響－佐賀大学生を対象にした調査から－」、平成27年度佐賀大学経済学部経済システム課程総合政策コース卒業論文
- ・古川千晶「まち歩きと地域活性化－大学生は新たなターゲットとなりうるのか－」、平成27年度佐賀大学経済学部経済システム課程総合政策コース卒業論文
- ・片岡幸大「大学誘致に伴う小城市商店街の営業に関する今後の意思決定の分析」平成27年度佐賀大学経済学部経済システム課程総合政策コース卒業論文
- ・早田一哉「産学連携を活用したものづくり中小企業における連携相手とその立地の変化－北九州地域の中小企業の事例から－」平成27年度佐賀大学経済学部経済システム課程総合政策コース卒業論文

離島・山間地域における保健医療と QOL向上のための人材育成プロジェクト



学生によるヘルスプロモーションの様子

■ I.プログラムの概要

■事業実施主体:

医学部地域医療支援学講座(寄附講座)、医学部社会医学講座予防医学分野

■連携部局:農学部生物環境科学科地域社会開発コース、全学教育機構インターフェース「地域・佐賀学コース」



実施代表者
杉岡 隆

(地域医療支援学講座・教授)

■取り組む地域課題:

- ・「へき地」医療人材の育成
- ・離島や山間地域の保健医療とQOLの向上

■連携プロジェクト:A

■連携自治体等:

佐賀県、佐賀市、唐津市、唐津赤十字病院、唐津市消防本部、国立病院機構佐賀病院、佐賀市富士大和温泉病院、佐賀市三瀬診療所、唐津市小川島診療所、唐津市加唐島診療所、唐津市馬渡島診療所

■教育カリキュラム:

- ・自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習
- ・地域枠入学生特別プログラム
「佐賀県内基幹病院・中核病院実習」
「地域医療セミナー」
- ・インターフェース
「地域・佐賀学コース」:地域創成学プログラム

■主なPBL・SL型教育の地域とテーマ(自治体別):

佐賀県:

- ・佐賀県内の離島および山間部地区における宿泊型の地域医療実習の企画・支援
- ・離島及び山間部における医療対策、必要な資源について講義
- ・唐津赤十字病院、国立病院機構佐賀病院における実習の企画調整

佐賀市:

- ・富士大和温泉病院、三瀬診療所における山間部地域医療実習の施設提供と講義

唐津市:

- ・小川島、加唐島、馬渡島における離島実習の企画・支援
- ・唐津市消防本部における乳児・一次救命処置実技実習の企画調整

離島や山間部で行う地域医療実習や佐賀県内の基幹病院実習を基盤として、地域における医療保健に関する教育プログラムを充実させるものです。地域・行政（佐賀県、佐賀市、唐津市 他）と連携し、地域の文化や伝統にも直接触れる機会を持つことで、地域に愛着を持った地域貢献の意欲を涵養することが目的です。

このプロジェクトにより育成された人材が、将来的には地域における保健医療活動に従事し、地域住民の保健医療およびQOLの向上に貢献することを目指します。



■ 自治医科大学・佐賀大学・長崎大学医学部 合同夏期実習

佐賀県唐津市の離島および佐賀市の山間部（富士町、三瀬町）の診療所を中心に2泊3日の実習を行いました。実際に地域の医療・保健・福祉の現場に触れることで、地域医療に従事する医師の役割や責任について学習しました。また今年は「佐賀県の周産期医療」をテーマにして、国立病院機構 佐賀病院内の佐賀県 総合周産期母子医療センターの見学や唐津市消防本部で乳幼児の1次救命処置の実技実習も行いました。



各離島と三瀬地区において学生による地域住民へのヘルスプロモーション（健康講話）を行いました。医療者として、医療情報をわかりやすく提供することは難しかったようですが、住民の方々からは良い評価をいただきました。



総合周産期母子医療センターの見学

乳幼児の1次救命処置 実技実習

■ 地域枠入学生特別プログラム 佐賀県内基幹病院・中核病院実習

県内の地域医療の現状を把握し、大学病院などの専門診療との連携のあり方について学ぶことを目的として、医学科1年時に県内の基幹・中核病院で実習を行いました。実習初日には、血圧測定実習や県内で活躍する佐賀大学OBの医師の話聞き、実習に対するモチベーションが高まったようです。



血圧測定実習



実習の最終日は、全員で実習で学んだこと、感じたことを共有し、地域医療が抱える問題点について話し合い、今後の学習目標をたてました。



県内の実習施設

■ 地域医療セミナー

年2回ほどのペースで、県内の地域医療の実情や問題に触れ、考えるためのセミナーを行っています。セミナー後には学生が講師や教員とディスカッションや交流する場も設けています。



今後の予定

県内の自治体と連携して、実際の地域医療の現場で医学実習を経験することにより、地域が抱える医療問題に直接触れることができました。

今後は、学生の地域医療に対する意識をさらに高め、医学生のうちから取り組むべき具体的な学習目標の設定とヘルスプロモーションなどの地域医療活動ができるようになることを目指します。

佐賀大学医学部
地域医療支援学講座

■ II.平成27年度の活動

佐賀県：

■地域枠入学生による早期臨床体験実習

「9/7-11 地域枠入学生特別プログラム「佐賀県内基幹病院・中核病院実習」

医学部地域枠特別入学生

・「佐賀県内基幹病院・中核病院実習」(25名)

連携団体：

佐賀大学病院、佐賀県医療センター好生館、NHO佐賀病院、NHO嬉野医療センター、唐津赤十字病院、唐津市民病院きたはた、佐賀市立富士大和温泉病院、町立太良病院、伊万里有田共立病院、小城市民病院、大町町立病院、織田病院(鹿島市)、江口病院(小城市)、ひらまつ病院(小城市)、佐賀記念病院(佐賀市)、ふじおか病院(佐賀市)

活動内容：

佐賀県内の地域基幹病院・中核病院で、1週間の参加型実習を行った。

成果(学生教育の観点から)：

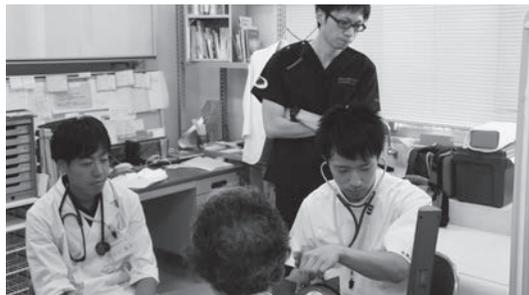
医学部医学科1年次の早期に、地域の基幹病院・中核病院で実習を行うことで、地域医療に必要なスキルと地域のニーズに触れることができ、今後の学習目標を明確に立てることができた。

■離島及び山間部における地域医療実習と周産期医療への取り組み

「8/19-21 自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習」



病院実習のまとめ



唐津市離島での地域医療実習

医学部医学科地域枠入学生

・「自治医科大学・佐賀大学・長崎大学 合同夏期実習」(14名)

連携団体：

佐賀県医務課、唐津市小川島診療所・加唐島診療所・馬渡島診療所、唐津赤十字病院、唐津市消防本部、国立病院機構佐賀病院、佐賀市富士大和温泉病院、佐賀市三瀬診療所、佐賀市三瀬保健センター

活動内容：

実習には、自治医科大学学生8名、長崎大学医学部生4名を合わせた計26名が参加した。学生は4班に分かれて、唐津市の離島と佐賀市の山間部における僻地医療の現場を2泊3日の行程で見学した。学生は自分たちで協議して作成した医療に関するテーマについて、住民にむけてヘルスプロモーションを行った。また、県内の周産期医療の取り組みについて、佐賀県総合母子医療センターを有する国立病院機構佐賀病院と唐津赤十字病院および唐津市消防本部で実習を行った。

成果(学生教育の観点から)：

将来、佐賀県内の離島や山間部で医療を行うために必要な医療者としてのスキルと地域における課題、ニーズを知ることができた。

学生自ら地域住民にヘルスプロモーションを行うことで、医療情報を伝えることの難しさとやりがいについて体験することができた。

県内の周産期医療の現状や医療者の姿勢や環境整備、考えるべき地域課題について具体的に学習できた。

■唐津市北波多地区における家庭医の役割

〔9/29 地域医療セミナー〕

医学部医学科 地域枠入学生特別プログラム
・「地域医療セミナー」(11名)

連携団体:唐津市民病院きたはた

活動内容:

佐賀県唐津市北波多地区の医療・福祉・介護において主たる活動をしている唐津市民病院きたはたの江口幸士郎医師(家庭医専門医)を招聘し、地域におけるプライマリ・ケア、在宅医療の解説と唐津市民病院きたはたの取り組みについて講義をうけた。また家庭医として地域医療に取り組むやりがいや今後の展望についても話を伺った。

成果(学生教育の観点から):

地域医療において重要な役割を担うプライマリ・ケア、在宅医療、家庭医療について、具体例をもとに概要を理解することができた。

■佐賀大学病院における腫瘍内科医・外科医の役割

〔1/8 地域医療セミナー〕

医学部医学科 地域枠入学生特別プログラム
・「地域医療セミナー」(18名)

連携団体:佐賀大学医学部附属病院

活動内容:

佐賀大学医学部附属病院がんセンターにおいて主に消化器がんの診療に従事している柏田知美医師を招聘し、佐賀大学医学部附属病院におけるがんの化学療法について講義をうけた。また柏田医師が参加する国際的な臨床試験の実際や国際学会での発表の様子についてのお話を伺った。



地域医療セミナー講義風景

成果(学生教育の観点から):

近年、発展のめざましいがんの化学療法やがん患者さんを取り巻く現状について具体的なお話を聞くことによって、大学病院や地域におけるがん診療の課題点を自らにも関係したこととして捉えることができるようになった。また、柏田先生が携わられている新規治療開発を目的とした国際的な臨床研究についてのお話からは、将来自分たちが佐賀県内で医療に従事しながらも国際的な活動をして世界に発信できるという希望をもつことができるようになり、学生時代の医学や英語の勉強に対するモチベーションを高めることができた。



地域医療セミナー講義風景

■ III. 授業科目・担当者一覧

■ 関連する基本教養科目

- ・「生命科学の基礎C」(医学看護学研究の勧め)
(杉岡 隆、坂西雄太、福森則男)

■ 関連する主な学部専門科目

医学部

- ・Phase III「Unit 1(地域医療)」(杉岡 隆、坂西雄太、倉田 毅 他)
- ・Phase III「ユニット13(臨床入門)」(福森則男 他)
- ・Phase IV「臨床実習」(杉岡 隆、福森則男、倉田 毅)
- ・Phase IV「地域医療実習」(杉岡 隆、坂西雄太、福森則男、倉田 毅)
- ・Phase V「地域枠入学生特別プログラム」
 - ▷佐賀県内基幹病院・中核病院実習(杉岡 隆、坂西雄太、福森則男、倉田 毅)
 - ▷地域医療セミナー(杉岡 隆、坂西雄太、福森則男、倉田 毅)
- ・Phase V「臨床系選択科目」
 - ▷在宅医療・在宅ケア実習(杉岡 隆、坂西雄太、福森則男、倉田 毅)
 - ▷地域包括ケア実習(杉岡 隆、坂西雄太、福森則男、倉田 毅)
 - ▷地域家庭医療実習(杉岡 隆、坂西雄太、福森則男、倉田 毅)
- ・Phase I「生活医療福祉学-医療におけるチームアプローチのあり方-」(堀川悦男)
- ・Phase III「ユニット12(社会医学・医療社会法制)」(原めぐみ 他)

■ IV. 関連する主な教育・研究・社会貢献業績

< 教員 >

(論文等)

- ・Fukumori N, Yamamoto Y, Takegami M, Yamazaki S, Onishi Y, Sekiguchi M, Otani K, Konno S-I, Kikuchi S-I, Fukuhara S. As-

sociation between hand-grip strength and depressive symptoms: Locomotive Syndrome and Health Outcomes in Aizu Cohort Study (LOHAS) Age Ageing 2015;44(4): 592-598.

- ・Fujiwara M, Eguchi Y, Fukumori N, Eguchi H, Tomonaga M, Yoshioka T, Hyakutake M, Sakanishi Y, Kyoraku I, Sugioka T, Fujimoto K, Kusano M, Yamashita S. The Symptoms of Gastroesophageal Reflux Disease Correlate with High Body Mass Index, the Aspartate Aminotransferase/Alanine Aminotransferase Ratio and Insulin Resistance in Japanese Patients with Non-alcoholic Fatty Liver Disease. Intern Med 2015;54(24): 3099-3104.
- ・Ueno M, Sonohata M, Fukumori N, Kawano S, Kitajima M, Mawatari M. Comparison between topical and intravenous administration of tranexamic acid in primary total hip arthroplasty. J Orthop Sci 2015;(in press)
- ・Kaoru Araki, Megumi Hara, Yuta Sakanishi, Chisato Shimano, Yuichiro Nishida, Munearki Matsuo & Keitaro Tanaka. Estimating rotavirus vaccine effectiveness in Japan using a screening method. Human Vaccines & Immunotherapeutics. 2015 Dec 17:0. [Epub ahead of print]
- ・Sakushima K, Mishina H, Fukuhara S, Sada K, Koizumi J, Sugioka T, Kobayashi N, Nishimura M, Mori J, Makino H, Feldman MD. Mentoring the next generation of physician-scientists in Japan: a cross-sectional survey of mentees in six academic medical centers. BMC Med Educ 2015;15:54.
- ・坂西雄太, 大内 啓, 玉井美恵子, 長田晴香, 石橋 悟, 杉岡 隆. 東日本大震災の石巻医療圏における医療的避難所, 「ショートステイベース」における「避難所以上入院未満」患者の受け入れおよび地域連携による集団避難生活困難

者への対応. 日本プライマリ・ケア連合学会誌.2015;38(Supplement):108-12.

- ・矢吹省司, 福森則男. ロコモの視点を交えた腰部脊柱管狭窄症 疫学 Loco Cure 2015;1(3), 204-209.

(講演等)

- ・百武 正樹, 福森 則男, 森 和美, 山口 りか, 内藤 優香, 藤原 元嗣, 工並 直子, 大串 昭彦, 朝長 元輔, 京樂 格, 杉岡 隆, 山下 秀一. 大学病院における時間外一次救急外来の実態調査、および総合医教育 第10回日本病院総合診療医学会学術総会 2015,2,27-2,28 ホテル日航福岡
- ・百武 正樹, 福森 則男, 森 和美, 山口 りか, 工並 直子, 内藤 優香, 藤原 元嗣, 大串 昭彦, 朝長 元輔, 京樂 格, 杉岡 隆, 山下 秀一. 時間外一次救急外来の実態調査および診療受け入れ体制の検討 (中間報告). 第112回日本内科学会総会・講演会 2015.4.10-12 みやこめっせ
- ・江口 仁, 福森 則男, 古川 尚子, 内藤 優香, 徳富 潤, 大串 昭彦, 山本 巻一, 吉原 幸治郎, 山下 秀一. 同地域の大学病院と市中病院の総合診療部外来における 初診患者背景及び疾患分類の比較. 第112回日本内科学会総会・講演会 2015.4.10-12 みやこめっせ
- ・永江 航, 黒木 和哉, 倉田 毅, 徳島 緑, 坂西 雄太, 福森 則男, 佐野 雅之, 杉岡 隆, 山下 秀一. 地域公立病院に設置した佐賀大学医学部附属病院地域総合診療センターによる総合内科医育成と地域連携の試み 第11回日本病院総合診療医学会学術総会 2015年9月4-5日 奈良春日野国際フォーラム.
- ・松本 佑慈, 百武 正樹, 福森 則男, 大石 透, 中山 翔太, 山口 りか, 工並 直子, 内藤 優香, 藤原 元嗣, 大串 昭彦, 朝長 元輔, 京樂 格, 杉岡 隆, 山下 秀一. 大学病院における時間外一次救急外来の実態調査～受診時間帯別の検討～ 第11回日本病院総合診療医学会学術総会 2015年9月4-5日 奈良春日野国際フォーラム.
- ・守屋章成, 中山久仁子, 菅長麗依, 坂西雄太. ワー

クショップ13 ワクチンプロジェクトチーム企画 「ワクチン・アップデート ～なぜ必要かきちんと説明できますか?～」 第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 2015年6月13-14日

<学生>

- ・貞島健人, 古賀文崇, 澁木祥太, 辻 咲良, 古川 慧月, 中村和樹. 2015年度自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習 学生健康講話「高血圧と肥満」. 唐津市加唐島診療所. 2015年8月20日.
- ・前山 元, 荻野祐也, 松尾大地, 牛島宏貴, 新藤 優里, 深村 光. 2015年度自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習 学生健康講話「ロコモティブ・シンドローム」. 唐津市小川島診療所. 2015年8月20日.
- ・山崎温詞, 江口紘平, 大石彩加, 元村晃大, 小金丸 三璃, 松浦 洋. 2015年度自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習 学生健康講話「糖尿病」. 唐津市馬渡島診療所. 2015年8月19日.
- ・小路 梓, 橋口公輔, 堤 将臣, 龍 知歩, 森 美哉子, 大石将平, 森 健史郎, 木須絵理. 2015年度自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習 学生健康講話「骨粗鬆症」. 佐賀市三瀬保健センター. 2015年8月19日.



環アジア国際セミナー in 肥前浜宿

■ I.プロジェクト概要

■事業実施主体：工学系研究科

■連携部局：全学教育機構インターフェース

「地域・佐賀学コース」、農学部生物環境科学科地域社会開発学コース、医学部地域医療支援学講座、文化教育学部人間環境課程、全学教育機構・デジタル表現技術者養成プログラム、佐賀大学産学・地域連携機構（ゆつつら〜と館）



実施代表者
三島 伸雄
(工学系研究科・教授)

■取り組む地域課題：

- ・中心市街地の活性化
- ・まちなか再生
- ・歴史的環境の再生と保全

■連携プロジェクト：A、J、L

■連携自治体等：

佐賀市、小城市、唐津市、嬉野市、鹿島市、NPO法人まちづくり機構ユマニテさが、NPO法人肥前浜宿水とまちなみの会

■教育カリキュラム：

- ・インターフェース
「地域・佐賀学コース」：地域創成学プログラム、
- ・建築・都市デザイン・プログラムにおけるPBL/SL型フィールドワーク、Community based learning

■主なPBL・SL型教育の地域とテーマ(自治体別)：

佐賀市：

- ・地域イベントを通じた中心市街地活性化まちづくり
- ・中心市街地における学生の居場所づくり

鹿島市：

- ・歴史的町並みの利活用に関する空間調査および提案
- ・歴史的町並みにおける住民共創型防災まちづくり
- ・地域交流施設の計画・設計技術の習得
- ・駅前空間の計画

嬉野市：

- ・新駅周辺まちづくり
- ・温泉街まちめぐりに向けた空間活用

小城市：

- ・公的施設空間の計画支援

「まちなか再生」「地域生豊かな空間創出」に向けて、地域空間再生デザインに資することができる人材を輩出することを目的とします。都市工学科・都市工学専攻の建築・都市デザイン関連科目を軸に、全学教育機構の「地域・佐賀学コース」「異文化理解コース」とも連携しながら、地域空間再生を目指します。

■ ライトファンタジー LED照明のデザイン参加(佐賀市)
(西九州大学 プロジェクトJとの共同作業)



COTOCOの壁面デザイン

ライトファンタジーの電飾作業を通じて、西九州大学の学生と一緒にLED照明を用いた公共空間電飾について学びました。今年度は、佐賀駅前・交番前、土橋、呉服元町の4箇所を対象に取り組みました。佐賀市の中心市街地活性化の取り組みも学びました。オープニングセレモニーにも参加し、ハロウィンを楽しみました。<学部2年生、3年生>



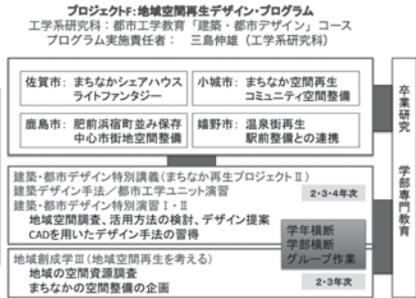
ゆっつら〜と館での話し合い



ミニパレードのデザイン



駅前まちかど広場にて



■ 環アジア国際セミナーの実施(鹿島市)

2015年7月30日~8月3日、佐賀県鹿島市肥前浜宿の酒蔵や茅葺町家を賃し切って、日・韓・タイの建築・都市デザイン研究者や学生が集い、「グローバル社会における文化多様性と歴史的環境の保全活用」について4泊5日で議論しました。学生たちは、肥前浜宿のまちの課題を調査し、提案物を作成し地域住民に発表しました。<学部4年生>



学生提案の作成作業風景(八宿公民館)



学生提案の発表(呉竹酒造)

■ 新幹線・嬉野温泉駅前計画立案(嬉野市)

PBL型設計演習として、嬉野温泉駅の計画提案を行いました。市長、嬉野温泉駅周辺まちづくり委員会委員等が集まり、学生の提案に様々な質問を投げかけ、今後の計画について参考になったと大満足で帰られました。<大学院1年生>



学生提案の発表風景



嬉野市長の質問

■ まちなかの集住提案@TOJIN茶屋(佐賀市)



学生の発表

第16回コミュニティデザインカフェとして、佐賀市唐人の低層集合住宅のデザイン提案を行い、その発表を行いました。地域から多くの参加者が集まり、まちなか居住による地域活性化について鋭い質問意見がありました。ぜひ実現を！という声が多くありました。<学部3年生>



後藤・田口先生の解説



学生の発表



学生の発表

■ まちなか建築スケッチ

図学の授業で、学生が居住している「まちの間3号」の見学・スケッチをおこないました。<学部1年生>



長崎街道に座り込んでスケッチ

今後の予定

学部専門科目を中心に大学院科目とも連動させながら、国際交流も取りつつ、地域に根ざした地域空間デザインを学ぶ専門教育プログラムの確立を図ります。

地域に積極的に足を運んで地域空間を考える学生を育て、地域再生・地域創生に貢献したいと思えます。

■ II.平成27年度の活動

佐賀市：

■佐賀大学教養教育運営機構・デジタル表現技術者養成プログラム

- 「4月～3月 3Dプリンタ活用と作品制作」
- ・デジタル表現技術者養成プログラム(36名)
- ・映像・デジタル表現Ⅳ(修了研究)(5名)

連携団体：

地域環境コンテンツデザイン研究所、佐賀大学同窓会

活動内容：

皿等の工芸品、建物、人形フィギュアなどを3DCGでモデリングし、3DCGと3Dプリンタの活用について学び、実際に3Dプリンタで作品を制作して、活用方法及び問題点について研究する。

成果(学生教育の観点から)：

実寸で試作することが不可能な大型の建築物や構造物であっても、3DCGで可視化し、更に3Dプリンタで造形物として出力することで、PCの2Dの画面上だけでなく、実体のあるものとして様々な視点から捉え、新たな発見をすることができる。理工学部(都市工学科)の学生は「3Dキャンパスプロジェクト」に参加し、自らが所属する理工学部の建物をモデリングし、3Dプリンタで出力した。また、農学部の学生は農地運用のための水路の形状について研究し、その縮尺モデルを3Dプリンタで出力して考察した。



出力データ制作作業の様子

■まちなかライティングプロジェクト

- 「6/16 オリエンテーション、7/1 まちなか講義と散策、7/12 現地確認とデザイン案検討、8/7

宿題提出、9/30 最終企画会議、10/10-11 スポット照明の制作・施工、10/29 オープニングセレモニーへの参加、1/15 片付け

理工学部 都市工学科2年生・3年生

- ・建築・都市デザイン特別講義(まちなか再生プロジェクトI)(34名)
- ・建築・都市デザイン特別講義(まちなか再生プロジェクトII)(45名)

理工学部 都市工学科

- ・卒業研究(1名)

連携団体：

西九州大学、佐賀市商工観光課、NPO法人まちづくり機構ユマニテさが、商工会議所青年部

活動内容：

サガ・ライトファンタジーに佐賀大学学生として参画し、LEDによるスポット照明の企画デザインおよび製作を行う。

成果(学生教育の観点から)：

- 1) まちなかの実態を説明できるようになる。
- 2) まちなか再生として取り組まれている取り組みやプロジェクトを説明できるようになる。
- 3) まちなか再生において地域が行っているデザイン・製作的取り組みに参画して、実践的に議論し、具体化できるようになる。

■佐賀大学・オープンキャンパス

「8/7 佐賀大学オープンキャンパス2015」

佐賀大学に興味を持つ高校生およびその保護者等(約80名)

連携学生サークル：

地域環境コンテンツデザイン研究所



LED電飾デザインの製作風景

活動内容：

本学のオープンキャンパスに訪れた高校生やその保護者等に対し3Dプリンタの概要やしくみについて解説した。更に形状が簡単で分かりやすいロケットや歯車を用いたモデリングのデモや解説を行い3Dプリンタでの出力を行い、一連の工程を体験した。

成果（学生教育の観点から）：

3DCG制作の仕組みの解説やモデリングのデモンストレーションだけでなく、実際に3Dプリンタで出力することで、普段目にするのでできない、3Dプリンタを用いた構造物制作の過程を体験できた。3Dプリンタが建築や都市デザイン、新しいモノづくり、歴史的環境の再生など、様々な分野で活用できることを示し、高等教育機関での学修に興味を持つきっかけを与え、高大接続を図るとともに、地域活性化のための人材育成へとつなげるきっかけとなった。



3Dプリンタ解説の様子

■まちの間プロジェクト「佐賀よかこの家」

「10/15 「まちの間」の視察とスケッチ、1/18-2/17 まちの間のパース作成」

理工学部都市工学科1年生

・図学 (90名)

連携学生サークル：

まちの間3号「佐賀よかこの家」グループ

連携団体：NPO法人まちづくり機構ユマニテさが

活動内容：

佐賀市中心市街地内の学生シェアハウスとして建設した「まちの間3号（佐賀よかこの家）」を視察し、そのスケッチを通して建物を理解した上で、図学の訓練を受け、パースを描く。

成果（学生教育の観点から）：

地方都市中心市街地の実態とその中で起こっているプロジェクトを知る。また、そのパースを描くことによって、都市工学科の学生として習得すべき図学的知識やパース作成の知識と技術を身につける。

■まちなかの集住・建築デザイン提案発表

「8/6 第16回コミュニティデザインカフェ：TOJIN茶屋での発表」

理工学部都市工学科3年生

・建築都市デザイン演習II (31名)

連携学生サークル：コミュニティデザインクラブ

連携団体：日本建築学会佐賀支所

活動内容：

建築都市デザイン演習IIの第2課題として取り組んだまちなか集住のための中低層集合住宅の設計提案の発表会を佐賀市TOJIN茶屋で行った。対象地は、佐賀市唐人町に位置する低未利用地で、空き地・空き家の増加や商店街の空洞化などの課題を抱える一方で、低密度ななかに公共公益施設が集積し、都市の利便性を享受できる環境にある。そのなかでのまちなか居住の可能性について、設計提案を通して、参加した市民とディスカッションした。

成果（学生教育の観点から）：

市民に対して発表するのは、教員の前で発表するのは異なる社会的な能力が必要である。本発表によって、そのことを自覚し、一般市民に分かりやすく説明する方法について学ばせることができた。また、まちなかに住む者だからこそのまちなかに対する考えや意見について知ることができた。



TOJIN茶屋での発表風景

■地域に根ざす小学校の提案発表

「1/28 第17回コミュニティデザインカフェ：デジタルデザインによる建築・都市空間の世界」

理工学部都市工学科3年生

・都市工学ユニット演習(建築都市デザイン)(30名)

連携学生サークル:コミュニティデザインクラブ

連携団体:日本建築学会佐賀支所

活動内容:

我が国建築界におけるデジタルデザインの第一人者である山梨智彦氏(日建設計)を招き、「デジタルデザインによる建築・都市空間の世界」をテーマとして第17回コミュニティデザインカフェを実施した。第一部では、山梨氏による講演会、第二部は、建築・都市デザインコース3年生の学生有志による「地域に根ざす学校」(都市工学ユニット演習課題)の講評会を行った。本課題では、設計と環境工学の学生が2~3名のグループを組んで、熱・光シミュレーションによる検討も交えた設計提案について発表を行った。

成果(学生教育の観点から):

デジタルデザインを用いた建築・都市空間の最先端について知ることができた。また、最先端で設計を行っている建築家から作品講評を受けることによって、建築設計における刺激を受けることができた。



学生による発表と山梨氏による講評(第二部)

鹿島市:

■環アジア国際セミナー【日・韓・タイ】

「7/29 参加者紹介セレモニー、7/30 現地移動および現地視察、歓迎会、7/31 オープニングセレモニー・講義・対象地調査、8/1 講義とグループ作業、

中間発表、8/2 グループ作業、8/3 最終発表、パーティ、8/4 佐賀大学にてクロージングセレモニー」

理工学部都市工学科建築・都市デザインコース

・建築・都市デザイン特別講義(環アジア国際セミナー)(20名、TA5名、教員3名)

・韓国交通大学校(7名、教員2名)

・タマサート大学(12名、教員2名)

・チェンマイ大学(9名、教員1名)

連携団体:

佐賀県観光連盟、鹿島市、浜町振興会、浜町区長会、NPO法人肥前浜宿水とまちなみの会

活動内容:

重要伝統的建造物群保存地区を2地区有する佐賀県鹿島市肥前浜宿の町並みにおいて、建築・都市デザインの国際ワークショップを実施した。韓国、タイの学生たちとともに、対象地の調査および提案をグループ作業で行い、住民・市役所などの協力者に成果発表を行った。

成果(学生教育の観点から):

対象地に泊まり込んで調査を行うことによって、現地のことをよく知ることができた。また、外国人学生とディスカッションを行うことによって、英語でのコミュニケーション能力および専門力を養うことができた。

■歴史的町並みにおける空き家利活用調査

「9/24 肥前浜宿水のまちなみの会との打ち合わせ
10/1-11/30 空き家調査」

理工学部都市工学科

・卒業研究(1名)、ゼミ活動

連携団体:

鹿島市、NPO法人肥前浜宿水とまちなみの会



最終発表の様子(呉竹酒造東蔵)

活動内容：

鹿島市肥前浜宿における空き家の所有実態ならびに所有者に対するアンケート調査を行い、利活用にに向けた基礎データの収集を行った。それらのデータを分析し、空き家所有者による利活用および中間組織による利活用体制について分析・検討を行った。

成果（学生教育の観点から）：

地方都市の歴史的町並みにおける空き家の実態を知ることができた。また、地方都市の役所や地域で活動する市民団体と一緒に調査したことにより、単に空き家のことだけでなく、地域で活動する団体のことについて深く知ることができた。



空き家利活用に関する地域団体（NPO法人水とまちなみの会）との話し合い

成果（学生教育の観点から）：

演習を行った修士の学生にとっては、新幹線新駅とその周辺が整備されるという現実的な問題を通して、具体的な設計提案能力を訓練し、市長や委員からの現実的な質問などに対する応答や議論する力を養うことができた。また、学部の学生たちは、そのやりとりを見聞きすることによって、現実社会で起こっている課題等を知ることができ、かつ、その課題に対して答えることの楽しさと難しさを理解することができた。



嬉野市長および委員との議論の風景

嬉野市：

■嬉野新駅周辺整備計画に関する計画提案

「4/10 対象エリア視察、4/17～5/7 計画作成、5/8 市役所担当課への中間プレゼンテーション、7/3～7/23 提案物の作成、7/24 市長および委員会へのプレゼンテーション」

工学系研究科 都市工学専攻

・建築・都市デザイン特別演習Ⅰ(8名)

理工学部 都市工学科

・現代建築概論(60名)

連携団体：

嬉野市、嬉野温泉新駅周辺整備検討委員会、佐賀県

活動内容：

修士1年生9名が嬉野温泉新駅周辺整備計画の見直し案を提案し、嬉野市長、委員会委員および担当課、佐賀県のメンバーの前で発表した。現代建築概論を履修する学部2年生も発表会に参加し、議論を聴講するとともに感想などを述べた。

小城市：

■古民家リノベーションにおける利活用提案

「4/9 ガイダンス、4/16、23 歴史的町並みと古民家リノベーションの講義、5/9 古民家・町並みの空間資源調査1、5/14、28 空間資源調査のレポートと議論、5/30 古民家の空間資源調査2（古民家の環境整備）、6/4、11、18 古民家活用の議論とプレゼンテーション作成、6/25 発表会」

全学教育機構 インターフェース科目

・地域創成学Ⅲ(30名)

連携団体：

小城市文化課、一般社団法人文化芸術の泉 アル・フォンテス他

活動内容：

授業参加学生を5グループに分け、小城市中心部の小城公園の前に位置する旧鍋島家住宅の利活用提案を行い、その広報用チラシを作成する。そのために、まず現地へ赴き、対象建物および周辺の調査を行って必要な資料を収集した。その後、資料整理を行って利活用の方向性をグループで討議し、

企画提案をまとめ、広報用チラシをパワーポイントで作成し、連携団体に対して発表した。

成果（学生教育の観点から）：

小城市の具体的な歴史的資源や、その保存活用の手法について知ることができた。また、市民等がその資源をどのように活用したがつているか、そして提案に対する市民の意見を知ることができた。

■ III. 授業科目・担当者一覧

■ 関連するインターフェース科目

「地域・佐賀学コース」－「地域創成学」プログラム

・地域創成学Ⅲ

三島伸雄・後藤隆太郎・洲上貴由樹（工学系研究科）

■ 関連する主な学部専門科目

理工学部

・建築・都市デザイン特別講義（まちなか再生プロジェクトI）（三島伸雄）

・建築・都市デザイン特別講義（まちなか再生プロジェクトII）（三島伸雄）

・建築・都市デザイン特別講義（環アジア国際セミナー）（三島伸雄・平瀬有人・有馬隆文）

・図学（三島伸雄・洲上貴由樹）

・建築都市デザイン演習II（後藤隆太郎・田口陽子・平瀬有人）

・都市工学ユニット演習（建築都市デザイン）（三島伸雄・平瀬有人・小島昌一・中大窪千晶）

・現代建築概論（平瀬有人）

・建築デザイン手法（平瀬有人・後藤隆太郎・田口陽子・三島伸雄）

・卒業研究（都市工学科・全教員）

■ IV. 関連する主な教育・研究・社会貢献業績

<教員>

（論文等）

・N. Mishima, Y. Taguchi, Y. Okazaki, H. Wakuya, K. Kitagawa, Y. Hayashida, Y.S. Oh and S.G. Park: Improvement strategy of open space at the

center of a traditional lowland town with narrow paths for securing persons in need of aids viewing from evacuation time, Lowland Technology International, 17 (3), 197-206, 2015

・Tomoyuki KOGA, Takayuki FUCHIKAMI, Nobuo MISHIMA: A Study on Student Education Program through Participation in a Community Event -Focusing on Lighting Project in Saga City-, Proceedings of International Graduate Research Conference 2015, Chiang Mai University (iGRC2015), ST-6-10, 2015

・Yutaro Hidaka, Nobuo Mishima: An Evacuation Routes Analysis for Disaster Prevention Design of a Traditional Town considering Probability of Street Blockade, Proceedings of International Graduate Research Conference 2015, Chiang Mai University (iGRC2015), ST-11-14, 2015

・Shoichiro Anai, Nobuo Mishima, Takayuki Fuchikami: A study on decentralization of tourism elements by revitalizing vacant buildings in Ureshino hot springs town, Proceedings of EAROPH 2015 Regional Seminar in Ureshino/ Saga, 2015

・姜 気賢・有馬隆文, 中心市街地における路地の入りやすさに関する研究, 都市・建築学研究：九州大学大学院人間環境学研究院紀要, 第27号, 29-35, 2015年

・モニタージュ画像を用いた被験者実験による歩行者の街路評価要因に関する研究, 姜 気賢, 有馬 隆文, 都市計画論文集 Vol.50 No.1, 54-60, 2015年

・Modeling urban growth scenarios in Cairo Metropolitan Region 2035, Taher Osman, Prasanna Divigalotiya and Takafumi ARIMA, Proceedings of the 14th International Conference on Computers in Urban Planning and Urban Management(CUMUP), CD-ROM, 2015

・The Relationship between Landscape and Business Location in Itoshima Peninsula, Rahma Hiromi, Takeru SAKAI, Prasanna DIVIGAL-

- PITIYA, Kohei TAKAHASHI, Proceedings of 10th International Symposium on City Planning and Environmental Management in Asian Countries, Makassar, 209-214, 2016
- ・Measuring Urban Sprawl Patterns in Greater Cairo Metropolitan Region, Taher OSMAN, Takafumi ARIMA & Prasanna DIVIGAL-PITIYA, Journal of the Indian Society of Remote Sensing, 1-9, 2016 (講演等)
 - ・三島伸雄：「地域特性を知る」、佐賀県建築士会 景観まちづくり講座、平成28年2月6日
 - ・有馬隆文：「歩くことから考える都市デザイン」、九州大学大学院アーバンデザイン学コース特別座談会「まちをひらく、都市を読む」 基調講演、平成27年7月4日
 - ・田口陽子：「オランダから佐賀へ まちなか再編をめざす」、『建築士』平成27年12月号

<学生>

平成27年度佐賀大学理工学部都市工学科卒業論文

- ・住田裕美：「歴史的町並みの住民認識からみた中間組織による空き家活用管理体制」
- ・増森遥香：「異なる専門分野の学生によるまちなかLED電飾の共同制作プロセス」
- ・馬場宗一：「中山間集落における地域交流を促す集落環境と空間ストックの活用手法」
- ・有瀬浩美：「市町村合併後の唐津市相知町における生活拠点地区について —中心市街地と周辺住宅地の関係に着目して—」
- ・長幡侑樹：「十間堀川における舟運再興に関する水理学的検討」
- ・串部雅尚：「3次元モデルを用いた嘉瀬川の石井樋における土砂輸送特性に関する検討」
- ・白重伸：「気候変動を考慮した佐賀平野における洪水氾濫の浸水リスクに関する研究」
- ・坂本明文：「学生のシェア居住のニーズからみた空き家活用提案 -有田町内山地区の旧江越邸を対象として-」

- ・阿部公彦：「寺内ダムの水質特性の長期的変化に関する基礎的研究」
- ・田中萌：「佐賀市南部におけるクリーク底泥のリン蓄積量と農地還元に関する研究」
- ・上野紘明：「佐賀城のお濠を利用した浸水軽減対策の検討」
- ・石井陽菜：「LAYER みちひきの層 ～三重津海軍所跡における動的保存～」(卒業制作)
- ・嶋津愛里：「視環境と熱環境のシーケンス変化からみた路地空間の特徴把握」
- ・吉田匠：「佐賀市中心市街地を対象とした街路の照明要素と夜間の照度分布マップによる光環境の把握」
- ・伊東勇希・山下啓太：「道路拡幅により撤去された十五縄手橋のRCけたの劣化詳細調査」
- ・清水亨朗：「有明粘土のせん断強度の異方性における間隙水質の影響」
- ・酒井莉奈：「土地利用の変遷からみた都市化の実態と浸水想定区域の関係性の研究 ～佐賀低平地を対象として～」
- ・村里裕太：「人口の変化・予測と住環境の関係性の研究 ～佐賀市を例として～」
- ・武小吉：「都市の拠点から見た道路網の特性と建物配置の相関性に関する研究 ～佐賀市を対象として～」
- ・谷口和弥：「六角川河口域における完新統の鋭敏性と圧縮性に関する研究」
- ・早田幸平：「有明海北岸低平地における完新統の摩擦性に関する基礎的研究」
- ・今泉郁也：「有明海北岸低平地における完新世砂層の密度特性と第四系の地質的性質に関する研究」
- ・田中文也：「鋭敏性・圧縮性の視点に基づく多久佐賀道路地盤の地質的性質に関する研究」

アグリ資源の多様性を活用したアグリ医療 及び機能性食品の開発プロジェクト



キクイモ栽培圃場の視察

■ I. プロジェクト概要

■ 事業実施主体：

アグリ創生教育研究センター、医学部

■ 連携部局：文化教育学部教育実践総合センター、農学部応用生物科学科生物資源開発学コース

■ 取り組む地域課題：

- ・アグリ医療やセラピー教育の開拓と普及
- ・機能性食品の開発とそれに関わる人材の育成

■ 連携プロジェクト：H、K

■ 連携自治体等：佐賀市

■ 教育カリキュラム：

- ・遺伝資源フィールド科学実習

■ 主なPBL・SL型教育の地域とテーマ(自治体別)：

佐賀市：

- ・アグリ資源の新しい活用を図るための人材育成教育プログラム作成
- ・ほ場のユビキタス化による、障がい者、家畜、支援者等の行動の遠隔追跡、モニタリング等の科学的実施
- ・機能性食品開発に係る連携事業実施



実施代表者
上埜 喜八
(農学部・准教授)

佐賀大学農学部附属アグリ創生教育研究センターでは、食料生産手段として利用されている家畜や作物栽培を、障害等を持つ患者様のケア手段に応用することを目的に、農業フィールド資源活用による動物介在療法および園芸療法（アグリ医療）の構築プロジェクトを立ち上げ、農学部、医学部、文化教育学部と共同で研究教育の企画推進を行っています。また、機能性食品の開発プロジェクトを推進しています。

関連授業科目
資源循環フィールド科学実習Ⅰ,Ⅱ
資源循環フィールド科学演習Ⅰ,Ⅱ
食料と生活Ⅰ、資源循環生産学概説ほか



■ アグリ医療（園芸療法）の効果を脳機能の解析に基づく生理学的手法を用いて客観的に評価する

発表者：佐賀大学農学部生物環境科学科（アグリ創生教育研究センター）4年 太田新葉

目的

園芸療法など植物を用いた活動による療法的効果が注目され、その療法的効果の評価法として様々な手法が用いられている。しかし、その効果を客観的に評価するには行動観察によるものが多く、客観的な検査評価が行われることは少なかった。一方で近年、人の心や体を支配する部位である脳の活動を直接的かつ非侵襲的、そしてリアルタイムに捉えるための技術、装置の開発が進み、近赤外分光法（Near Infrared Spectroscopy：NIRS）といった手法が注目されている。近赤外分光法は近赤外線を頭の外から当てて、その反射を測定することにより脳の血液中の酸素量を測定する方法であり、介入中に脳のどの部位が活発になるかを観察できるとされている。そこで本研究においては、近赤外分光法を園芸療法効果を示す生理的評価法として利用できるか調査を行った。

材料と方法

対象者は、実験に同意を得た20歳～21歳の佐賀大学農学部学生20名とした。血圧は血圧計より介入前後の収縮期血圧（SBP）を測定した。自律神経変動は介入中にCS600X心拍計付サイクルコンピュータを使用して介入前・中・後の心拍変動解析を行うことにより評価を行った。唾液アミラーゼ活性は、唾液アミラーゼモニター（図1）を用い、介入前・中・後に測定した。近赤外分光法はウェアラブル光トポグラフィシステムIMC-220（図2）を用い、介入中の前頭葉における脳血流中酸素化ヘモグロビン量を測定した。頭部傾斜による脳血流の変化を避けるために、頭部を傾けないように被験者に注意した。全体のプロトコルは、まず、ウェアラブル光トポグラフィシステム、心拍計を装着した上で、血圧測定、唾液摂取して唾液アミラーゼ活性を測定する。30秒間安静にした後、60秒間カーネーションの切り花を使ったフラワーアレンジメント（園芸作業）をしてもらう。これを3回繰り返した後、血圧測定、唾液摂取後、唾液アミラーゼ活性を測定する。次に対照動作として、30秒間安静後、60秒間左右の腕を身体の前で弧を描く。これを3回繰り返して、血圧測定、唾液摂取後、唾液アミラーゼ活性を測定する（図3）。



図1. 唾液アミラーゼモニター



図2. ウェアラブル光トポグラフィシステム

前頭葉領域を覆うように設置
代表値：全ヘモグロビン濃度

血圧測定 種別採取(30秒)	レスト(30秒)	52.00	レスト(30秒)	52.00	レスト(30秒)	52.00	血圧測定 種別採取(30秒)
	レスト(30秒)	52.00	レスト(30秒)	52.00	レスト(30秒)	52.00	血圧測定 種別採取(30秒)

図3. プロトコル

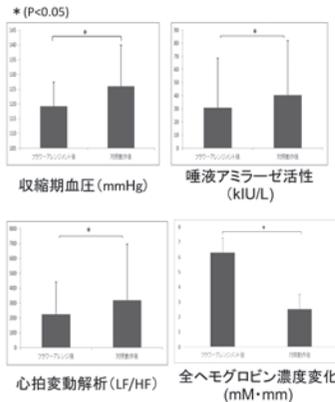


タスク① フラワーアレンジメント

タスク② 対照動作

結果と考察

フラワーアレンジメント実施時と対照動作実施時では、血圧（収縮期）、唾液アミラーゼ活性、心拍変動のいずれにおいてもフラワーアレンジメント実施時に有意な減少が見られた（下図）。これらの結果より、本実験におけるフラワーアレンジメントは、リラックス効果や、安らぎ、安堵感を与えるなどストレスの軽減に一定の効果及ぼしていることが確認できた。前頭前野の脳活動を反映する全ヘモグロビン濃度については、フラワーアレンジメント実施時に有意に高くなった。前頭前野における有意な全ヘモグロビン濃度の増加は、植物の介在による脳循環動態の変化を表している可能性が考えられ、評価方法としての有用性が示唆された。



■ 機能性食品「キクイモ」を活用した地域農業の振興

今年度より、佐賀市三瀬村周辺で栽培されている機能性食品「キクイモ」を活用した地域農業の振興を開始。キクイモは、低カロリーで血糖値の上昇を抑える「イヌリン」を多く含む注目の機能性食品の原料であり、産業界でも注目を集めている。しかし、キクイモの認知度は低く消費量も少ないため栽培も普及していない。このような背景から、キクイモの栽培方法の確立のための調査研究とともに、PR活動を行い知名度向上を狙う。キクイモは栽培方法が容易で土地を選ばないため、農業従事者の高齢化や耕作放棄地の増加などの課題を抱える中山間地域を中心に栽培方法の普及活動を実施し地域課題解決につなげる。



今後の活動予定

本研究において園芸活動によるリラックス効果、ストレス軽減効果ならびに脳賦活効果を示せた。今後、異なる園芸作業においても療法的効果の評価することが可能であれば、アグリ医療（園芸療法）を活用したリハビリテーションにおける療法的効果測定法として活用が期待でき、障害等を持つ患者の治療効果判定の一助となると考えられる。評価法の確立と併せて障害者の方などに対して活動を行い、実際の効果を検証するとともにアグリ医療の普及を図っていく。

■ II.平成27年度の活動

佐賀市：

■機能的食品開発に係る行政・地域生産者・企業との連携

①6/12 生産者・地域企業・行政と学生との打合せ ②6/20 企業と学生との打合せ ③10/22 企業・行政と学生との打合せ ④12/9 行政と学生との打合せ

農学部 生物環境科学科資源循環生産学コース

- ・資源循環フィールド科学演習Ⅰ(4名)
- ・資源循環フィールド科学演習Ⅱ(4名)

活動内容：

機能的食品としてキクイモを活用した商品の開発にむけ、実施体制の整備や今後の方針に関する打合せ、原料のPR計画などを検討した。また随時進捗状況等について意見交換を行った。

成果(学生教育の観点から)：

企業や行政、地域との会議形式による意見交換を行い、社会への主体的な参加意識の高まりや、地域社会の組織としての構造・体制や企業的な考え方について知ることができ、就職活動等にむけた社会勉強となった。

■アグリ医療に関する講義の実施

[6/24 アグリ医療に関する講義]

全学教育機構 障がい者就労支援コーディネーター養成プログラム科目

- ・高齢者・障がい者の生活・就労支援概論(同期型遠隔授業)

(本庄キャンパス180名、鍋島キャンパス43名)



企業と学生との意見交換



アグリ医療に関する講義を同期型遠隔授業で実施

活動内容：

「障がい者就労支援コーディネーター養成プログラム」の必須科目である「高齢者・障がい者の生活・就労支援概論」のなかで、アグリ医療開発について講義を行った。

成果(学生教育の観点から)：

医学部と農学部が連携したアグリ医療開発のなかで、高齢者や障がい者の支援に農業の現場を活用する新たな取り組みがあることについて、理解を深めることができた。これにより、将来、障がい者の就労を支援するために必要な知識を身に付けることができた。

■機能的食品開発に向けたPR活動

①7/1、7/6、7/8、12/18 PR動画の撮影 ②9/1 雑誌「ナツセ福岡」からの取材・学生出演 ③12/1 市報さがでの活動紹介

農学部 生物環境科学科資源循環生産学コース

- ・資源循環生産学特別演習Ⅰ(4名)
- ・資源循環生産学特別演習Ⅱ(4名)

活動内容：

機能的食品としてキクイモを活用した商品の開発にむけ、実施体制の整備や今後の方針に関する打合せ、原料のPR計画などを検討した。また随時進捗状況等について意見交換を行った。

成果(学生教育の観点から)：

社会への情報発信を行うに当たり、情報の伝え方やまとめ方について考えるきっかけとなった。また、取材対応等を通して社会における広報活動の流れについても理解することができた。



雑誌取材の様子

■作業療法学専攻学生の現場視察と研修の実施

「7/1・7/15 西九州大学プロジェクトH連携事業
(アグリセンター視察、研修)」

西九州大学リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻(2年生)

・基礎作業学演習Ⅳ(園芸)(7/1:38名、7/15:
38名)

活動内容:

園芸療法の授業の一環として、西九州大学の学生が参加し、アグリセンターの現場視察、動植物との触れ合い体験を含む現場講義および研修を行った。

成果(学生教育の観点から):

アグリセンターでの動植物とのふれあいや作業体験を通して、「生き物」・「命」を扱うことの大切さや難しさを学び、それらを用いた医療的なりハビリテーションの可能性について検討することができた。



家畜との触れ合いでは牛のブラッシングを体験

■発達障がい児支援プログラム開発

「8/11 発達障がい児との農業体験・動物とのふれ合い体験」

・文化教育学部(14名)

・農学部生物環境科学科資源循環生産学コース(4名)

活動内容:

アグリセラピーの一環として、特別支援学校の生徒(発達障がい児)を対象に、家畜とのふれあい体験、野菜の収穫体験を実施した。

成果(学生教育の観点から):

参加学生は、セラピーの対象となる子どもたちと共に活動を行うことで、活動が子どもたちに与える影響について実証的な検証を行うことができ、発達障がい児支援のための新たな学習題材の選定や支援プログラム開発に向けた貴重な体験をした。

■農作物の収穫体験を基にした情操教育プログラム

「10月~11月 アグリ創生教育研究センターにおけるイモ掘り体験」

農学部生物環境科学科

・資源循環フィールド科学実習(11名)

活動内容:

農学部附属アグリ創生教育研究センターにおいて、イモ掘り体験を行い、園児や父兄、引率者など延べ855名が参加した。

成果(学生教育の観点から):

農作物の収穫体験を通じて、学生と地域住民との交流が深まるとともに、農業のアグリ医療へと発展した取り組みを学ぶことができた。

■収穫物を通じた地域との交流

「11/25 アグリ創生教育研究センターにおける収穫感謝祭の実施」

農学部生物環境科学科

・資源循環フィールド科学実習(11名)

活動内容:

農学部附属アグリ創生教育研究センターにおいて、収穫感謝祭を開催し、学内外から104名が参加した。

成果(学生教育の観点から):

収穫物を通して学生と地域との交流を図ることができた。学生は農業を活用した社会貢献イベント



佐賀・茶学会における学生の発表

開催の可能性を知ることができた。

■機能性食品に関する研究発表

「11/28 茶に関する学会、研究会の開催」

農学部 応用生物科学科

- ・植物代謝解析学実験I (2名)
- ・植物代謝解析学実験II (2名)

連携団体：

佐賀大学茶の文化と科学研究所、佐賀・茶学会

活動内容：

佐賀県茶業試験場の研究者、茶企業の経営者、茶業関係者や一般人が参加する佐賀・茶学会研究発表会において、農学部の学生が機能性食品としての茶の活用に関する研究発表を行なった。

成果 (学生教育の観点から)：

「九州産発酵茶製品の成分解析」(○臼井彩夏、石丸幹二：佐賀大学農学部)として、学生が口頭発表を行なった。また、プレゼンテーションのみでなく、機能性食品開発研究に携わる地元企業との貴重な情報交換を行った。

■アグリ医療開発の実践

「1/12、13、14、20、21、22、26、28、29、2/3、4、5 園芸療法の効果検証実験」

農学部

- ・生物環境科学科資源循環生産学コース (17名)

活動内容：

園芸療法(フラワーアレンジメント)を体験し、様々な評価法による効果の判定を行った。

成果 (学生教育の観点から)：

アグリ医療に関する取り組みについて、実際の療法と検証実験を体験することができた。

■Ⅲ.授業科目・担当者一覧

■関連するインターフェース科目

「生活と科学コース」-「食料と生活」プログラム

・食料と生活IV

担当：石丸幹二・光富勝・光武進・亀井勇統

■関連する主な学部専門科目

農学部

- ・資源循環生産学概説(上 桒喜八・江原史雄・福田伸二・松本雄一 他)
- ・科学英語(上 桒喜八・江原史雄・福田伸二・松本雄一 他)
- ・資源循環フィールド科学演習I(上 桒喜八・駒井史訓・江原史雄・福田伸二・松本雄一)
- ・資源循環フィールド科学演習II(上 桒喜八・駒井史訓・江原史雄・福田伸二・松本雄一)
- ・卒業研究(石丸幹二・上 桒喜八・江原史雄・福田伸二・松本雄一 他)
- ・卒業研究(石丸幹二・上 桒喜八・江原史雄・福田伸二・松本雄一 他)
- ・植物代謝解析学実験I・II(石丸幹二)

■Ⅳ.関連する主な教育・研究・社会貢献業績

<教員>

(論文等)

・石丸幹二：日本産後発酵茶のHPLCおよびHPLC-TOFMS分析, 日本食品化学学会誌、22、94-99、2015

(講演等)

・石丸幹二：講演「HPLCによる発酵茶特有成分の検出」、佐賀県製菓協会技術者研究部研修会、2015.4.17

・森田由佳, 有馬進, 上 桒喜八, 江原史雄, 松本雄一, 於保伸子, 森田義満, 堀川悦夫：「佐賀大学

農学附属アグリ創生教育研究センターにおける動物介在療法の近赤外分光法を使った脳機能解析に基づいた効果検証」、第50回日本理学療法学会大会

成27年度佐賀大学農学部植物代謝解析学分野卒業論文

- ・臼井彩夏：「ノビルのフェノール成分解析と生育地域別の含量調査」、2016年3月28日、日本薬学会第136年会（横浜）

<学生>

- ・瀬利麗奈：「トカラヤギにおける図形識別学習および記憶力の検証」、平成27年度佐賀大学農学部 卒業論文
- ・丸田沙織：「機能性食品原料キクイモを活用した地域農業の振興」、平成27年度佐賀大学地（知）の拠点整備事業九州・沖縄シンポジウム in 佐賀
- ・太田新菜：「アグリ医療（園芸療法）の効果を脳機能の解析に基づく生理学的手法を用いて客観的に評価する」、平成27年度佐賀大学地（知）の拠点整備事業九州・沖縄シンポジウム in 佐賀
- ・太田新菜：「キクイモの栽培方法と系統の違いが収量とイヌリン含有率に及ぼす影響」、平成27年度佐賀大学農学部アグロフィールド保全学分野卒業論文
- ・有田美穂子：「メロンつる割病抵抗性育種に向けたCucumis hystrixとメロンとの種間交雑における交雑不親和性」、平成27年度佐賀大学農学部アグロフィールド保全学分野 卒業論文
- ・綱本真子：「果実加温法によるCucumis anguriaとメロン（C.melo）との種間交雑における雑種胚発達の促進」、平成27年度佐賀大学農学部家畜医療応用学分野 卒業論文
- ・臼井彩夏：「普洱茶の成分解析と新規フラボノイド」、2015年9月11日、日本生薬学会第62回年会（岐阜）
- ・井上大輔：「四川省産蔵茶の成分解析」、平成27年度佐賀大学農学部植物代謝解析学分野 卒業論文
- ・臼井彩夏：「日本各地で採集したノビルの成分解析」、平成27年度佐賀大学農学部植物代謝解析学分野 卒業論文
- ・中島 薫：「雲南省産七子餅茶の成分解析」、平

■地域志向教育研究経費採択事業一覧

平成27年5月18日から「地（知）の拠点整備事業 コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」の一環として地域志向教育研究経費公募型研究を公募し、23件の応募がありました。この中から15件が選定され、7月から事業を実施しました。

本経費は、地域を志向する教員の教育・研究・社会貢献活動を支援し、大学全体の地域志向型教育研究を活性化させるための経費です。

■各事業の内容と成果

1. 山下 宗利／文化教育学部・地域生活文化講座(A)
「佐賀市中心市街地における低未利用地の現状と活用－活性化に向けた学生参画型実習－」

（目的及び計画）

長期的な視点を持ちながら創造的な佐賀市中心市街地をつくることを目標に、中心市街地の現状を観察や聞き取りといった現地調査を用いて、学生自身が確認し、佐賀市で「生活する」あるいは将来的に「働く」ことを考える学びと実践の場としたい。本取組は、佐賀大学生においても中心市街地を訪れた経験のない学生が少なからず存在している現状を鑑み、中心市街地の活性化に向けた学生の地域参画を促す狙いがある。

（教育・研究・社会貢献における成果）

学生参画による調査・交流・活動を通じた地域創成プログラムを実施した。普段足を向けることのない中心市街地に対して、学生自らが、アクティブ・ラーニングの手法を用いて課題の発見と解決に向

けた取り組みを行い、地域の活性化とは何かを考える機会を得ることができた。また、文化教育学部人間環境課程学生による、中心市街地のフィールドワーク（集中講義「地理学フィールドワーク実習」の一部として実施）、文化教育学部美術・工芸課程および人間環境課程学生による、ワークショップの開催と作品の制作・展示（佐賀市呉服元町「わいわい!!コンテナ2」におけるコンテナ・アーツマンス事業）を実施した。

2. 山田 直子／国際交流推進センター(A)
「地域協働型グローバルシチズン教育モデルの創出」

（目的及び計画）

過去3年間実施してきた地域住民・日本人学生・留学生の3者による協働／共修実践の成果と課題を分析し、地域連携による実践型グローバル人材育成と地域活性化が両立できるモデルの創出を目指す。平成27年度はインターフェース科目「異文化交流Ⅳ」として授業化するため、教養教育におけるサービス・ラーニングの手法を組み込む上での可能性と問題点を検討する。考察の結果をまとめ、地域に根ざした学びに関する知見として学会発表や論文により発信する。

（教育・研究・社会貢献における成果）

グローバルな視野で地域の課題に取り組める人材を育成する市民教育の一つとして、日本人学生と留学生の混成による地域社会での活動を実践して



中心市街地の聞き取り調査



井出野地区意見交換



生物を用いた水質の分析

きた。学習経験の最大化や地域連携の改善・持続のための評価を行なった。取り組みを通して培われた地域連携、教育手法の精査により授業化することができた。また取り組みを通して得た知見を学会等で発信することができた。地域住民も、「他者」、とりわけ留学生との協働体験の蓄積から、新たなチャンネルを獲得し、地域活性化に取り込もうとする動きが見られる。

(成果物)

【学会発表】

・山田直子『グローバル人材の育成と地域活性化は両立するかー留学生・日本人学生・地域住民の協働事例をもとに』多文化関係学会第14回年次大会, 岡山大学, 2015年11月14日。

【論文】

・山田直子『多文化サービス・ラーニング導入に関する予備的考察ー佐賀市三瀬村との連携・協働事例をもとにー』佐賀大学全学教育機構紀要第4号, 2016年3月刊行予定。

(教育・研究・社会貢献における成果)

クリークの歴史的背景や技術的な特徴、また季節や人間活動の変化が水質や生物相にあたる影響を学習した。本取り組みにより、佐賀の優れた治水技術や水質分析技術を習得することができ、水環境保全に関する学生の関心を高めることができた。研究では、継続的に生物学および化学的な水質調査を実施した結果、生物種を用いた評価では「中程度の汚染」であることが示唆され、COD濃度、および硝酸の濃度はおおむね環境基準を下回っていた。また洗剤成分の濃度も発泡の指針値を下回っており、それら濃度は季節により大きな変動があることが明らかとなった。本調査を10年スパンで継続することにより、クリークの水質改善を試みる際の基礎的データとして将来的に活用できることが期待される。

3. 上野 大介／農学部・生物環境科学科 (A)

「佐賀地域特有のクリークに着目した水環境保全技術の学習」

(目的及び計画)

佐賀市環境センター、佐賀市下水浄化センター及びさが水ものがたり館と連携し、佐賀の水環境保全に対する先進的な取り組みを学習する。また佐賀市内のクリークに定点を設定し、一年を通して複数回の生物分析および化学分析の実習に取り組む。次年度は、本年度に得られた分析結果を学生自身でまとめ、プレゼンテーションの一般開放およびホームページを通じて情報を公開していく。



自治体とのクリーク掃除ボランティア

(成果物)

【記事掲載】

- ・ホームページによる結果の公表
(<http://environbio.ag.saga-u.ac.jp/ueno/>)
- ・Facebookによる活動の広報
(<https://www.facebook.com/saga.environ.chem>)

4. 徳田 誠／農学部・応用生物科学科(B)

「佐賀・有明地域における希少野生生物の生態に配慮した環境保全」

(目的及び計画)

天然記念物であり多良山系に生息するヤマネ、有明海流入河川にのみ生息するアリアケスジシマドジョウ、有明海の泥干潟を代表する塩生植物シチメンソウなど県内には様々な希少生物が分布している。本課題ではこれらの希少生物を対象とする。農学部応用生物科学科および大学院応用生物科学コースに所属する学生が、これらの生物の自然保護活動に携わる佐賀自然史研究会の会員らとの対話を通じて、共同して野生生物の生態調査を実施し、自然保護と地域の産業活動との両立を可能にする環境保全のあり方を模索する。

(教育・研究・社会貢献における成果)

ヤマネの新生息地を確認するとともに、八幡岳や唐泉山には生息していない可能性が高いことを明らかにした。また、アリアケスジシマドジョウの生態調査、マツナ属植物の生態調査と関連する昆虫群集の調査を実施した。学部・大学院教育では生態学実験の一環として調査を実施し、授業で研究成果を紹介した。また、農学部内において希少魚



国見岳におけるヤマネの調査

類の生態展示を実施した。成果は2015年12月の佐賀大学の定例会見において報道機関向けに発表するとともに、2016年2月には、佐賀自然史研究会の総会・会員発表会において発表した。

(成果物)

【論文】

- ・徳田 誠・中嶋ひかる・木下智章・副島和則・安達修平・白濱祥平・安田雅俊(2015) 佐賀県内における15年ぶりのヤマネの生息確認. 佐賀自然史研究(20): 7-10.

【記事掲載】

- ・吉岡裕哉・明石夏澄・徳田 誠「天然記念物ヤマネ(佐賀県絶滅危惧Ⅰ類)の新生息地を発見」(西日本新聞2015年12月23日、朝日新聞2015年12月24日、毎日新聞2016年1月7日)

【研究発表会】

- ・吉岡裕哉・明石夏澄・木下智章・副島和則・安田雅俊・徳田 誠(2016) 佐賀県西部におけるヤマネの生息状況. 第23回佐賀自然史研究会研究発表会
- ・明石夏澄・吉岡裕哉・木下智章・副島和則・安田雅俊・徳田 誠(2016) 多良山系のヤマネにおける活動の季節性. 第23回佐賀自然史研究会研究発表会

5. 鈴木 智恵子／医学部看護学科(C)

「看護学生による小児アトピー性皮膚炎予防のためのスキンケア教育」

(目的及び計画)

小児のアトピー性皮膚炎の有病率は30%に達しようとしている。アトピー性皮膚炎があることで、子どもだけでなく母親のQOLも大きく損なわれている。近年生後間もない時期から保湿などの適切なスキンケアを行うことで、発症率を3割にまで低減することができることが明らかになった。しかし、スキンケアについては根拠のない誤った情報があふれており、正しいスキンケアの方法が浸透していない状況である。そこで、看護学生をスキンケア教育の講師として養成後、乳幼児の母親や孫をもつ高齢者を対象とし、教育を行う。教育中には、保育科学生に子どもと遊ぶボランティアを依頼し、スキンケアと遊びの知識共有を行う。



公民館での学生によるスキンケア教室

（教育・研究・社会貢献における成果）

平成27年4月に学生の公募を行い、新規の学生6名にスキンケアの方法の講義と演習を実施し、教員による技術確認後、学生講師の適性を判定した。8月からスキンケア講習会実施機関等を通して参加者の公募を行い、公民館等3か所で開催した（5人、14組終了、8組予定）。講習会実施により、参加者がスキンケアの大切さに気付き、実際に行う機会を提供できた。また、地域でのアクティブ・ラーニングの実施により、学生の地域貢献へのモチベーション向上や地域住民との直接触れ合うことで、地域課題や家族について考えるきっかけとなった。

（成果物）

【論文】

- ・佐賀母性衛生学会誌第19巻に掲載予定

6. 亀山 嘉大／経済学部・経済学（D）

「消費者の交通手段と地域資源(文化創造産業)の嗜好に基づく地域活性化に関する調査研究」



シアターシエマでの学生企画イベント開催

（目的及び計画）

本研究課題では、消費者の交通手段と地域資源の嗜好の組み合わせを考慮して、交通アクセスと地域資源の連携による地域活性化のあり方を検討する。具体的には、文化創造産業として、佐賀市のミニシアターや伝統工芸を取り上げて、それらの消費者の消費パターンを階層分析法（AHP）、仮想評価法（CVM）、地理情報システム（GIS）によって明らかにし、地域のマーケティング戦略や交通アクセスの改善のための政策提言に繋げる。

（教育・研究・社会貢献における成果）

本事業では、企業行動や消費者行動を学習し、実際に消費者行動を把握するためにアンケート調査を行い、消費者の意思決定の要因を分析した。今年度は、産業基盤、輸送と地域との関係につき、九州電力や三菱自動車工業の協力のもと、CSRの視点から、大企業が地域ではたす役割を学習した。また、創造活動として佐賀市松原にあるミニシアターにおいて音楽と地域活性化に関するイベントを共催し、企画から実施に至るまでの段取り、進め方を知るとともに、イベント当日に消費者の来訪手段や嗜好に対するアンケート調査を行った。

（成果物）

【論文】

- ・古西大地「佐賀市の中心市街地における「食」の選択と地域の在り方-階層分析法による学生と社会人の飲食店選びの分析から-」、平成27年度佐賀大学経済学部経済システム課程総合政策コース 卒業論文
- ・白木 諒「サードプレイスに関して-音楽はサードプレイス成立の要因になるのか-」、平成27年度佐賀大学経済学部経済システム課程総合政策コース 卒業論文

7. 山本 長次／経済学部・経営学科（D）

「佐賀県出身の企業家の歴史的評価と双方向経営教育への展開に関する教育研究」

（目的及び計画）

本研究教育の目的は、佐賀県出身で、県内外において活躍した歴史的企業家の発掘と再評価を行うとともに、歴史資料や経営資料等を提示しながら、双方向型経営教育も展開していくことである。

本年度以降、森永太郎、藤山雷太、江崎利一、市村清をはじめとする企業家の調査研究を進めるとともに、授業、公開講座、出版などの機会において、逐次成果を公表していく。

(教育・研究・社会貢献における成果)

学部の演習や講義(経営管理論、経営史)、教養教育の講義(経営学)等で、調査研究の成果を踏まえた教育を行うとともに、研究成果については、地域学歴史文化研究センター交流プロジェクト第5回公開研究会(2月8日)などの機会にも公表した。そして、『佐賀県人名辞典』(仮称)の刊行にむけての原稿も執筆中である。

(成果物)

【研究発表会】

・山本 長次「森永太郎および武藤山治とアメリカ」.
地域学歴史文化研究センター交流プロジェクト第5回
公開研究会(2016年2月8日)

【論文等】

・山本 長次『佐賀県人名辞典』(仮称). (2016年4月
以降、データ公開・刊行予定)

8. 坂西 雄太／医学部・地域医療支援学講座(E) 「佐賀県内の高齢内科患者の社会的孤立と短期健康アウトカムとの関連研究」

(目的及び計画)

佐賀県内の高齢内科患者の入院前の社会的孤立度と入院後の健康アウトカムとの関連を明らかにし、地域志向教育に反映させることを目的とする。本年度(H27年度):県内の地域中核病院(佐賀市立富士大和温泉病院、佐賀記念病院、ふじおか病院;佐賀市、江口病院;小城市、織田病院;鹿島市、唐津市民病院きたはた:唐津市)で300~600例を目標とし、高齢入院患者を対象にアンケート調査および入院後の健康アウトカム測定を行う。次年度(H28年度):アンケート調査を継続し、必要症例数を確保したのちにデータ解析を行い、調査結果をまとめる。

(教育・研究・社会貢献における成果)

佐賀県内の6地域中核病院において約250例の

データを収集することができた。アウトカムの追跡には退院後3ヶ月を要し、また解析にはさらに症例数が必要となるため、平成28年度もアンケート調査を継続する。解析後に研究結果をまとめ、高齢者の社会的孤立と健康との関連を地域医療実習に反映させ、実習を通じた地域医療への理解と、将来の佐賀県内での地域医療の実践に役立てる。また研究結果を県内の各研究協力施設にフィードバックし、地域での診療や地域住民へのサポート体制改善の基礎資料を作成することで地域医療の改善に貢献する。

(成果物)

※来年度、研究結果を報告・発表予定

9. 福森 則男／医学部・地域医療支援学講座(E) 「地域基盤型学習が地域卒学生の地域医療に対するモチベーションに与える影響についての検討」

(目的及び計画)

佐賀県内の離島及び山間部の保健・福祉・医療の現場での地域基盤型実習に参加することで、地域医療に対する医学生のモチベーションがどのように変化するかを質問紙により調査する。実習前後でどのように変化して、経年的にもどのように変化するかについて縦断的に研究する。学生の地域志向性の変化に影響をあたえる要因について検討する。本年度は、8月19日~21日の日程で、佐賀県内の離島および山間部における医学実習を開催し、実習の前後で地域医療に対するモチベーションの変化を質問紙により調査する。

(教育・研究・社会貢献における成果)

医療実習には、自治医科大学学生8名、長崎大学医学部生4名をあわせて計26名が参加した。実習は、佐賀県内の地域における周産期医療をテーマにして見学および参加型の実習を行った。アンケートの集計結果から、地域医療実習による参加型の学習をすることは、医学生の地域医療に対する理解を深め、地域医療に従事するモチベーションを高めることがわかった。これは、1年生から4年生のいずれの学年でもみられた。さらに継続して参

加した学生では地域医療に対するモチベーションが維持されていた。また、医学生が実習により地域の医療機関や自治体に関わることで、医療機関や自治体にとってもよい影響があったという意見が多々きかれた。

(成果物)

【論文】

- ・平成28年度に日本医学教育学会でアンケートの集計結果を発表予定



富士町麻那古での学生ワークショップ

- ・馬場・後藤（後藤研究室）・岩永他「摩那古集落フットバスパンフレット（案）」、2016年3月（印刷/地域にて配布予定

10. 後藤 隆太郎／工学系研究科都市工学専攻(F)
「古民家の地域的価値の考究および再生に向けた支援活動」

(目的及び計画)

今日空き家空き地問題が顕在化しているが、特に古民家は地域的資源や活用の可能性をもつ。本年度は特に、①地域における具体的な古民家再生に関して、学生を含む人的、技術的な支援を実践し、また②人的・技術的な担い手のネットワーク、再生活用手法の課題や可能性を整理する。

(教育・研究・社会貢献における成果)

インターフェース科目「地域創成学Ⅲ」として、小城市小城町の古民家を活用したギャラリー&カフェ「小城鍋島家ten」の開業に向けた各種取り組みに参画・支援する地域志向型教育の実施や、「卒業研究」及び大学院専門科目「地域デザイン特別演習」として、佐賀市富士町（摩那古集落）の古民家および集落環境活用の実践に参画・支援し教育研究に反映した。研究教育成果は現地報告会を実施して地域に還元した。また、古民家が地域の歴史などを示す資源でありかつ交流拠点になり得ることや、古民家活用を通して地域内外の人々をいかに組み込むか事前計画の重要性が明らかとなった。

(成果物)

【論文】

- ・馬場宗一・パクジェヨブ・後藤隆太郎「中山間集落における地域交流資源とその活用手法 -熊本県下益城郡美里町「美里フットパス」を事例に-」, 日本建築学会九州支部研究報告,2016年3月（投稿済み）

11. 中大窪 千晶／工学系研究科都市工学専攻(F)
「重要伝統的建造物群保存地区における路地空間の熱的快適性と利用実態の把握」

(目的及び計画)

「重要伝統的建造物群保存地区」である鹿島市の肥前浜宿、嬉野市の塩田津の街路空間に着目し、屋外熱環境の視点から、伝統的な街路空間が、現代の街路に比べ、快適な空間であることを明らかにする。申請時、本年度は鹿島地区での実測調査を予定したが、夏季の天候不良のため、有用な知見が得られなかったため、計画を変更し、来年度に実施を予定した。鹿島地区、嬉野地区の街区について熱環境の数値解析を行った。また、視環境の視点から天空率や街路の色彩に着目し、空間的な魅力について検討を行った。

(教育・研究・社会貢献における成果)

3D-CAD対応型熱環境シミュレータを用いて、各街路の表面温度分布と人体の快適性の指標である平均放射温度を算出した。その結果、鹿島市肥前浜地区等街路が、現代的な幅員の広い街路に比べて熱的に快適な空間が形成されていることが明らかとなった。また、現地で撮影したパノラマ画像から、天空率分布図等を作成した結果、伝統的な街路空間は、現代的な街路に比べ、特徴的な分布

をしていることが明らかとなった。これらの熱環境や視環境の特徴が、伝統的な街路空間の環境的な魅力を作り出していることが示唆された。

12. 北垣 浩志／農学部生物環境科学科 (G)
「高機能性清酒の開発と佐賀県企業における製造」
(目的及び計画)

肌の保湿効果が高く、コスメ効果の高い日本酒の製造技術を開発し、佐賀県企業において製造する。機能性やコスメ効果の高い初めての日本酒として、マスメディアを通じて発信し、ジャパンコスメティックセンターとも連携する。これらの研究開発により、佐賀県の推進しているコスメ事業の全国的な知名度も上がることが期待される。また、学生とともに、どのような種類、製造方法の日本酒に高いコスメ効果が含まれているかを検証し、佐賀県の企業においてその製造方法を確認、製造指導を行い、その製造技術を使って製造・販売してもらう。また全国的な学会などでも発表し、世界的な学術誌にも論文を発表する。機能性の高い清酒は少ないことから、全国的にも高い注目を集めることが期待される。

(教育・研究・社会貢献における成果)

地元企業とコスメの研究を行い、発酵微生物に新規成分を発見して国際学術誌に査読付原著論文を発表した。地元企業とコスメ効果の高い食品を開発し製造販売し、研究は全国紙に取り上げられた。皮膚細胞を使った研究の過程で、学生にコスメや発酵食品の教育を行った。学生は食品関係の企業に技術者として就職した。肌の病気に効果のある食品の開発に成功した。

(成果物)

【記事掲載】

- ・「日本酒×テクノロジー 新酵母 低アルコール実現」
(朝日新聞2015年12月20日)

【論文】

- ・Fermentation, Chemical Analysis of the Sugar Moiety of Mono-hexosylceramide Contained in Koji, Japanese Traditional Rice Fermented with

Aspergillus, Kitagaki* et al., Fermentation 2016, 2(1), 2

13. 江原 史雄

／農学部附属アグリ創生教育研究センター (G)

「家畜を用いたアグリセラピーの開発と普及および動物介在型食農教育プログラムの開発」

(目的及び計画)

家畜を用いたアグリセラピー開発において、ヒトと家畜の親和関係構築は重要なテーマである。セラピープログラム内の「ふれあい活動」では、家畜が見知らぬヒトとの接触によりストレスを感じる事が懸念され、ストレス軽減には新奇の環境に適應するための学習能力が必要である。そこで本事業では、家畜の学習能力の把握を試み、適応性の評価を試みる。また、プロジェクトで整備済みのWi-Fiを利用した動物のモニタリングを試みる。これらの研究から得られたデータを基にアグリセラピープログラムの開発と実践を目指す。

(教育・研究・社会貢献における成果)

本事業では、供試家畜としてトカラヤギを用いて検証を行った。この中で、ヤギの学習能力と記憶力は非常に高いことが証明され、セラピーでの利用が期待できると考えられた。また、発達障がい児を対象とした家畜とのふれあい活動の実施や他大学でリハビリテーションを学ぶ学生を対象にした講義および活動体験により、実証的な検証を行うことができ、アグリセラピー開発にとって重要な知見を得た。さらに、佐賀市内の支援活動団体との会合により、プロジェクトの周知とともに、実証試験の可能性を探ることができた。

(成果物)

【論文】

- ・森田由佳, 有馬進, 上埜喜八, 江原史雄, 松本雄一, 於保伸子, 森田義満, 堀川悦夫: 「佐賀大学農学部附属アグリ創生教育研究センターにおける動物介在療法近赤外分光法を使った脳機能解析に基づいた効果検証」、第50回日本理学療法学会
- ・瀬利麗奈: 「トカラヤギにおける図形識別学習および記憶力の検証」、平成27年度佐賀大学農学部 卒業論文

14. 堀川 悦夫

／医学部・地域医療科学教育研究センター (G)

「アグリセンターなどのフィールドワークにおける 身体、認知機能測定システムの構築」

(目的及び計画)

農学部附属アグリ創生教育研究センターにおけるセラピー開発において、その対象となる高次脳機能障害者や発達障害者などに対するセラピーの効果を測定し、その結果を対象者に速やかにフィードバックすることが必要である。測定対象は、姿勢運動制御の領域からは、歩行や姿勢変化など、認知機能の領域からは処理速度、注意機能、遂行機能などである。これまでの臨床実践経験から得たシステムのアイディアに基づき開発、検証、改良を行い、学生や地域住民などにおいても容易に使用、理解できるように改良を行う。

(教育・研究・社会貢献における成果)

医学部医学科1年次生106名の医療心理学・医療と生活支援技術の合同実習では、農学部附属アグリ創生教育研究センターにおいて、呼吸リハビリテーションをテーマとして心拍、血液中酸素飽和度、呼吸困難度などの測定実習を行った。また、易転倒性の指標である直線歩行5mやTimed Up and Go 検査などの標準的指標を用いた実習を併せて行った。山間地域や農村地帯での医師の臨床実践の基礎として家畜飼育や農業生産の過程について知識を得た。

(成果物)

【開発】

・改良型Trail Making Testの開発 (未発表、実用新案の可否の検討中)



産後フォーラム開催風景

差があり、地域に根差した助産師の育成が期待されている。本事業の目的は、助産師学生が佐賀県の母親・父親を講師として、地域の母子保健課題について学ぶこと、地域の妊婦の協力を得て、助産ケアに必要な基本的スキルを身につけること、地域看護実習において母子やその家族を対象とした健康教育の企画、運営、評価を行うことの3つである。

(教育・研究・社会貢献における成果)

平成27年12月に産後フォーラムさがを開催し、学生は打ち合わせ、フォーラムに参加した。学生(3年、4年)は産後フォーラムさがに参加したことで、産後の母親の苦悩、孤独を理解した。また産後に夫婦が親になる過程で役割葛藤を起こしている実態、そこに支援を必要としていることなどを学んだ。また、3年生5名は実際の妊婦を対象に妊婦健康診査、抱っこ教室で母子とのふれあいを経験し、さらにスキンケア教室および子育て・孫育て講座を開催した(受講者10名)。これらを通して対象理解が深まり、教育スキルも向上した。そして参加者のニーズに応える責任と喜びを実感した。

(成果物)

【講演会等】

・平成27年12月21日、佐賀市保健福祉センターほほえみ館において「SUN-GO(産後)フォーラムさが」を開催

15. 佐藤 珠美／医学部看護学科 (H)

「佐賀県の母子保健課題を踏まえた助産師教育の 開発」

(目的及び計画)

人口10万人あたりの助産師数は全国平均25.0に対し、佐賀県は20.4と助産師が不足しているだけでなく、市が23.0に対し、郡では8.2と著しい格

■学生の地域での活動拠点 豊ふあー夢（嬉野市塩田町）

<概要>

嬉野市塩田町の元牛舎を改築し、地域活性化の拠点として活用しようと活動を始めた「豊ふあー夢」。敷地内には、ゴマやサトイモ、ショウガ、ウリ、オクラなど、約20種類を栽培する広い畑と、牛舎を改装した店舗があります。今年度は、オーナーの卯津江豊彦さんを中心に、学生と地域の方々が協力して地域活性化イベントを開催。今後も、学生や地域と協働し、その活用方法の検討やイベントの企画等を行う予定です。

<活動報告>

- ・2015年5月23日（土）、「豊ふあー夢」を訪問し、現地視察及び今後の施設活用・活性化を検討した。
- ・2015年7月4日（土）、インターフェース科目「地域創成学Ⅰ」を受講する学生17名が「豊ふあー夢」を訪問。施設の見学と活用のため大掃除を実施した。
- ・2015年10月17日（土）、インターフェース科目「地域創成学Ⅱ」を受講する学生4名と農学部地域資源学研究室の学生2名が「豊ふあー夢」を訪問し、11月に開催する地域活性化イベントの打ち合わせを行った。
- ・2015年11月15日（日）、インターフェース科目「地域創成学Ⅱ」を受講する学生16名が「豊ふあー夢」を訪問。11月29日に開催予定のイベントのため、看板作成や屋外スペース活用のためのテーブル作成、竹を使った器づくりなどを行った。
- ・2015年11月28日（土）～29日（日）、インターフェース科目「地域創成学Ⅱ」を受講する学生20名が「豊ふあー夢」を訪問。28日（土）午前中から、翌日のイベント本番に向けて、学生が制作した屋外用テーブルや看板、手作りのランチョンマットの設置など会場の準備や当日の担当コーナーの打ち合わせを行った。
- ・2016年2月3日（水）、インターフェース科目「地域創成学Ⅱ」を受講する学生20名が成果発表会においてこれまでの活動について発表した。



豊ふあー夢で学生とオーナー卯津江さん夫妻らと一緒に



イベント開催に向け豊ふあー夢関係者、地域住民、学生が打ち合わせ



学生がイベントで使用する屋外用テーブルを制作

<活動内容>

2015年前期から、インターフェース科目「地域創成学Ⅰ」を受講する学生約20名が、「むら班」として、嬉野市久間地区に位置する豊ふぁー夢での活動に参画しました。今年度は、豊ふぁー夢を地域活性化の拠点とするために、施設の整備とキックオフイベントを実施。学生は約1年間継続して拠点での活動に携わりました。

まずは豊ふぁー夢これまでの経緯、歴史など概要を伺い、その後、施設の整備、イベントの企画に参画。イベント準備においては、学生それぞれが自分の得意分野を活かして、チラシのデザインや看板作成、会場準備・セッティングなどを行いました。活動を通して、学生同士のコミュニケーションが密になるとともに、チームワークも良くなりました。普段は会話することのない、他学部の学生との交流も良い刺激になり、また、地域の方々と触れ合うことで、地域の文化についても知ることができました。

1年間の活動を終えた学生からは「地域の活性化は決して短期的な活動で解決することではなく、継続的な活動が重要になると思う」「久間地区全体の活性化につなげるためにも久間地区に観光やグルメなどをまとめたガイドブックの作成などができるといいなと思った」「イベントが終わって考えると、泊りがけで準備するという機会があったからこそ親睦が深まり、会話ができたと思う」「地域を盛り上げようとする活動が活発に実施されていることを知ることができた」「今回私たちが行った活動は、プロジェクトの立ち上げ段階に過ぎない。この一年だけに留まらず、継続して支援・連携を行っていければと思う。また、単発のイベントだけではなく安定して利用してもらえる施設にする必要がある」「チームメンバーと一緒にランチョンマットを作ったのが楽しかったし、イベントで実際に使用されているのを見て非常に達成感を感じた」「初期段階で久間地区について調べ、もっと豊ふぁー夢の方との連携を密にし、さらに学生間の情報共有を行うべきだったと思う」など、今回の活動での成果や反省点、今後の展開を期待する声が聞かれました。

ここでの経験が、今後の授業や来年度の授業につながり、さらなる“地域創成”へと発展することを期待します。



豊ふぁー夢の看板は書道が得意な学生が作った



イベント当日は地域の方とも交流できた



地域活性化拠点を目指す「豊ふぁー夢」

九州・沖縄シンポジウムIN佐賀 2015

—地域の知の拠点としての大学—

日 程:

平成27年10月31日(土) 13:30~17:00

場 所:

佐賀大学本庄キャンパス 教養教育大講義室

概 要:

九州・沖縄地区の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」実施機関を中心として毎年1回開催するシンポジウム。今回は「地域の知の拠点としての大学」をテーマに、信州大学地域戦略センター長・笹本正治氏による基調講演や、佐賀大学・西九州大学の学生が連携して取り組む大学COC事業の事例発表、大学COC事業採択校代表者のパネルディスカッションを実施し、地域を志向した教育・研究の活性化・社会貢献のあり方について考えた。約170名が参加した。



シンポジウムには県内外から170名が参加した



パネリストから各大学の取り組みと課題について報告

基調講演

■ 「地域の知の拠点としての大学 —信州大学の場合—」

信州大学地域戦略センター長、人文学部教授 笹本 正治氏

講演内容

講師である笹本正治氏は、平成27年9月まで信州大学副学長及び附属図書館長を務め、さらに平成25年10月からは、新たに開設された地域戦略センターのセンター長として地域を志向した教育カリキュラムの企画や地域の課題解決に向けた研究、「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」等に関する取り組みを行っている。講演では、信州大学の地域環境を活かした基盤的研究や、地域自治体等との協働研究、地域を活用した学生教育等について具体的な事例を挙げて説明。地域貢献度ランキング3年連続トップである信州大学の、地域連携・地域貢献の取り組み内容や事業戦略、課題等について紹介した。最後に、「地域の知の拠点」は「世界の知の拠点」であることを認識し、ローカルを学んだ上で、グローバルに発信することの大切さを伝えた。

学生による事例発表

■ 「佐賀大学・西九州大学連携事業 —キクイモを使った機能性食品の開発—」

佐賀大学プロジェクトGと西九州大学プロジェクトKが連携して行う、キクイモを使った機能性食品の開発について、両大学の学生による発表を行った。佐賀大学はキクイモを活用した地域農業の振興に向けて実施した栽培方法の確立や、両大学による広報活動について、西九州大学はキクイモの機能性食品の開発に向けた取り組みと分析結果について発表した。

パネルディスカッション

■ 「地域を志向する教育の現状と課題」

パネリストとして九州各県の大学COC事業採択校6校の代表が登場し、佐賀大学の大学COC事業実施責任者である五十嵐勉がオーガナイザーとなり、「地域を志向する教育の現状と課題」について意見交換を行った。各校が地域を志向する教育・研究・社会貢献の取り組みについて説明。課題としては、学生の学修成果と地域における成果の可視化が挙げられた。今後も九州沖縄シンポジウムの開催し、さらなる情報共有と事業推進を図ることとなった。

平成27年度 地(知)の拠点整備事業 コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト 佐賀大学FD・SD研修会

日 程:

平成27年8月4日(火) 14:40~17:10

場 所:

佐賀大学 大学会館2階多目的ホール



島根大学の高須佳奈氏による基調講演

概 要:

佐賀大学の教職員を対象に、他大学及び本学の地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)の取り組みについて情報を共有し、更なる事業推進をはかるために開催。基調講演は、先駆的な取り組みを実施する島根大学の地域課題学習支援センター副センター長・高須佳奈氏が、「島根大学におけるCOC事業の取り組み—学生による地域課題解決型学習と副専攻制—」をテーマに講演した。

報告会では、地域志向教育研究経費事業として実施した農学部応用生物科学科准教授・徳田誠氏による「多良山系における希少野生動物の生態に配慮した地域環境保全」と医学部看護学科教授・鈴木智恵子氏による「看護学生による小児アトピー性皮膚炎予防のためのスキンケア教育」について報告があった。この研修会は佐賀大学のFD (Faculty Development) ・SD (Staff Development) 研修会として実施し、約70名が参加した。

基調講演

■「島根大学におけるCOC事業の取り組み—学生による地域課題解決型学習と副専攻制—」

島根大学地域課題学習支援センター 副センター長 高須佳奈氏

講演内容

島根大学における大学COC事業の取り組みを、研究・社会貢献・教育領域に分け紹介。研究領域では、部局を超えて行う特徴的な研究グループをプロジェクトセンターとして位置付け活性化・推進を図っており、社会貢献領域では、学生と市民が交流できる施設の設置や公開講座の実施による市民会員の獲得を行っている。教育領域においては、地域を軸とした教育の構造化した「COC人材育成コース」について、地域の基礎的な知識を得るための科目「ベースストーン科目」から専門教育、そしてPBL型の「キャップストーン科目」、インターンシップへ繋がる構造を具体的な取り組みを交えて詳しく説明した。

平成26年度 地域志向教育研究経費事業事例報告①

■多良山系における希少野生動物の生態に配慮した地域環境保全

農学部応用生物科学科准教授 徳田 誠氏

報告内容

多良山系における希少野生動物ヤマネの生息調査の取り組みについて報告があった。本調査において、佐賀県内・多良山系で15年ぶりにヤマネを確認できたことや調査によってわかった生態について説明。佐賀自然史研究会や地域の方々との連携し、学生教育も兼ねて調査を実施していることを報告した。

地域志向教育研究経費事業事例報告②

■看護学生による小児アトピー性皮膚炎予防のためのスキンケア教育

医学部看護学科教授 鈴木智恵子氏

報告内容

佐賀市内で学生が講師となって実施したスキンケア教室について報告。小児アトピーの発症率は適切なスキンケアによって抑えられるため、スキンケア教室を開催して正しいスキンケア方法を伝える重要性を説明。学生が講師となることでPBL型学修となり、公民館等での教室開催が社会貢献活動につながったと報告があった。

コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト 外部評価の実施

日 程:

平成28年2月5日(金) 13:00~17:00

場 所:

佐賀大学 産学・地域連携機構棟3階 研修室

概 要:

コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト運営委員会が行った「自己点検評価」の結果について、運営委員会以外の者による外部評価を実施した。

外部の有識者を外部評価委員会委員として招聘し、自己点検評価報告書の書面審査、討論による評価を依頼した。外部評価委員会は、評価報告書を運営委員会委員長に提出し、運営委員会が行う事業等の質的向上を図り、その運営全般の改善・改革に資するとともに、ステークホルダーや社会からの負託に応えることを目的とする。

1) 外部評価委員会

協議事項等:

- 13:00~13:10 開会の挨拶
- 13:10~13:15 外部評価委員会委員の紹介
- 13:15~13:20 コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会関係者の紹介
- 13:20~17:00 外部評価委員会
- ①外部評価委員会実施要領(案)について
 - ②外部評価委員会委員長の選出
 - ③事業、及び自己点検評価書の概要について
 - ④質疑・応答
 - ⑤外部評価書の作成、及び取りまとめ
(運営委員会関係者退出)
 - ⑥今後のスケジュールについて
評価報告書の最終報告書の提出
- 17:00 閉会
-

2) 学部評価報告書の提出 平成28年2月19日(金)

外部評価委員会は、「外部評価報告書」を取りまとめ、コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会に提出する。

外部評価委員会の委員名簿

吉村 充功	日本文理大学・教授 日本文理大学人間育成センター・センター長
渡辺 亮太	福岡工業大学FD推進室・室長
小林 秀則	佐賀県 統括本部 政策監グループ 副課長
伊豆 哲也	特定非営利活動法人まちづくり機構ユマニテさが 常務理事

コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会の出席者名簿

門出 政則	コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会委員長 佐賀大学副学長 (研究・社会貢献担当)
井本 浩之	西九州大学事業実施責任者・教授 西九州大学副学長 (社会貢献担当)
三島 伸雄	佐賀大学事業実施責任者・教授
五十嵐 勉	佐賀大学運営委員会委員・教授 全学教育機構 産学・地域連携機構地域連携部門長 (併任)
木塚 徳男	佐賀大学社会連携課・課長
三島 舞	佐賀大学COC事業コーディネーター
中島 哲男	西九州大学センター事務室・事務長
土橋真奈美	西九州大学地域連携センター コーディネーター
徳安 優一	西九州大学地域連携センター コーディネーター



外部評価委員会の様子

■第1回AQUA SOCIAL FES!!

唐津市相知町蕨野地区での耕作放棄地の再生と植樹

2015/5/17 佐賀新聞

棚田の風景保とつづ

相知・蕨野 耕作放棄地で草刈り

唐津市

「棚田の原風景を取り戻そう」をテーマにした環境保全活動「AQUA SOCIAL FES!!」(アクアソーシャルフェス)「佐賀新聞社主催、NPO法人「蕨野の棚田を守る会」共催、トヨタ自動車協賛)が16日、唐津市相知町の「蕨野の棚田」で開かれた。約100人が耕作放棄地となっていた田畑で雑草を刈り取りし、農地づくりに汗を流した。

「アクアフェス」に100人



雑草の根が張れば石垣が崩れるので、石垣のすき間も丁寧に草刈りする参加者＝唐津市相知町の蕨野の棚田

活動には、佐賀大学コミユニティ・キャンパス佐賀推進室が協力した。草刈りのほか、学生が棚田で見つけたイモリやカエルなどの生き物観察も実施した。蕨野の棚田は農林水産省が認定した「日本の棚田百選」に入り、美しい景観を誇るが、高齢化で農業者が減り、耕作放棄地が増えている。参加者は荒地だけでなく、棚田の土台となる石垣のすき間に雑草の根が張らないように丁寧に刈り取った。

佐賀大学経済学部2年の古賀彩花さん(19)は「こんな高いところまで田んぼがあることに驚いた。今度は田植えの時期に見たい」と語った。また、唐津市の山崎美保さん(49)は「これだけ素晴らしい棚田を高齢の方たちが支えているというのは複雑な思い。手入りが難しいので、少しでも手伝いたいと思った」と語った。

今後の開催は佐賀大農学部が引き継ぎ、8月ごろソバを植え、9月中旬には棚田で稲刈りを体験してもらおうとフェス第2弾を予定。「守ろう会」理事長の川原増雄さん(67)は「高齢化や後継者不足で厳しい状況にあるけれど、大勢の人が来てくれることで地元も元気づく」とほほえんだ。(日高勉)

■「今どき大学生」で農学部3年の中島美咲さんを紹介

2015/6/17 佐賀新聞

今どき大学生

佐賀大学と西九州大学が連携して行う「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」の事業の一つに学生参加による地域創成プログラムがある。

中島美咲さん（佐賀大農学部3年）は祖父母が暮らす農村地帯の高齢化をみて高校時代から地域活性化に興味を持つようになり、大学で「地域・佐賀学コース—地域創成学プログラム」

佐賀大農学部3年中島美咲さん 地域創成を調査研究

を選択。山間部の活性化として唐津市の蕨野集落での棚田コンサートを企画運営した。

棚田百選にもなっている



中島 美咲さん

景色を活用して竹灯籠を制作。NPOや住民と協力して機材やアーティストの手配、広報活動などを行い、知恵や技術を学んだ。また、農村を訪れ、住民との意見交換や侵入竹の除伐なども行った。このほか、大和町の空き家活用や小城市の武家屋敷調査なども進行中だ。これらの事業に参加し、地域が抱える問題をより深く調査研究することや地域との関わりの必要性を感じている。（地域リポーター・田中みゆき＝佐賀市）

■有明海の伝統漁撈うなぎ塚を体験

2015/7/8 佐賀新聞

佐賀大学の「伝統漁法の一つ」を体験した。有明海の豊かな資源を活性化にどうつながるかを考える佐賀大生たち＝鹿嶋市の道の駅鹿嶋

「うなぎ塚」で魚捕り

佐賀大生20人 伝統漁法を体験

佐賀大学の「伝統漁法の一つ」を体験した。有明海の豊かな資源を活性化にどうつながるかを考える佐賀大生たち＝鹿嶋市の道の駅鹿嶋

佐賀大学の「伝統漁法の一つ」を体験した。有明海の豊かな資源を活性化にどうつながるかを考える佐賀大生たち＝鹿嶋市の道の駅鹿嶋

学生たちはこの後、有明海の海産物を加工・販売する同市の川田食品を訪問。ワラスボヤムツゴウを使った商品開発に力を入れていることなどを聞いた。同社から「若者の柔軟な発想で新しい商品開発を」と提案もあり、授業の中で取り組むことにした。（谷口伸二）

として地域に学び、活性化を考える「コミュニティ・キャンパス佐賀」事業の一環。大学で学んだことを地域社会に生かす科目「地域環境保全と社会」の受講生約20人が参加した。

■サガ・ライトファンタジーへの参画

2015/7/19 佐賀新聞

佐賀市 建築や都市デザインを学ぶ「サガ・ライトファンタジー」のグループが「タシ」に向け、電飾デザイン案を検討

車座になって語りかけのアイデアを議論する学生たち「佐賀市鳥栖町のゆづろく庭」

電飾デザイン案を検討

サガ・ライトファンタジー 学生ら始動



佐賀市 建築や都市デザインを学ぶ「サガ・ライトファンタジー」のグループが「タシ」に向け、電飾デザイン案を検討する。12日、冬の佐賀市中心街を彩る「サガ・ライトファンタジー」に向け、電飾デザイン案を検討する。学生たちは4グループに分かれて現地を訪れ、電飾を取り付ける街路樹や橋の大きさなどを確認。バルーンやサカン鳥栖のマスケットなど、「佐賀らしさ」を前面に押し出したデザイン案を出し合った。学生たちはデザイン案を練り上げ、10月10、11日に電飾の取り付け作業を行い、同29日の点灯式に参加する。(村上天)

インを企画するチームを立ち上げた。学生約60人が同市白山の現地を視察してデザイン案を検討した。ライトファンタジーへの参加は、「地(知)の拠点整備事業」の一環。学生がまちの活性化に取り組むことで、市街地の現状と地域活性化の現場を学ぼうと3年前から参加している。

■まちなかの集合住宅のデザイン発表会

2015/8/8 佐賀新聞



「まちなかの集合住宅のデザイン発表会」の様子。写真：佐賀新聞

市中心街楽しい空間に

佐大生 集合住宅デザイン案

佐賀市 佐賀大学都市生活学系学生が、市内中心街のデザイン発表会が開かれた。学生らは、商業施設やアトリエつなぎのデザイン案を提示し、まちの活性化を促す。発表会には、まちづくり関係者や市民らも参加した。

佐賀市は、市内中心街の活性化を図るため、商業施設やアトリエつなぎのデザイン案を提示し、まちの活性化を促す。発表会には、まちづくり関係者や市民らも参加した。

佐賀市は、市内中心街の活性化を図るため、商業施設やアトリエつなぎのデザイン案を提示し、まちの活性化を促す。発表会には、まちづくり関係者や市民らも参加した。

■東よか干潟で自然観察会を実施

2015/9/23 佐賀新聞



東よか干潟で自然観察会が行われた。写真：佐賀新聞

東よか干潟で自然観察会

足跡採取や標本作製

佐賀市 佐賀大学の学生らによる自然観察会が、東よか干潟で行われた。足跡採取や標本作製が行われ、自然の観察が行われた。

佐賀市 佐賀大学の学生らによる自然観察会が、東よか干潟で行われた。足跡採取や標本作製が行われ、自然の観察が行われた。

「東よか干潟」は、かつては「東よか干潟」であり、現在は「東よか干潟」である。この干潟は、多くの鳥類の生息地であり、自然観察の場として活用されている。

■第2回AQUA SOCIAL FES!! 唐津市相知町蕨野地区での稲刈り

2015/9/27 佐賀新聞

蕨野の棚田風景守ろう

家族連れら稲刈り、植樹体験

唐津市相知でアクアフェス



稲刈りを終え、棚田の風景を楽しみながら棚田米のおにぎりや豚汁のふるまいを受ける参加者―唐津市相知町の蕨野の棚田

棚田や里山を保全、再生するプロジェクト「AQUA SOCIAL FES!!(アクアソーシャルフェス)」の2回目が26日、唐津市相知町の「蕨野(わらびの)の棚田」で開催された。県内外から参加した家族連れら約100人が稲刈りや植樹体験をし、日本の原風景を守り続ける大切さを再確認した。

唐津市相知 棚田や里山を保全、再生するプロジェクト「AQUA SOCIAL FES!!(アクアソーシャルフェス)」の2回目が26日、唐津市相知町の「蕨野(わらびの)の棚田」で開催された。県内外から参加した家族連れら約100人が稲刈りや植樹体験をし、日本の原風景を守り続ける大切さを再確認した。

稲刈りは、標高約300メートルにある枚の棚田(約700平方メートル)で体験した。そののヒノキを植えた参加者は、鎌で稲を一束ずつ丁寧に刈り取り、わらで結んで天日干しした。作業を終え、地元の人々が用意した棚田米のおにぎりや豚汁のふるまいを受けた。一帯は「日本の棚田百選」に選ばれていて、参加者は素晴らしい棚田の風景を楽しみながら、おいそくに味わっていた。

午後からは雑木を刈り取った山のり面に、ヤマザクラの苗50本も植えた。父親と鳥穂市から参加した6年前田舎の稲刈り体験をした顔写真「は稲刈りは初めてで楽しかった。おにぎりもおいしかった」と満足そうだった。

プロジェクトは佐賀新聞社が主催、NPO法人「蕨野の棚田を守る会」が共催し、トヨタ自動車の協賛、佐賀大学コミュニティ・キャンパスが推進する。協力で開いた「棚田を守ろう会」理

(88) 顔写真「は稲刈りは初めてで楽しかった。おにぎりもおいしかった」と満足そうだった。

(89) 顔写真「は稲刈りは初めてで楽しかった。おにぎりもおいしかった」と満足そうだった。

難者不足や災害時の復旧資金などが課題といひ、みんなが率先して作業してくれたので、我々も元気になった。名物の棚田米も知ってもらえたらと話していた。(古川浩司)



鎌を片手に、稲刈りに挑戦する参加者たち―唐津市相知町の蕨野の棚田

稲刈りを終え、棚田の風景を楽しみながら棚田米のおにぎりや豚汁のふるまいを受ける参加者―唐津市相知町の蕨野の棚田

稲刈りは、標高約300メートルにある枚の棚田(約700平方メートル)で体験した。そののヒノキを植えた参加者は、鎌で稲を一束ずつ丁寧に刈り取り、わらで結んで天日干しした。作業を終え、地元の人々が用意した棚田米のおにぎりや豚汁のふるまいを受けた。一帯は「日本の棚田百選」に選ばれていて、参加者は素晴らしい棚田の風景を楽しみながら、おいそくに味わっていた。

午後からは雑木を刈り取った山のり面に、ヤマザクラの苗50本も植えた。父親と鳥穂市から参加した6年前田舎の稲刈り体験をした顔写真「は稲刈りは初めてで楽しかった。おにぎりもおいしかった」と満足そうだった。

プロジェクトは佐賀新聞社が主催、NPO法人「蕨野の棚田を守る会」が共催し、トヨタ自動車の協賛、佐賀大学コミュニティ・キャンパスが推進する。協力で開いた「棚田を守ろう会」理

(88) 顔写真「は稲刈りは初めてで楽しかった。おにぎりもおいしかった」と満足そうだった。

(89) 顔写真「は稲刈りは初めてで楽しかった。おにぎりもおいしかった」と満足そうだった。

難者不足や災害時の復旧資金などが課題といひ、みんなが率先して作業してくれたので、我々も元気になった。名物の棚田米も知ってもらえたらと話していた。(古川浩司)

2015/11/6 西日本新聞

フットパス 魅力満載



小城市の石体集落を見学する佐賀大経済学部の戸田ゼミ生

ありのままの田園や町並みを散策し、地域の良さを再発見しようという活動「フットパス」が、過疎地の交流人口拡大の手だてとして注目されている。コースの設定に費用が掛からず、気軽に取り組めるのが特徴だ。普及に努めるフットパスネットワーク九州議長の井澤さん(64)は写真2を交えた講演と体験会が10月、小城市であり、一緒に歩いて魅力を探った。

九州議長の井澤さんと小城市を散策



さが探 2015

人の話の耳を傾けた。

「寄り道しながら自然や風景を五感で楽しむのがフットパス」と井澤さん。小

城市では狭い範囲をぶらぶらと歩いたが、美里町では

2・9キロの15コースを協会

発行の地図を頼りに散策し

ているという。

熊本県中部の美里町は

ス治いの住民が「緩歩カフ

二」を開くなど、地域に

町域の約8割が山地で人口

約1万人、急激な人口減少

11年、井澤さんから住民有

志は首都圏で広がっていた

フットパスに着目した。

韓国・済州島発祥のトレ

ッキング「オルレ」の導入

い」と井澤さんは話す。

も検討した。しかし、オル

レはコースの半分以上が未

舗装で距離が15キロ以上多

額の初期投資が必要など、

その条件が壁となり、断念し

た。その点、フットパスは

費用もかからず、どこでも

できる。井澤さんは「むし

作りが進んでいる。

九州では福岡県の中間市

や福津市、大分県宇佐市な

ども、住民団体や自治体

が主体となってフットパス

に取り組み、県内では伊万

里市と吉野ヶ里町でコース

作りが進んでいる。

ありのままの町並み歩く

井澤さんは熊本県美里町 講演に先立ち、井澤さん
の美里フットパス協会の副 是ゼミの学生や一般参加者
会長も務める。佐賀大経済 約2人と一緒に小城市公園を
学部の戸田順一郎准教授 約1時間かけて散策した。
(4)経済地理学Ⅱのゼミ 季節の植物や葉陰の虫を見
が先進地に学ぼうと10月3 つけるたびに足を止め、点
日、小城市に招いた。 在する石碑の前では詳しい

伊万里市、吉野ヶ里町 コース設定進む

フットパス 日本フットパス協会(事務局・東京都
町田市)によると、歩行者用の小道を指す英語で、昔
ながらの風景を歩いて楽しむという活動。人々がゆ
つたりできる環境を整備し、地域の活性化を目指す。
19世紀の英国で、大地主が囲い込む私有地の通り抜け
を求める市民の通行権獲得運動に端を発した。国内で
は1990年代後半から、北海道や首都圏などで盛ん
になった。

町域の約8割が山地で人口 潤いをもたらす仕組みも整
約1万人、急激な人口減少 えた。
11年、井澤さんから住民有 昨年度のガイド付きウオ
志は首都圏で広がっていた キングの参加者は136
フットパスに着目した。 2人、1選本になると、フ
韓国・済州島発祥のトレ ープで歩く人も多押し寄
ッキング「オルレ」の導入 せるので実数はもっと多
い」と井澤さんは話す。 体験会を通じて「集落を
盛り上げたい」という住民の
熱意も感じた」という戸田
准教授。今後、住民説明会
を開き、地域と一緒にコー
(本山彦彦)

■「塩田津」まちづくりフォーラムの開催

2015/10/7 佐賀新聞

塩田津 町並みどう生かす

国の保存指定10年で集い



講演などを通じて、町並みの生かし方を探った記念フォーラム
＝嬉野市塩田町の中央公民館

船着き場再生を ■ 川の環境取り戻せ

嬉野市 国の重要伝統的建造物群保存地区に指定され、今年で10周年となる嬉野市塩田町の「塩田津」の記念フォーラムが3、4の両日、同市塩田町の中央公民館であった。都市工学や水環境の専門家による講演やワークショップを通じて、市民協働による町並みの生かし方を考えた。

嬉野市教委とNPO「塩

田津町並み保存会」が主催

し、2日間でのべ約180

人が参加した。講演では、

九州大学大学院の島谷幸宏

教授（河川工学）が、塩田

津町並み保存会とともに進

めている景観整備計画「川

と町並み夢ぷらん」につい

て説明した。

島谷教授は、7月に開い

たワークショップで出た住

民らの意見をもとに、「川

港らしい船着き場を再生す

る」「川に生き物が住める

環境を取り戻す」など、今

後のまちづくり案を紹介。

「地域住民が自ら考えて行

動することが大事。できる

ことから始めよう」と呼び

掛けた。また、学生が地域の女性らから教わって郷土料理「つつち汁」（塩田版のだけ汁）を作るなど、すでに実現した取り組みも紹介した。

フォーラム初日は、地域

の魅力を探し、バスで散策

した。佐賀大の後藤隆太郎

准教授（都市工学）や文化庁

文化財部の建造物担当者も

講演し、塩田津の10年間の

歩みや他の指定地区の事例

などを紹介した。地域住民

がそれぞれ自分ができるこ

とを話し合うワークショップ

もあった。（志垣直哉

九州沖縄シンポジウムIN佐賀2015開催

2015/11/3 佐賀新聞

佐賀市

地域活動を通じた学生の育成を考えるシンポジウムが10月31日、佐賀市の佐賀大本庄キャンパスであった。九州の大学や自治体の関係者約160人が参加。大学と地域の連携を、学生の教育や研究につなげる実例などが報告された。写真

パネルディスカッションで西九州大の井本浩之副学長は、地域と結びついた教育カリキュラムを導入したことで、社会人としての基礎力や学習意欲が高まった成果をデータで紹介。「地域への理解を促すためにも、取り組みの成果を数値化するなど客観的に示す必要がある」と話した。

鹿児島大の担当者は、地域に関するテーマを必修科目にする計画を示し、「大学で学ぶための基礎学力を養成するのが狙い」と説明した。佐賀大の五十嵐勉全学教育機構教授は「活動で得られる地域に対する愛着を、今後は住民に波及させることが求められる」と述べた。

佐賀大と西九州大は、地域と結びつきながら教育、研究、地域貢献を行う「地域の拠点整備事業」に取り組んでおり、シンポジウムはその一環で開いた。

大学と地域の連携活動探る

佐賀大でシンポジウム



唐津市七山地区で国際局(つぼね)の交流祭開催

2015/11/21 佐賀新聞

2015/11/24 佐賀新聞

あす観音の滝で交流祭

眼鏡供養や絶叫大声大会

唐津市 七山

食と開眼 イベント「国際局」

唐津市七山の観音の滝周辺で開かれる。自然豊かな七山へ足を運んでもらい、地域を盛り上げようと、地元



唐津市七山の観音の滝周辺で開かれる。自然豊かな七山へ足を運んでもらい、地域を盛り上げようと、地元

観音の滝周辺で留学生ら交流祭

唐津市 七山

食と開眼 イベント「国際局」

唐津市七山の観音の滝周辺で開かれ、海外からの留学生も参加し、ロールケーキ作りや、食い慣れ視力チェックイベントなどユニークな企画で盛り上がった。

観音の滝は約400年前、豊臣秀吉の御室となった大床局が滝の水で眼を洗い、眼病を治したという言い伝えが残っている。交流祭ではメガネの供養を行うほか、前日には言葉の初音のある樹木を植樹した。200以上のアルファベットの文字をあてる「視力チャレンジ大会」で、200以上のアルファベットを植樹した。唐津市七山の観音の滝周辺。



は、遠く離れた場所の文字をどくまで読み取れるかを競う視力チャレンジ大会、絶叫大声大会やロールケーキ作り競争など、当日参加できるユニークな企画を準備する。賞品や、米や野菜など七山の農産物を賞品として用意する。大学生もイベントの盛り上げに協力する。佐賀大の東南アジアからの留学生は国際交流舞台で各国の料理を振る舞い、熊本大の学生は局に扮した衣装を着て歌合戦をする。

イベントは県の「さが国際チャレンジャー交付金」を活用する。実行委員会副会長の豊岡啓三(55)は「地域から若者が盛り、3割くらいは高齢者。イベントを通して、若者が地域のため率先して活動してほしい」と話す。(古川浩司)

■赤ちゃんの抱っこ教室開催

2015/11/30 佐賀新聞

ひびの子育て×佐賀大学

赤ちゃん抱っこ教室
脳を締めて、包み込むように

佐賀大学医学部看護学科は9月、佐賀市興原町のまちなか活性化拠点「ぶら〜っと249」で「ママのための赤ちゃん抱っこ教室」を開いた。客観的に自分の抱っこを写真で確認し、同大看護学科の佐藤珠美教授が抱っこの仕方について講義した。

「重たいものを持ち上げる前に足の位置を考え、近づいて足をハの字に開き持ち上げる」「脳を締めて、

腕全体を使って赤ちゃんを包み込むように抱っこする」「片手抱っこをする時は、骨盤に乗せるように抱っこする」「5分以上同じ方向で抱いていると、トラブルが起こる危険性がある」などをアドバイスした。

佐賀市の江原亜希さん(34)は、「子どもが重くなり、抱っこし続けるのは腰痛がひどく苦痛に感じていたが、抱き方で全然違った。以前は抱っこしてもよく泣いていたが、指導後は眠ってしまうほどだったので、子どもも安心したのかな」と変化に驚いていた。初めての子育てでけんしょう炎になったという妊娠10カ月の参加者は、「子どもが生まれた後



抱っこを指導する佐賀大学の佐藤珠美教授(右)

はなかなか勉強できないので参加した。ちょっとでも思い出せたら」と話した。

サポート役として参加した看護科3年の上野明日香さん(21)は、「人形ではできなかったことが、実際には触れ合うことで、勉強する時のイメージもつきやすくなったし、月齢によって抱き方も違うことが分かった。お母さんが学ぶ機会を作ることが必要だと感じた」と今後を見据えた。文科省の「地(知)の拠点事業」

の一環で、地域志向教育研究経費の助成金で開催。

(西浦福紗)



抱き方の変化を見るために写真撮影する参加者と看護学生

■嬉野市塩田町で久間地区収穫祭を開催

2015/12/2 佐賀新聞

塩田町久間地区 野菜やコメ、エゴマ油…

特産品販売で地域活性化へ

地元有志が初イベント

嬉野市塩田町久間地区の活性化イベントが1月29日、同地区の農産物振興・加工所「豊ふぁー夢(卯津江豊産代表)であった。地元有志でつくるグループが佐賀大、西九州大の教授や学生の協力を得て初めて開催した、地元農産品・雑貨の販売コーナーをはじめ、ヒザ焼き体験ゲームなども楽しませながら、大勢の来場者でにぎわった。

会場では、五十嵐教授と安田教授が地方創生の活動や特産加工品開発の事例について講演形式で紹介。地域の農家が生産した野菜やコメ、エゴマ油をはじめ、周辺市町からもカレーや雑貨、天然酵母パンなどの販売ブースが並んだ。ヒザ焼き体験、餅つき、カキ焼きなどさまざまな催しでにぎわった。

イベントは特産品開発や交流拠点づくりを目指し、国の地方創生交付金を活用した。今後も大学と連携しながら取り組みを進めていく。卯津江代表は「久間地区にはエゴマやキクラゲなどを育てている人がいる。健康にいい特産品を見い出し、活性化につなげたい」と語る。

(志直重哉)



大学生からサポートを受けながらヒザ作り体験する子どもたち。嬉野市塩田町の「豊ふぁー夢」

広報関係

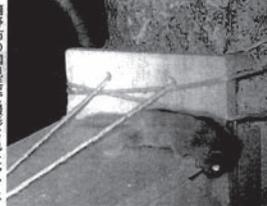
■国見岳で国の天然記念物ヤマネの生息確認

2015/12/23 西日本新聞

ヤマネ 国見岳にも生息

佐大・徳田准教授確認

（佐賀大の徳田准教授提供）



佐賀大農学部 徳田准教授（シ）ステム生薬学は22日、嬉野市の国見岳（標高816m）で、国の天然記念物で県の絶滅危惧種に指定しているヤマネの生息を新たに確認したと発表した。昨年8、11月には鹿島市や太良町の多良山系の3カ所で、県内では15年ぶりに生息が確認されていた。

県の絶滅危惧種 生息調査へ

ヤマネは苔中に伸びる黒い体毛が特徴で、体長約1センチほどしかない。日本固有種だが樹上生活で夜行性のため目に触れる機会は少ない。今回確認したのは国見岳中腹の市営瓜川原キャンプ場から南東2キロ付近、9～11月に集積と自動撮影カメラをカ所に設置したところ、ヤマネが集積箱を出入りする姿が記録された。調査は唐菜山（標高410m）や天山山系の八幡岳（同764m）でも実施したが確認できておらず、現在は黒髪山（同516m）で調査中という。九州のヤマネは本州に比べ、低い気温でも活動する

（佐賀大の徳田准教授は）「今後、佐賀のヤマネの生息についても詳しく調べたい」と話している。

（自松保穂）

■産後フォーラムの開催

2015/12/23 佐賀新聞

ママとパパが産後を語る「SUN-GOフォーラムさが」開催



産後の悩みや子育ての不安などを話し合う「ママとパパが産後を語る「SUN-GOフォーラムさが」開催

佐賀大学医学部母子看護学科講座は21日、出産を経験したママたちと支えたパパたち当事者の声を聞き、新たなサポートの可能性を考える「SUN-GOフォーラムさが～産後が変わる・産後が変わる～」を佐賀市兵庫のほほえみ館で開いた。ママやパパが産後で産後の経験をそれぞれの立場で赤裸々に語り、母子看護学科講座の先生が佐賀県産後のデータに基づいた産後の体の変化や産後健弱（けんじょう）弱について話した。

1部は産後を経験した4人のパパが登場。無意識で直感的に子育てに口を出し

てしまった時の妻の悪い反応にダメージを受けていることや、何をしてほしいかわからない。フレーズで指示してほしいと席を埋めたママたちに訴えた。2部のママ4人は、夜中の授乳中に泣いてしまったことや夫に伝えられず頑張りが足りたこと、出産の出血で貧血になり1年ほど通院していることなど、自身の産後エピソードを語った。

夫婦で参加したみやき町の原根大輔さんは「妻が夫に子育ての大変さを『言わない理由』もあったんだと、人の話を聞いて気づくこともあった」と話し、妻

の由記さんは「自分が元気じゃないと子どもを幸せにできないという話にすごく共感した。初産の時は、頑張ることが当たり前と思っていたので、自分の体調と向き合う機会がなかった。来月2人目を出産予定なので自分の体調を見ていかなきゃ」と次の出産に思いを寄せていた。

共催した「poco a poco（ポコ・ア・ポコ）」の寺野幸子代表は「普段は聞けない話も多くあり、今後も開催していきたい」と継続する意気込みを話した。 ※後日詳報する。

プロジェクトBの取り組みを学生の視点から紹介

地(知)の拠点

地(知)の拠点整備事業
佐賀大学と西九州大学は、佐賀県全域をキャンパスと位置付け、学生・教職員による実践的な教育研究を通じて、地(佐賀県)と知(教育研究)のアクティベーションを進めることで、佐賀の地における知の拠点としての機能強化を実現するため、両大学の教育・研究シーズを集約し、佐賀県域が抱える地域課題

題としての中心市街地・離島・山間地域の活性化、地域産業の振興とコミュニティの再生、地域医療・保健・福祉の向上、子どもの教育支援、高齢者の健康改善および地域環境の保全等の解決に向けた12の教育研究プロジェクトを推進しています。(文部科学省平成25年度採択事業)
このプロジェクトでの佐賀大学の取組を紹介します。

有明海学で学ぶ干潟の生態系と地域環境の保全

私は、インターフェース科目「有明海学」を受講しています。「有明海学」は、佐賀、長崎、福岡、熊本の4県に面している有明海について、詳しく調べたり、身近に感じたりすることで、その生物多様性や環境の大切さを学ぶ講義です。

「有明海学」は、主に内部活動、外部活動、課外活動と3つに分かれており、内部活動では、有明海について座学の授業で学びます。例えば、有明海の干



「有明海学II」における干潟の生物調査



「有明海学II」における野鳥観察の様子

潟には、どのような生物が生息しているのか、その生物は有明海の生物多様性においてどのような役割を果たし、関わっているのかなどを、写真や統計データを通して学んでいます。次に、外部活動では、実際に有明海の干潟に行き、前述の内部活動で学んだことを活かして、野鳥観察や干潟に生息する生物の観察・調査をしています。なかでも、一番興味を惹かれたのは、有明海の泥を採取して、その中に含まれているクロフィルの量を調べる実験でした。一見すると、底に沈んでいる泥と表面に浮かんでいる泥の違いはあまりないのですが、顕微鏡などの特殊な機材を使ってそれぞれの泥をミクロの世界で見ると、大きな違いがみられとても驚きました。

最後に課外活動とは、佐賀県内で行



「AQUA SOCIAL FES.」開催風景

われる有明海に関するイベントに自主的に参加する活動です。私は平成26年10月に佐賀新聞社が主催、本学が協力して開催した、AQUA SOCIAL FES. (以下AQUA) というイベントに参加しました。AQUAは自然保護や保全を目的とした地域社会員献イベントで、トヨタ自動車の協賛で各県で異なるテーマを設けて開催されています。佐賀県では、有明海の漂着ゴミから環境保全を考えるというテーマで、佐賀市東与賀町の干潟よか公園で行われました。イベントには、本学学生



お 尾 崎 北 斗
経済学部経済学科2年

や教職員、地域住民の方々と総勢100名程が参加し、干潟の生物観察や清掃活動を約2時間行いました。清掃活動で驚いたのは、ビンやカンなどのゴミの量はもちろんのこと、まだ使えそうな自分の体よりも大きいベンチが捨てられていたことでした。この活動への参加は、環境保全のための啓蒙活動をしていきたいと考え、良いきっかけになりました。

以上の3つの活動を通して、私の環境保全に対する考え方が180度変わりました。正直なところ、自然にはそれほど興味があったのですが、自然環境の保護に関してもっと密接に関わりたいと感じるようになりました。これから生活の中で、環境の大切さや自然からの恩恵を家族や友人などに広めたりすることで、学んだことを活かしていきたいです。

■学内広報関係

■広報誌「かちがらす」34号

プロジェクトCの取り組みを学生の視点から紹介

地知の拠点

地知の拠点整備事業

佐賀大学と西九州大学は、佐賀県全域をキャンパスと位置付け、学生教職員による実践的な教育研究を通して、地佐賀県域と知教育研究のアクティベーションを進めることで、佐賀の地における知の拠点としての機能強化を実現するため、両大学の教育研究シーズを集約し、佐賀県域が抱える地域課題

題としての中心市街地・鹿島・山間地域の活性化、地域産業の振興とコミュニティの再生、地域医療・保健・福祉の向上、子どもたちの教育支援、高齢者の健康改善および地域環境の保全等の解決に向けた教育研究プロジェクトを推進しています。(文部科学省平成25年度採択事業)
このプロジェクトでの佐賀大学の取組を紹介します。

共に学び合う「健康教室」



私は、1年生でヘルスプロモーション実習を受講し、そこから健康教室に参加し始めました。現在、佐賀大学で行われている健康教室には約150名の方が参加されていて、毎週1回、学生と二緒に楽しく運動を行っています。
健康教室は高齢者の方へ運動の機会を提供しています。教室の内容として



は、ストレッチ、筋トレ、リズムダンス、エクササイズ、ウォーキング、健康に関する講話などです。参加されている高齢者の皆さんは、運動に対する意識がとても高く、多くの方が教室で学んだことを家でも実践されています。運動のためだけでなく、学生や他の参加者との交流を楽しみに参加されている方も多くいます。
学生の活動は、1、2年生で主に運動前の血圧測定、ストレッチ、筋トレを担当します。4年生となった現在は、これ



までの経験を生かし、ストレッチ、筋トレ、ちよつとしたレクリエーションも計画するようになりました。また、鳥

栖や鹿島で行われている出張の健康教室に参加する機会が増えました。出張の健康教室は、小規模で行われますが、参加者の意識はとても高いです。
この健康教室を通して二番学べることがコミュニケーション力だと思っています。ただ教えるだけでは、参加者の皆さんも少し抵抗があります。ちよつとした声掛けを続けていくことで信頼関係ができてきます。会話のなかで先生の先輩としてのいろいろなことを教えて頂くこともあります。私は、人前で話すときに緊張することが多かったのですが、この健康教室に参加するうちに慣れてきました。この健康教室は学生、高齢者が共に学び合える場所だと思うので、これからも健康教室が活発になるように頑張っていきたいです。



う だ ま ゆ
文化教育学部人間環境課程
健康福祉・スポーツ選修4年

資料

コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト 運営委員会設置要項

(平成25年9月26日制定)

(設置)

第1 国立大学法人佐賀大学及び学校法人西九州大学に、地(知)の拠点整備事業(事業名称:コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト(以下「プロジェクト」という。))の実施に関し、必要な事項を審議するため、コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

(審議事項)

第2 運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) プロジェクト実施に関する企画の立案及び推進に関すること。
- (2) プロジェクトの予算管理に関すること。
- (3) 自治体等との連携の推進に関すること。
- (4) プロジェクトの自己点検評価に関すること。
- (5) その他プロジェクトの実施に関する事項

(組織)

第3 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 佐賀大学理事のうち佐賀大学長が指名した者 1人
- (2) 西九州大学理事のうち西九州大学長が指名した者 1人
- (3) 佐賀大学における事業実施責任者
- (4) 西九州大学における事業実施責任者
- (5) 佐賀大学におけるプロジェクト実施責任者
- (6) 西九州大学におけるプロジェクト実施責任者
- (7) 佐賀大学全学教育機構専任教員のうち佐賀大学長が指名した者 若干人
- (8) 西九州大学グループ地域連携センター教員のうち西九州大学長が指名した者 若干人
- (9) コミュニティ・キャンパス佐賀コーディネーター
- (10) 佐賀大学社会連携課長
- (11) 西九州大学センター事務長
- (12) その他第5第1項に規定する委員長が指名した者 若干人

(任期)

第4 第3第5号から第8号まで及び第12号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

2 第3第5号から第8号まで及び第12号の委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5 運営委員会に委員長を置き、第3第1号の委員をもって充て、副委員長は第3第3号及び第4号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代行する。

(議事)

第6 運営委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決をすることができない。

ただし、やむを得ない理由により出席ができない場合にあっては、代理者の出席を認め、その者を委員に代えることができる。

2 議事は、出席した委員の3分の2以上の多数をもって議決する。

(委員以外の者の出席)

第7 運営委員会が必要と認めるときは、運営委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(部会)

第8 運営委員会に必要なに応じて部会を置くことができる。

2 部会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第9 運営委員会の事務は、佐賀大学事務局関係各課及び西九州大学グループ地域連携センターの協力を得て、佐賀大学学術研究協力部研究協力課が行う。

(雑則)

第10 この要項に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し、必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

1 この要項は、平成25年10月1日から実施する。

2 この要項実施後、最初に選出される第3第5号から第8号まで及び第10号の委員の任期は、第4第1項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

附 則(平成26年6月30日改正)

この要項は、平成26年6月30日から実施する。

附 則(平成27年10月1日改正)

この要項は、平成27年10月1日から実施する。

■コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト運営委員会

〈佐賀大学〉

平成27年10月1日

部 局	職 名	氏 名
理事(研究・社会貢献担当)	副 学 長	門 出 政 則
全学教育機構	教 授	五 十 嵐 勉
文化教育学部	教 授	井 上 伸 一
経済学部	准 教 授	戸 田 順 一 郎
医学部	教 授	杉 岡 隆
工学系研究科	教 授	三 島 伸 雄
(農) 附属アグリ創生教育研究センター	副 セ ン タ ー 長	上 埜 喜 八
全学教育機構	准 教 授	郡 山 益 実
全学教育機構	教 授	諸 泉 俊 介
全学教育機構	講 師	山 内 一 祥
社会連携課	コ ー デ ィ ネ ー タ ー	三 島 舞
社会連携課	課 長	木 塚 徳 男

〈西九州大学〉

部 局	職 名	氏 名
理事(社会貢献担当)	副 学 長	井 本 浩 之
健康栄養学部	教 授	柳 田 晃 良
健康福祉学部	教 授	酒 井 出
健康栄養学部	教 授	安 田 み どり
リハビリテーション学部	准 教 授	上 城 憲 司
健康福祉学部	講 師	岡 部 由 紀 夫
地域連携センター	コ ー デ ィ ネ ー タ ー	土 橋 真 奈 美
地域連携センター	コ ー デ ィ ネ ー タ ー	徳 安 優 一
センター事務室	事 務 長	中 島 哲 男

■コミュニティ・キャンパス佐賀 推進会議設置要項

(平成25年11月15日制定)

(設置)

第1 地(知)の拠点整備事業(事業名称:コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト)の実施に関し、必要な事項を協議するため、コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議(以下「推進会議」という。)を置く。

(協議事項)

第2 推進会議は、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 地域のニーズに対応した教育研究の推進に関すること。
- (2) 地域と大学間の積極的な連携・対話の推進に関すること。
- (3) その他プロジェクトの実施に関する事項

(組織)

第3 推進会議は、次に掲げる機関の担当者をもって構成する。

- (1) 佐賀県
- (2) 佐賀市
- (3) 神埼市
- (4) 唐津市
- (5) 小城市
- (6) 鹿島市
- (7) 嬉野市
- (8) 吉野ヶ里町
- (9) 佐賀大学
- (10) 西九州大学

(11) その他第4第1項に規定する会長が指名した者 若干人

(会長)

第4 推進会議に会長を置き、構成員の互選により選出する。

- 2 会長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 3 会長は、推進会議を招集し、その議長となる。
- 4 会長に事故があるときは、あらかじめ会長が指名した構成員がその職務を代行する。

(構成員以外の者の出席)

第5 推進会議は、必要に応じ構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第6 推進会議に関する事務は、佐賀大学事務局関係各課及び西九州大学グループ地域連携センターの協力を得て、佐賀大学学術研究協力部社会連携課が行う。

(雑則)

第7 この要項に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は、推進会議が別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成25年11月15日から実施する。
- 2 この要項の実施の際、現に会長の職にある者の任期は、第4第2項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

附 則(平成27年10月1日改正)

この要項は、平成27年10月1日から実施する。

■コミュニティ・キャンパス佐賀 推進会議委員名簿

平成27年12月1日

所 属	職 名	氏 名
佐賀県	政 策 監 グ ル ー プ	中 島 健 二
佐賀市	企画調整部 企画政策課	豆 田 仁
神崎市	総務企画部 企画室	中 島 勝 利
唐津市	企画政策課(交流協定担当者)	牛 草 和 人
小城市	企 画 政 策 課	熊 谷 郁 子
鹿島市	総務部 企画財政課	木 原 智 典
嬉野市	総務企画部 企画政策課	中 島 美 咲
吉野ヶ里町	企 画 課	直 塚 政 浩
佐賀大学	工 学 系 研 究 科 教 授	三 島 伸 雄
西九州大学	副 学 長	井 本 浩 之
一般社団法人ユニバーサル人材開発研究所	代 表 理 事	大 野 博 之
佐賀大学	全 学 教 育 機 構 教 授	五 十 嵐 勉

(関係者)

西九州大学	コ ー デ ィ ネ ー タ ー	土 橋 真 奈 美
西九州大学	コ ー デ ィ ネ ー タ ー	徳 安 優 一
西九州大学	事 務 長	中 島 哲 男
佐賀大学	特 任 准 教 授	畑 中 寛
佐賀大学	コ ー デ ィ ネ ー タ ー	三 島 舞
佐賀大学	教 務 課 長	松 尾 訓
佐賀大学	社 会 連 携 課 長	木 塚 徳 男
佐賀大学	社 会 連 携 課 係 長	北 島 秀 俊
佐賀大学	社 会 連 携 課	園 田 浩 之
佐賀大学	事 務 補 佐 員 (経 理)	永 石 瑞 穂
佐賀大学	事 務 補 佐 員 (教 務)	内 川 藤 代

編集後記

地（知）の拠点整備事業
コミュニティ・キャンパス佐賀
アクティベーション・プロジェクト

コーディネーター **三島 舞**



事業開始3年目となった平成27年度は、各プロジェクトにおいて教育・研究・社会貢献の積極的な取り組みが行われるとともに、西九州大学との連携事業もさらに進展した。学生は、地域でのアクティブ・ラーニングによる学修を経て、地域についての知識が深まると同時に、地域活動で地域の方々に必要とされることで自信がついてきたように思える。学部2年生から継続して2年間履修するインターフェース科目の受講生は、2年間でしっかりと顔つきになりたくましく成長していた。地域の方々に支えられながら、学生の成長を励みに、来年度も事業に邁進したい。

平成27年度
地(知)の拠点整備事業
コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト

成果報告書

平成28年3月31日発行

発行 国立大学法人 佐賀大学
学術研究協力部社会連携課
〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1番地
TEL:0952-28-8958
FAX:0952-28-8186
HP <http://www.ccsap.saga-u.ac.jp/>

企画・編集 コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト推進室
デザイン・印刷 福博印刷株式会社

本書に掲載されている写真及び記事の無断転載、複写・複製を禁止します。